

---

---

平成 19 年度  
福岡市高齢者実態調査の概要

---

---

平成 20 年 4 月  
福岡市保健福祉局



# < 目 次 >

## I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 回答結果	1
4. 資料の見方	2

## II 調査結果

### 第1章 高齢者一般調査

1. 回答者の属性	3
(1) 性別、年齢	3
(2) 世帯構成	4
2. 日常生活	5
(1) 外出について	5
(2) 近所付き合い	7
(3) 心配ごとや悩みごと	8
(4) 心配ごとや悩みごとの相談先	8
(5) 見聞きした虐待について	9
3. 健康・福祉	10
(1) 健康状態	10
(2) 健康のために気をつけていること	10
(3) 特定高齢者候補者	11
(4) 健康について知りたいこと	13
(5) 認知症について知りたいこと	13
4. 健康・福祉サービス	14
(1) 今後受けたいサービス	14
(2) 地域包括支援センターの利用（相談）	15
(3) 地域包括支援センターを利用（相談）していない理由	16
(4) 地域包括支援センターで今後利用（相談）したい内容	16
5. 仕事	17
(1) 就労状況	17
(2) 仕事をしている理由	18
(3) 今後の仕事の意向	18
6. 社会参加・生きがい	19
(1) 生きがいを感じることに	19
(2) 社会活動をするために必要なことに	19

(3) ボランティア活動について	20
7. 介護保険制度全般	24
(1) 介護保険制度ができてよくなったこと	24
(2) 介護保険制度について不満に思うこと	25
(3) 今後の介護意向	26
(4) 行政への要望	27

## 第2章 介護保険サービス共通設問

1. 回答者の属性	28
(1) 性別、年齢	28
(2) 世帯構成	29
(3) 行き来のある親族の居場所	29
(4) 要介護度	30
(5) 要介護状態になった主な原因	31
2. 保険・福祉サービス	32
(1) 地域包括支援センターの利用（相談）の有無	32
(2) 地域包括支援センターを利用（相談）していない理由	33
(3) 地域包括支援センターの利用意向	33
3. 介護保険制度全般	34
(1) 介護保険制度全体の満足度	34
(2) 介護保険制度ができてよかったこと	35
(3) 介護保険制度の不満点	36
(4) 介護サービス事業者を選ぶときに重視すること	37
(5) 介護や福祉サービスなどの相談先	38
4. 介護者	39
(1) 主な介護者	39
(2) 主な介護者の状況	39
(3) 主な介護者の年齢	40
(4) 今後の介護の仕方	40
(5) 在宅で介護を続けるために必要性が高いサービス	41
(6) 在宅で介護を続けるために必要な支援	41

## 第3章 在宅サービス利用者調査

1. 介護予防サービス・介護保険サービスについて	42
(1) 介護予防・介護保険サービス内容の満足度	42
(2) 介護予防・介護保険サービスの不満点	43
(3) 介護予防サービスの効果	44
2. 今後の介護について	45
(1) 今後、どのように介護を受けたいか	45
(2) 在宅生活に必要なサービス	46

## 第4章 在宅サービス未利用者調査

1. 日常生活の支援を受けている人	47
2. 介護保険サービスの利用について	48
(1) 在宅サービスを利用していない理由	48
3. 在宅で生活する上で困っていること	49
4. 今後の介護サービスの利用について	50

## 第5章 施設等サービス利用者調査

1. 回答者の特性	51
(1) 施設の種類	51
(2) 日頃から係わりのある親族のいる場所	52
(3) 施設等を希望した理由	53
2. 外泊について	54
(1) 外泊の頻度	54
(2) 外泊する際に必要と思うもの	54
3. 施設等を選ぶときに、重視する点	55
4. 現在の施設等の満足度	56
5. 充実させてほしいこと	57

## 第6章 介護支援専門員調査

1. 回答者の属性	58
(1) 性別、年齢	58
(2) 専門員歴	59
(3) 介護支援専門員以外の取得資格	60
(4) 勤務形態・兼務内容	61
2. ケアマネジメントについて	62
(1) 給付管理件数	62
(2) 保険外サービスを組み合わせたケアプラン状況	63
(3) 保険外サービスの種類	63
(4) 在宅での生活が困難なケースの状況・内容	64
(5) 計画作成上利用しにくいサービス	65
(6) 計画作成上過剰なサービス	66
(7) 計画作成上不足するサービス	67
(8) 事業所紹介の際に重視する点	68
(9) 介護予防マネジメントの効果の有無・その理由	69
3. 処遇困難事例などへの対応について	70
(1) 処遇困難な事例の状況	70
(2) 高齢者虐待の事例	71
(3) 高齢者虐待の事例の内容	71

4. 資質向上の取り組みについて	72
(1) 行っている取り組み	72
(2) 今後行ってみたい取り組み	72
5. 行政の役割について	73
(1) 今後、行政に期待する役割	73
(2) 需要に対して不足しているサービス基盤	74

## I 調査の概要

## 1. 調査の目的

福岡市に在住する高齢者などの保健福祉に関するニーズ・意識などを把握することにより、「福岡市高齢者保健福祉計画」の策定に必要な基礎的データを収集・分析するとともに、本市の高齢者福祉施策の向上に資することを目的とする。

## 2. 調査の概要

調査種別	調査対象者	調査票発送日	調査票回収
高齢社会に関する調査	高齢者一般調査 5,000人 市内在住の60歳以上の方から無作為に抽出	平成19年 10月1日	～平成19年 11月16日 郵送回収
	在宅サービス利用者調査 5,000人 市内在住の要介護認定者のうち、平成19年6月中に介護保険の在宅サービスを利用した方から無作為に抽出 ※第2号被保険者(40～64歳)含む	平成19年 10月16日	
	在宅サービス未利用者調査 3,000人 市内在住の要介護認定者のうち、平成19年6月中に介護保険の在宅サービスの利用がなかった方から無作為に抽出 ※第2号被保険者(40～64歳)含む		
	施設等サービス利用者調査 1,500人 介護保険施設(介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設)やグループホームに平成19年6月時点で入所中の方から無作為に抽出 ※第2号被保険者(40～64歳)含む		
介護支援専門員調査 865人 福岡市内の居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員(悉皆調査)	平成19年 10月1日		

## 3. 回収結果

調査の種類	配布数	回収数 (回収率)	有効回答数 (有効回答率)	
高齢社会に関する調査	高齢者一般調査	5,000	3,235 (64.7%)	3,161 (63.2%)
	在宅サービス利用者調査	5,000	3,073 (61.5%)	2,983 (59.7%)
	在宅サービス未利用者調査	3,000	1,633 (54.4%)	1,543 (51.4%)
	施設等サービス利用者調査	1,500	1,122 (74.8%)	1,037 (69.1%)
介護支援専門員調査	865	473 (54.7%)	471 (54.5%)	

回収された調査票から白紙や記入不完全のものを除いた有効票のみを集計に使用している。

## 4. 資料の見方

- ① 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、合計が 100%にならない場合がある。
- ② 比率は各質問の「回答数」を基数 (N) として算出 (N=100%として算出) している。
- ③ 複数回答が可能な設問においても、比率算出の基数は「回答数」とし、該当する選択肢に○印をつけた方が全体から見て何%なのかという見方をした。したがって、各選択肢の比率を合計すると 100%を超える場合がある。
- ④ 表・グラフの見出しでの回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- ⑤ グラフ内の数値の単位はすべて%である。
- ⑥ 高齢者一般調査の中で、経年比較の参考「高齢者のみの世帯」とは、対象者本人が 65 歳以上かつ世帯構成で「一人暮らし世帯」、「夫婦二人暮らし世帯 (夫婦ともに 65 歳以上)」、「あなたとその他の高齢者 (65 歳以上の方) のみの世帯」となっている。

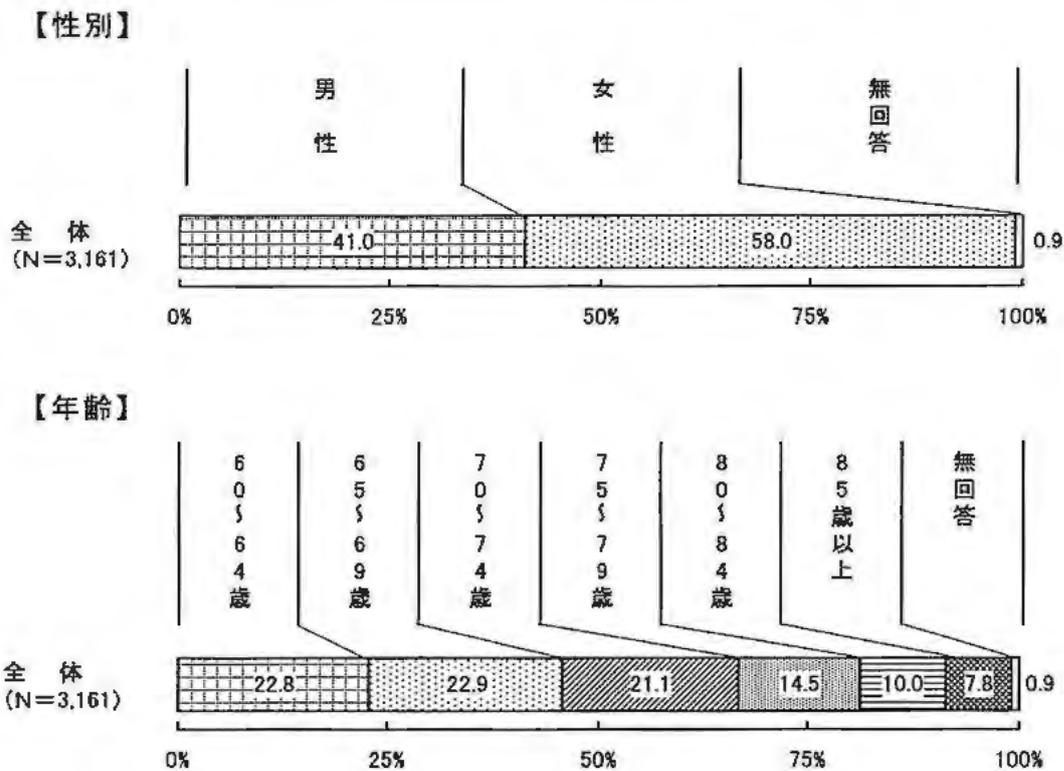
# 第1章 高齢者一般調査

## 1. 回答者の属性

### (1) 性別、年齢

問 あなたの性別は。

問 あなたの年齢は。(平成19年10月1日現在)



回答者は「男性」41.0%、「女性」58.0%とほぼ4：6の割合となっている。

『65歳以上』の高齢者は76.3%で、そのうち『75歳以上』の後期高齢者は32.3%とほぼ3分の1となっている。

(2) 世帯構成

問 あなたのご家族の状況は。(○は1つ)

【世帯構成】(経年比較)

		(%)									
		回答数	ひとり暮らし世帯	夫婦だけで、二人とも65歳以上の世帯	夫婦だけで、どちらかが65歳以上の世帯	夫婦だけで、二人とも65歳未満の世帯	あなたとその他の高齢者のみ(65歳以上の方)の世帯	二世帯同居世帯(65歳未満の方がいる世帯)	三世帯同居世帯(65歳未満の方がいる世帯)	その他の世帯	無回答
全体		3,161 100.0	585 18.5	914 28.9	286 9.0	189 6.0	93 2.9	604 19.1	139 4.4	288 9.1	63 2.0
経年比較	平成16年度	2,722	17.0	41.6			2.5	20.7	6.1	10.7	1.2
				61.1				37.5			
	平成13年度	2,881	19.1	40.8			5.0	18.7	3.0	11.4	1.9
				64.9				33.1			
	平成10年度	12,546	18.3	39.9			3.3	36.4			2.1
				61.5							
み高齢者の世帯	平成19年度	1,455	33.1	62.7	/		4.3	/		-	
	平成16年度	1,125	33.9	61.4			4.7			-	

世帯構成は「夫婦だけで、二人とも 65 歳以上の世帯」が 28.9%で最も多く、次いで「二世帯同居世帯」(19.1%)と「ひとり暮らし世帯」(18.5%)が 19%前後で同程度となっている。

65 歳以上の高齢者のみの世帯に該当する人は 1,455 人で、「ひとり暮らし世帯」は 33.1%となっている。前回調査の高齢者のみの世帯の割合は 41.3%で、今回調査では 46.0%と前回よりも増加している。

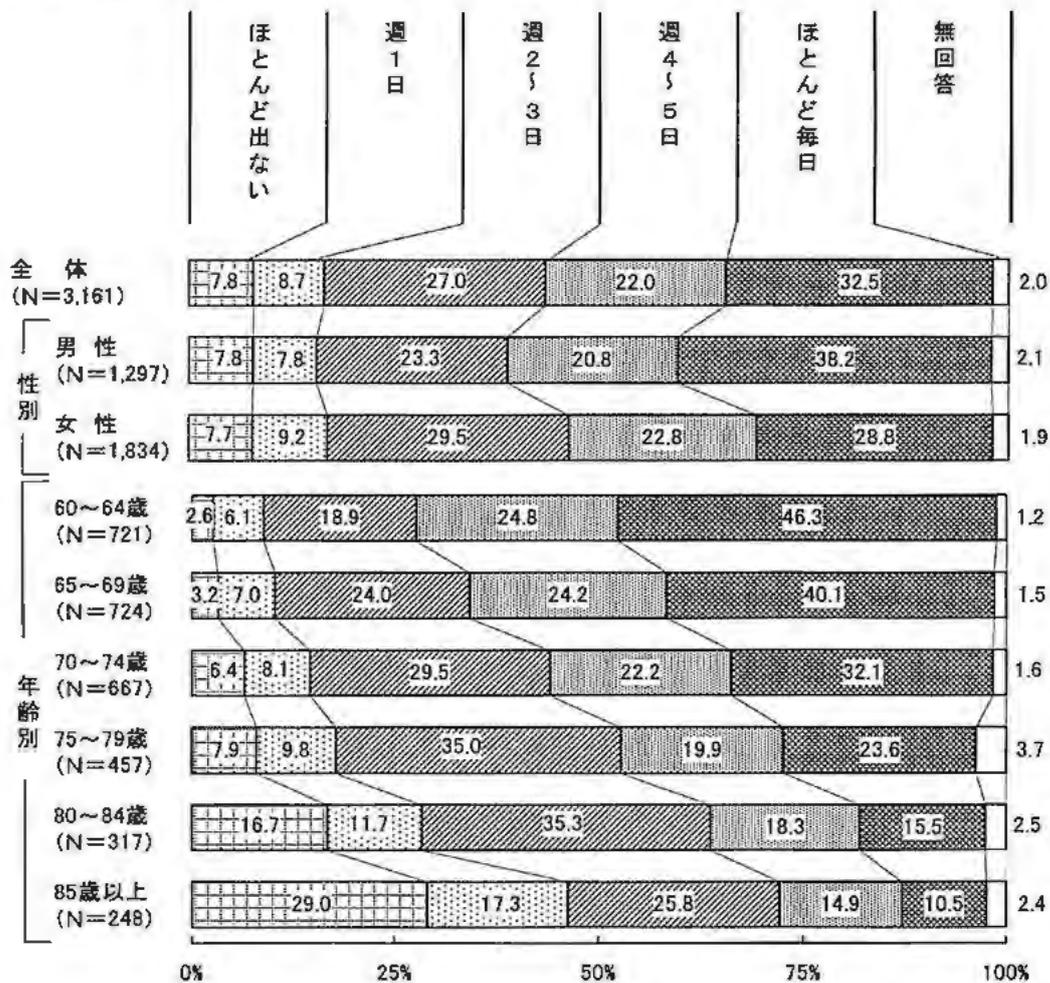
2. 日常生活

(1) 外出について

① 外出の日数

問 外出の日数について。(〇は1つ)

【外出の日数×性別・年齢別】



外出の日数は、「ほとんど毎日」が32.5%と最も高くなっている。

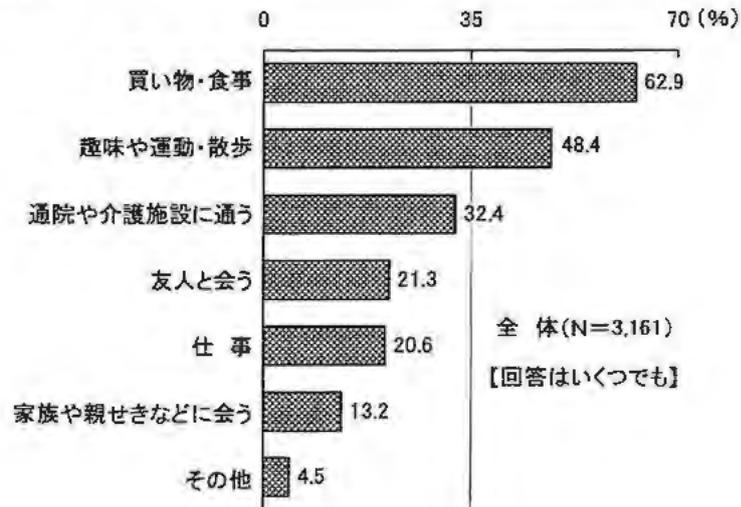
性別にみると、男性の方が「ほとんど毎日」外出する人が多い。

年齢別にみると、年齢があがるにしたがい外出の日数は減少しており、85歳以上では「ほとんど出ない」が29.0%となっている。

② 外出の目的

問 外出の目的は。(〇はいくつでも)

【外出の目的】

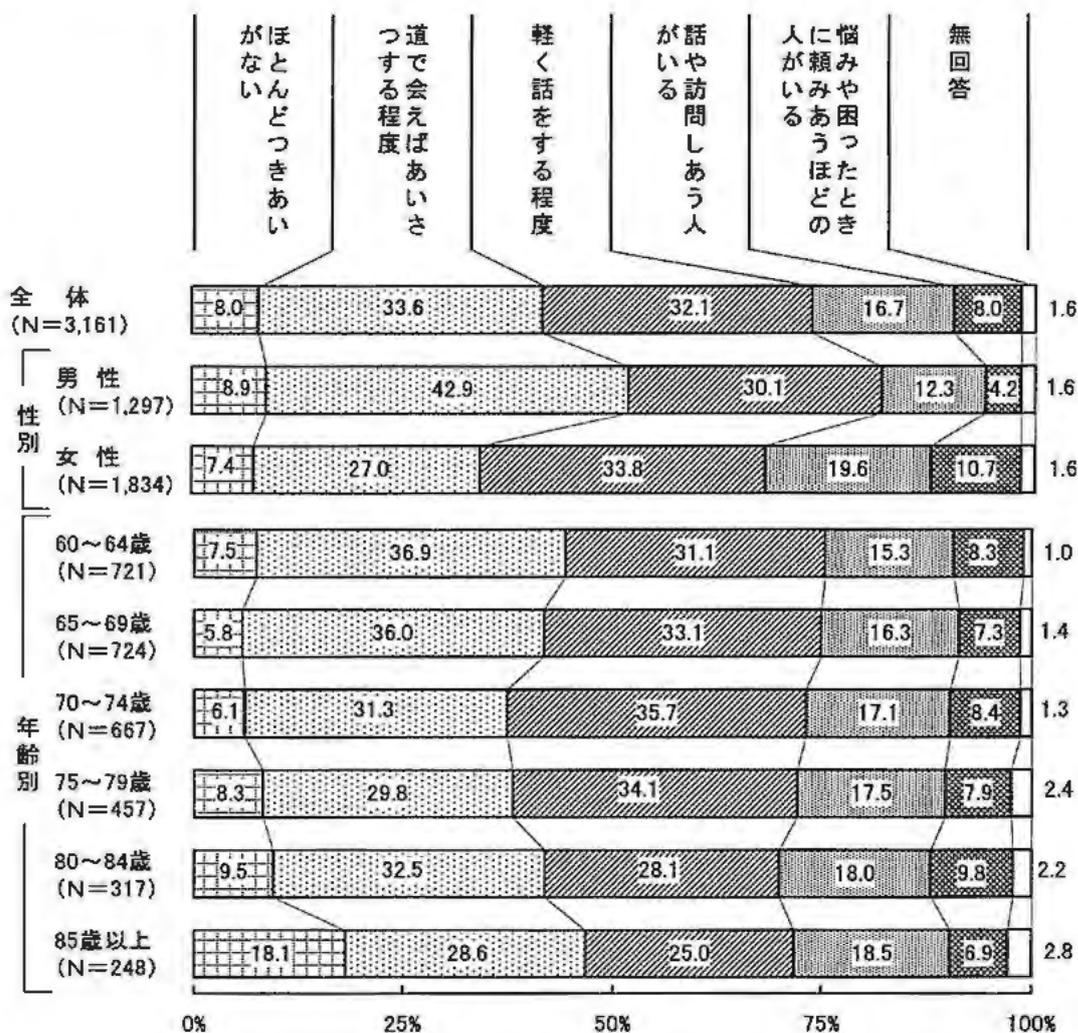


外出の目的は「買い物・食事」が62.9%で最も高く、次いで「趣味や運動・散歩」が48.4%となっている。

## (2) 近所付き合い

問 ご近所との付き合いで最も近いものに○をつけてください。(○は1つ)

【近所付き合い×性別・年齢別】



近所づきあいの程度は「ほとんどつきあいが無い」(8.0%)と「道で会えばあいさつする程度」(33.6%)を合わせて41.6%の人は近所付き合いが少ない。反対に「話や訪問しあう人がいる」(16.7%)と「悩みや困ったときに頼みあうほどの人がいる」(8.0%)を合わせた近所付き合いが多い人は24.7%となっている。

性別にみると、男性は「道で会えばあいさつする程度」の付き合いが最も高く、女性よりも近所付き合いが少ない人が多い。

### (3) 心配ごとや悩みごと

問 あなたは、現在、心配ごとや悩みごとがありますか。(〇はいくつでも)

【心配ごとや悩みごと】(経年比較)

		回答数	自分の健康状態	家族の健康状態	家族との関係	住宅関係	仕事関係	生活費	日常的なお金の管理	財産関係	近所の人間関係	近所の生活環境	趣味がない	家事・介護などの日常生活	将来が不安	その他	特にない	無回答
全体		3,161 100.0	1,649 52.2	959 30.3	194 6.1	213 6.7	133 4.2	575 18.2	61 1.9	65 2.1	72 2.3	89 2.8	168 5.3	195 6.2	840 26.6	59 1.9	666 21.1	81 2.6
経年比較	平成16年度	2,722	47.4	29.5	7.1	7.2	5.2	15.7	2.2	1.8	2.8	3.2	5.9	4.4	20.8	1.9	26.0	2.5
	平成13年度	2,881	47.4	27.5	5.4	6.2	5.6	12.6	0.9	1.3	2.2	2.3	3.9	4.2	18.6	3.1	28.0	2.7
	平成10年度	12,546	51.0	27.3	6.2	5.3	2.4	10.2	*	1.5	2.1	2.5	3.8	5.2	15.4	1.5	25.3	7.1
み高齢者の世帯	平成19年度	1,455	56.2	32.4	5.6	6.3	1.8	18.2	1.7	2.2	2.0	2.5	4.6	7.3	27.4	1.4	19.4	2.5
	平成16年度	1,125	51.4	30.5	5.4	7.6	3.4	15.0	2.0	1.8	2.8	4.0	5.9	5.5	19.7	1.6	23.8	2.5

\*選択肢を設けていない

心配や悩みごとは「自分の健康状態」が 52.2% で最も高く、次いで「家族の健康状態」(30.3%)、「将来が不安」(26.6%) などとなっている。  
 経年比較でみると、「将来が不安」や「生活費」が平成 10 年度の調査から徐々に増加する傾向にある。

### (4) 心配ごとや悩みごとの相談先

問 あなたは、心配ごとや悩みごとについて誰に相談していますか。(〇はいくつでも)

【心配ごとや悩みごとの相談先】(経年比較)

		回答数	家族や親族	友人や知人、近所の人	民生委員・児童委員など	保健福祉などの窓口	(ケアマネジャー・介護支援専門員)	介護サービス事業者	医師、病院、医院などの	その他	相談相手がいない	相談するほどの心配はない	無回答
全体		3,161 100.0	1,913 60.5	621 19.6	27 0.9	39 1.2	124 3.9	71 2.2	510 16.1	35 1.1	119 3.8	646 20.4	94 3.0
経年比較	平成16年度	2,722	64.9	18.6	1.0	1.8	3.0	1.8	12.2	1.2	2.9	21.0	2.7
	平成13年度	2,881	64.7	16.7	0.8	1.9	1.5	1.7	14.6	2.1	2.1	18.7	3.1
	平成10年度	12,546	67.1	16.0	2.0	1.6	*	*	23.1	0.7	2.1	14.0	7.4
み高齢者の世帯	平成19年度	1,455	60.0	20.6	1.5	1.6	4.3	2.1	19.9	1.0	3.4	18.9	3.0
	平成16年度	1,125	64.5	17.8	1.5	2.8	4.6	2.3	16.0	1.2	2.4	20.0	2.2

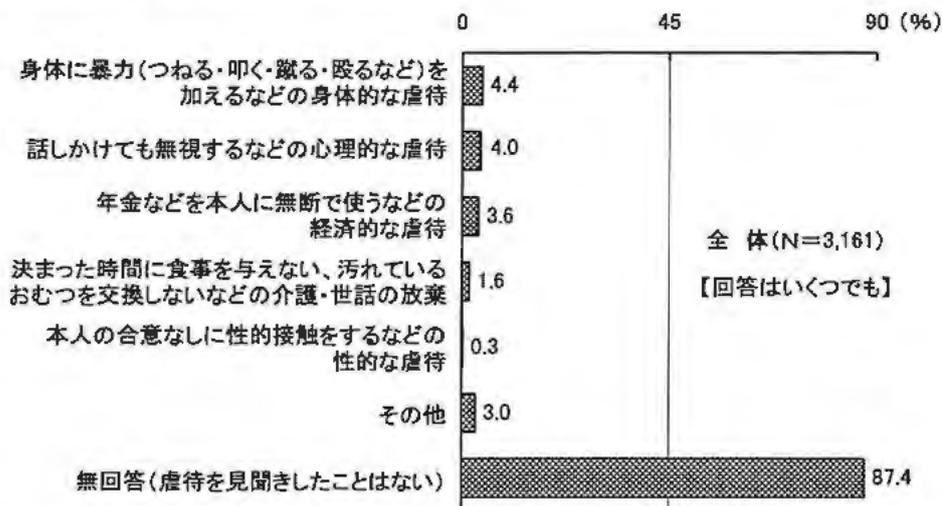
\*選択肢を設けていない

悩みや心配ごとの相談先は「家族や親族」が 60.5% で最も高くなっている。  
 平成 10 年度からの調査と比べて、「家族や親族」はわずかに減少し、「友人や知人、近所の人」の割合がわずかずつであるが増加している。また「病院、医院などの医師」は減少傾向から増加に転じている。

## (5) 見聞きした虐待について

問 平成18年4月から、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行されましたが、ここ1年の間に高齢者虐待（と思われる）を見たり、聞いたりしたことがありますか。それはどのような内容ですか。  
 （〇はいくつでも）

## 【見聞きした虐待について】



「無回答（虐待を見聞きしたことはない）」を除いた 12.6%の人が何らかの虐待を見聞きしている。

### 3. 健康・福祉

#### (1) 健康状態

問 あなたの現在の健康状態はいかがですか。最も近いものに○をつけてください。(○は1つ)

【健康状態】(経年比較)

		回答数	健康で、普通に生活している	出常が何ら	ない	出の中は	の何ら	体の上	ベッ	あ病	ベッ	あ病	無回答
			している	も生いは	い	は中では	の何ら	での上	ッ	あ病	ベッ	あ病	(%)
			している	も生いは	い	は中では	の何ら	での上	ッ	あ病	ベッ	あ病	(%)
全体		3,161 100.0	1,304 41.3	1,478 46.8	237 7.5	55 1.7	34 1.1	53 1.7					
経年比較	平成16年度	2,722	45.4	41.7	8.5	1.6	1.9	0.9					
	平成13年度	2,881	47.4	41.5	7.1	1.9	1.3	0.8					
	平成10年度	12,546	47.0	41.5	7.9	2.1	1.1	0.4					
み高齢者の世帯	平成19年度	1,455	33.4	53.7	8.6	1.6	1.2	1.4					
	平成16年度	1,125	37.1	52.0	7.4	1.2	1.5	0.9					

健康状態は「健康で普通に生活している」が 41.3%、「何らかの病気や障がいがあるが、日常生活は自立、外出も一人でできる」が 46.8%と合わせて 88.1%の人が自立した生活をしている。

#### (2) 健康のために気をつけていること

問 あなたは、ふだん健康のために、特に気をつけたり、行ったりすることがあります。か。(○はいくつでも)

【健康のために気をつけていること】(経年比較)

		回答数	規則正しい生活など	早寝、早起きなど	食事や栄養のバランス	酒や煙草の量	散歩	ウォーキング	スポーツ・運動	趣味や習い事	がいないように心配をとる	十分な睡眠・休養をとる	ビタミン剤や強壮剤などを飲む	健康診断などを定期的に受ける	地域の活動に参加する	なるべく外出する	その他	特になし	無回答
全体		3,161 100.0	1,318 41.7	1,827 57.8	308 9.7	949 30.0	551 17.4	512 16.2	726 23.0	543 17.2	1,275 40.3	545 17.2	1,355 42.9	348 11.0	832 26.3	50 1.6	152 4.8	49 1.6	
経年比較	平成16年度	2,722	40.2	55.9	13.0	29.1	15.6	14.0	22.2	21.5	47.1	18.9	37.5	10.9	24.8	1.0	7.3	1.8	
	平成13年度	2,881	35.7	57.9	10.7		41.5		20.9	17.7	43.0	*	*	*	*	2.4	11.5	1.7	
	平成10年度	12,546	39.6	60.2	11.8		47.3		24.1	18.0	45.6	*	*	*	*	2.4	5.6	1.6	
み高齢者の世帯	平成19年度	1,455	42.1	60.3	7.8	30.6	16.3	14.3	25.8	18.8	41.9	18.1	46.5	11.9	30.2	1.6	4.2	1.7	
	平成16年度	1,125	41.2	57.8	13.3	30.8	15.0	13.4	24.0	23.3	48.2	21.0	41.2	11.6	28.4	0.8	5.0	1.8	

\*選択肢を設けていない

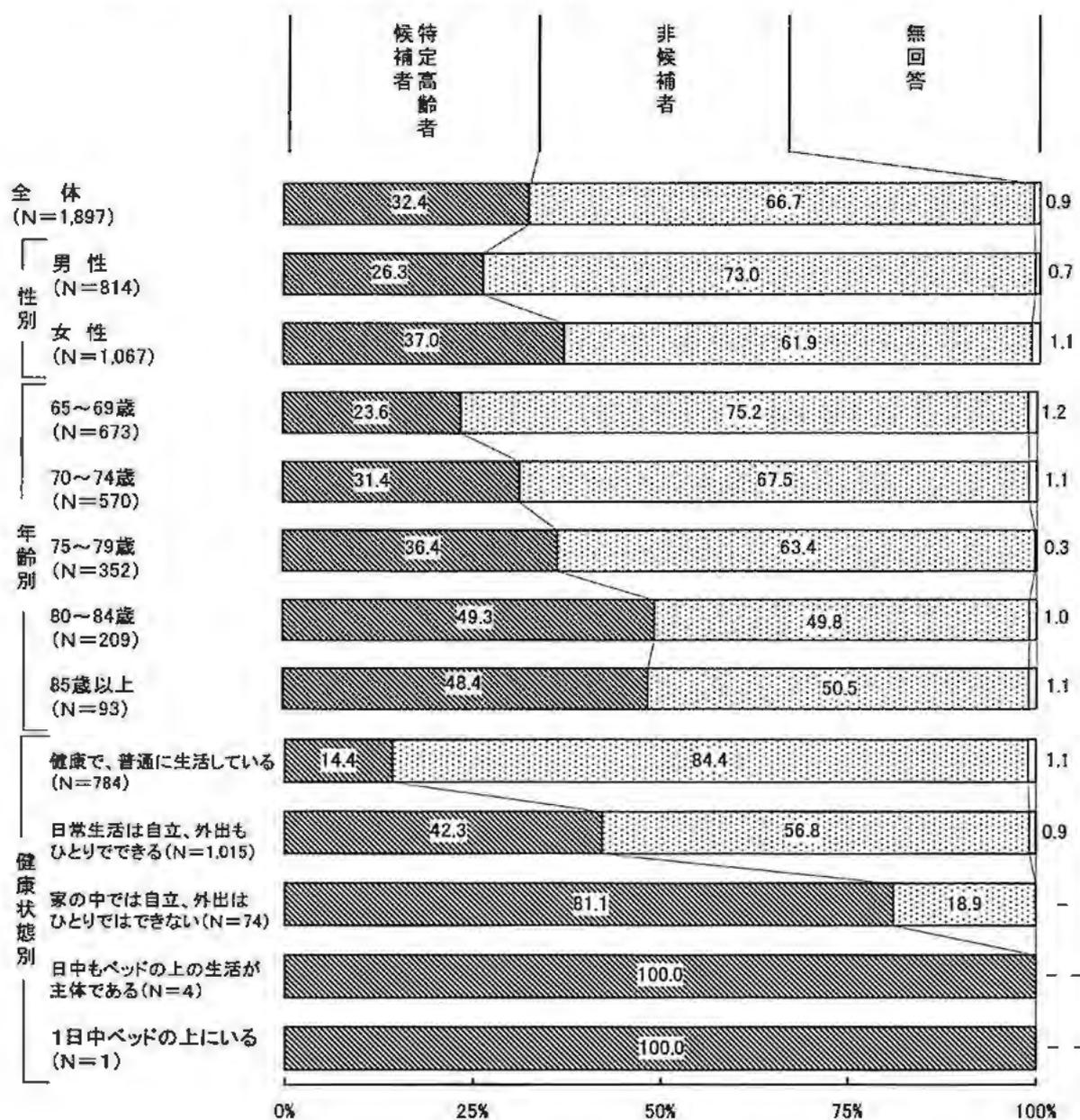
健康のために気をつけていることは「食事や栄養のバランス」が 57.8%で最も高く、次いで「健康診断などを定期的に受ける」(42.9%)、「早寝、早起きなどの規則正しい生活」(41.7%)、「十分な睡眠・休養をとる」(40.3%)などが4割台となっている。

経年比較では、前回調査よりも「健康診断などを定期的に受ける」は 5.4 ポイント増加している一方、「十分な睡眠・休養をとる」は 6.8 ポイント減少している。

(3) 特定高齢者候補者

問 あなたの生活状態について、次の1～25の項目ごとに当てはまるものにそれぞれ○をつけてください。(項目ごとに○は1つ)

【特定高齢者候補者×性別・年齢別・健康状態別】

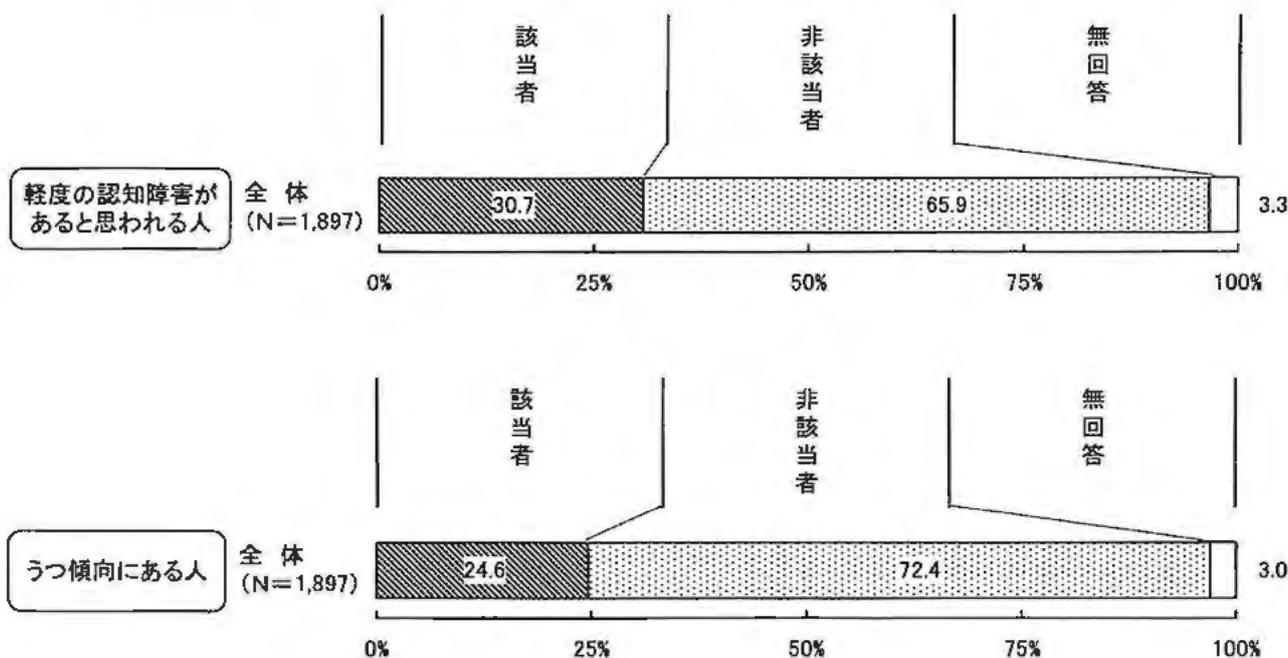


65 歳以上の高齢者で、現在要介護認定の申請をしていない、または非該当（自立）とされた人を対象に、25 項目からなる介護予防のための基本チェックリストに回答してもらった。運動器の機能の 5 項目中 3 項目以上で筋力の衰えがみられる方、栄養状態の 2 項目中いずれも低栄養の可能性のある方、口腔機能の状態の 3 項目中 2 項目以上で機能が低下している方、また普段の生活が自分で出来ない、外出頻度が少ない、物忘れがみられるなどを含む 10 項目以上に該当する方は特定高齢者候補者とした。

その結果、国が約 25%程度としている該当率は、1,897 人中 614 人で 32.4%となり、男性よりも女性に、また年齢があがるにしたがい特定高齢者候補者が多くなり、80 歳以上では約半数となっている。

健康状態別では、健康な人ほど特定高齢者候補者の割合は低くなり、健康で、普通に生活している人では 14.4%となっている。

【高齢者の心の健康づくりにおける予防・支援の対象】



また、高齢者の心の健康づくりにおいて予防・支援の対象となる、物忘れなどの 3 項目中 1 項目以上に該当した軽度の認知障害があると思われる人は、1,897 人中 583 人 (30.7%) で、生活に充実感がないや今まで楽しめたことが楽しめないなどの 5 項目中 2 項目以上に該当したうつ傾向にある人は、1,897 人中 467 人 (24.6%) となっている。

## (4) 健康について知りたいこと

問 健康についてどんなことを知りたいと思いますか。(〇はいくつでも)

## 【健康について知りたいこと】(経年比較)

		回答数	がんや高血圧、糖尿病など生活習慣病の予防について	望ましい食生活について	適度な運動について	精神・心の健康について	健診の受け方や内容について	歯の健康について	寝たきりの予防について	転倒予防について	認知症の予防について	その他	無回答
全体		3,161 100.0	1,212 38.3	792 25.1	714 22.6	590 18.7	302 9.6	338 10.7	427 13.5	365 11.5	1,075 34.0	40 1.3	618 19.6
経年比較	平成16年度	2,722	48.0	27.7	24.1	21.4	10.2	10.0	22.7	*	31.3	2.1	13.2
	平成13年度	2,881	39.7	25.8	22.9	16.2	5.9	8.0	16.5	*	23.0	8.5	14.3
	平成10年度	12,546	42.3	28.1	15.6	*	10.7	10.4	20.1	*	32.8	2.4	19.3
み高齢者の世帯	平成19年度	1,455	37.5	27.1	22.8	19.1	9.4	9.9	15.2	14.1	36.4	1.2	18.7
	平成16年度	1,125	47.3	30.3	22.7	22.2	9.7	9.9	24.6	*	31.1	2.0	12.0

\*選択肢を設けていない

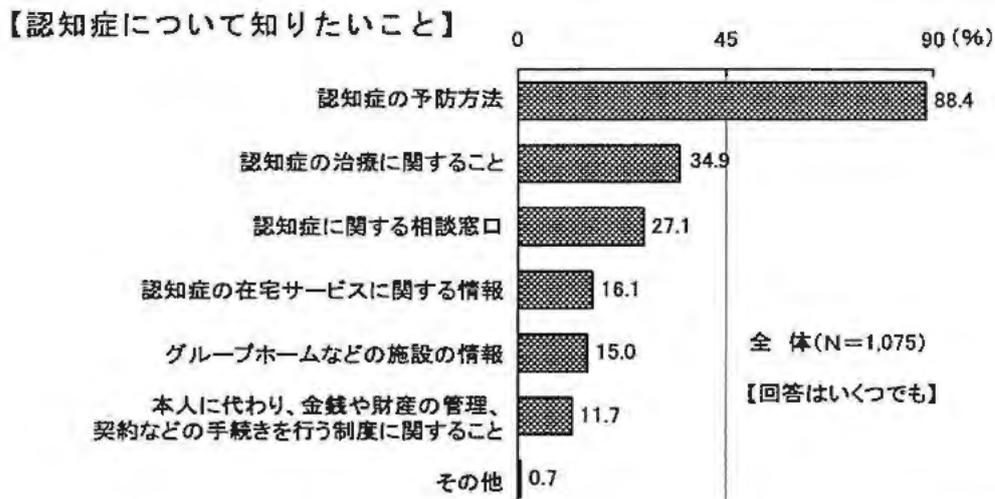
健康について知りたいことは、「がんや高血圧、糖尿病など生活習慣病の予防について」が38.3%、「認知症の予防について」が34.0%となっている。

平成10年度からの調査の中で「認知症の予防」は今回、最も高い割合となっているのに対し、「寝たきりの予防」は13.5%と最も低い割合となっている。

## (5) 認知症について知りたいこと

## 【「認知症の予防について」と答えた方にうかがいます】

問 認知症に関してどのようなことが知りたいですか。(〇はいくつでも)



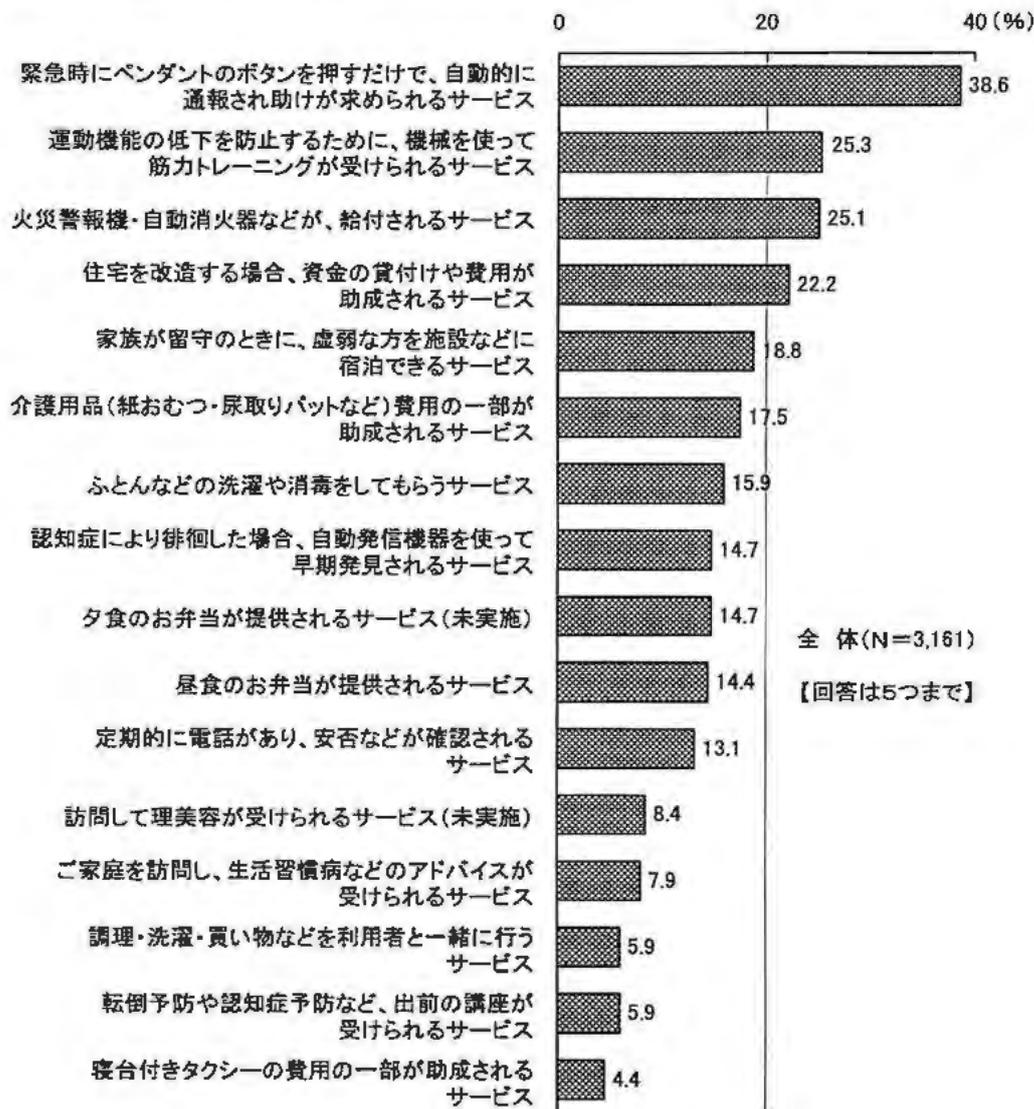
認知症の予防と回答した人のうち認知症について知りたいことは「認知症の予防方法」が88.4%と最も高くなっている。以下、「認知症の治療に関すること」34.9%、「認知症に関する相談窓口」27.1%となっている。

## 4. 健康・福祉サービス

### (1) 今後受きたいサービス

問 次のサービスであなたが特に受きたいと思うサービス5つに○をつけてください。(○は5つまで)

#### 【今後受きたいサービス】

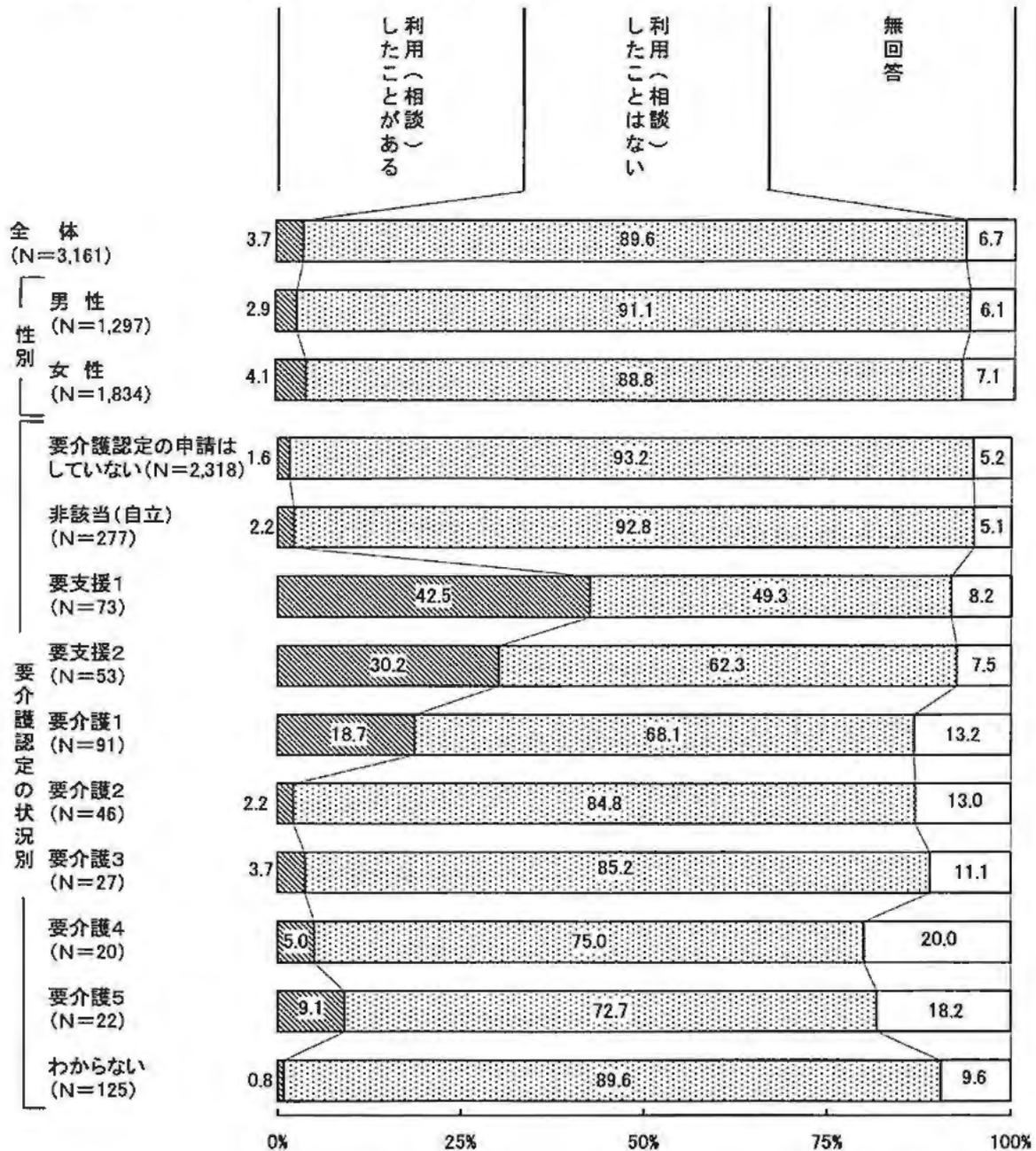


今後、特に受きたい福祉サービスを5つまで選んでもらったところ、「緊急時にペンダントのボタンを押すだけで、自動的に通報され助けが求められるサービス」が38.6%で最も高くなっている。次いで「運動機能の低下を防止するために、機械を使って筋力トレーニングが受けられるサービス」(25.3%)、「火災警報機・自動消火器などが、給付されるサービス」(25.1%)、「住宅を改造する場合、資金の貸付けや費用が助成されるサービス」(22.2%)が2割台であげられている。

(2) 地域包括支援センターの利用（相談）

問 地域包括支援センターを利用（相談）したことがありますか。  
 (○は1つ)

【地域包括支援センターの利用（相談）×性別・介護認定の状況別】



地域包括支援センターを「利用（相談）したことがある」は3.7%、「利用（相談）したことはない」は89.6%となっている。

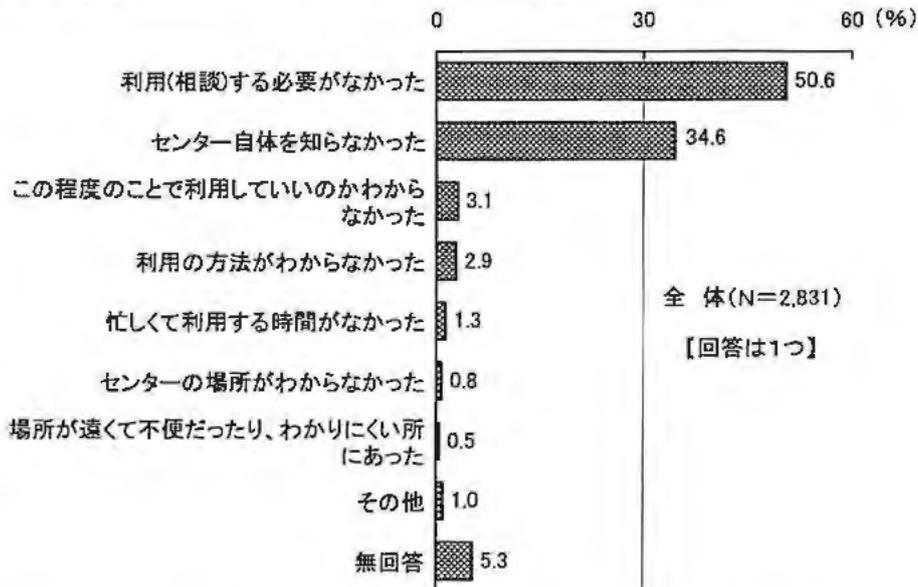
要支援1・2のサービス利用率は6割程度であるが、要支援1と2の人で「利用（相談）したことがある」がそれぞれ42.5%、30.2%と実際の利用率より低くなっていることは、介護予防ケアプラン作成過程で利用しているところが地域包括支援センターであるという認識が低いことがうかがえる。

(3) 地域包括支援センターを利用（相談）していない理由

【「利用（相談）していない」と答えた方にうかがいます】

問 利用（相談）していない理由は何ですか。（○は1つ）

【地域包括支援センターを利用（相談）していない理由】

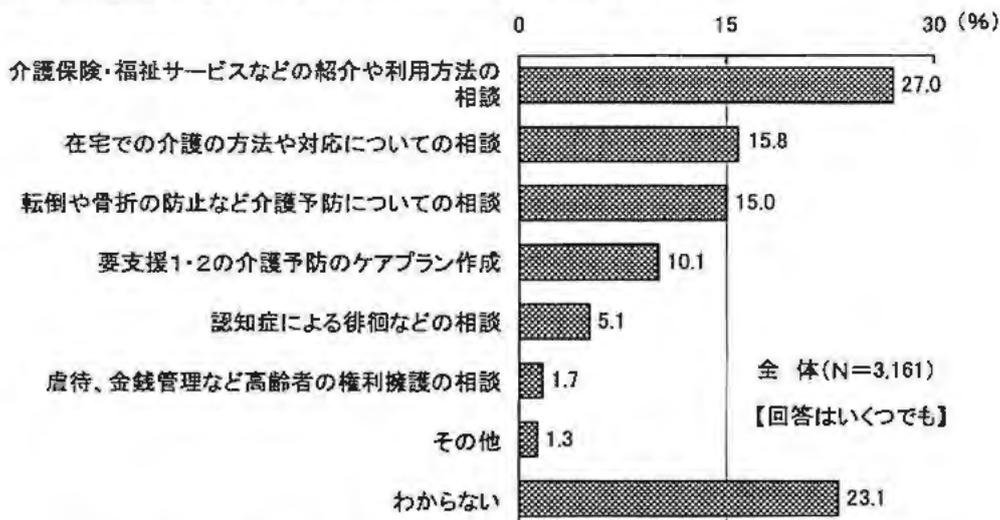


地域包括支援センターを利用（相談）していない理由は「利用（相談）する必要がなかった」が 50.6%と約半数で、次いで「センター自体を知らなかった」が 34.6%となっている。

(4) 地域包括支援センターで今後利用（相談）したい内容

問 今後利用（相談）したい内容は何ですか。（○はいくつでも）

【地域包括支援センターで今後利用（相談）したい内容】



地域包括支援センターで今後利用（相談）したい内容は「介護保険・福祉サービスなどの紹介や利用方法の相談」が 27.0%で最も高く、次いで「在宅での介護の方法や対応についての相談」（15.8%）、「転倒や骨折の防止など介護予防についての相談」（15.0%）などが約 15%であげられているが、その一方で「わからない」も 23.1%となっている。

## 5. 仕事

### (1) 就労状況

問 あなたは、現在仕事をしていますか。(〇は1つ)

【就労状況×性別・年齢別・世帯構成別】



現在、仕事を『している』人は28.2%で、「自営業・役員」が11.5%と最も高い。性別にみると、男性で仕事を『している』人は39.5%で女性(20.4%)の約2倍となっている。年齢別にみると、60~64歳で仕事を『している』人は49.7%、65~69歳で38.0%、70~74歳で23.1%となっている。

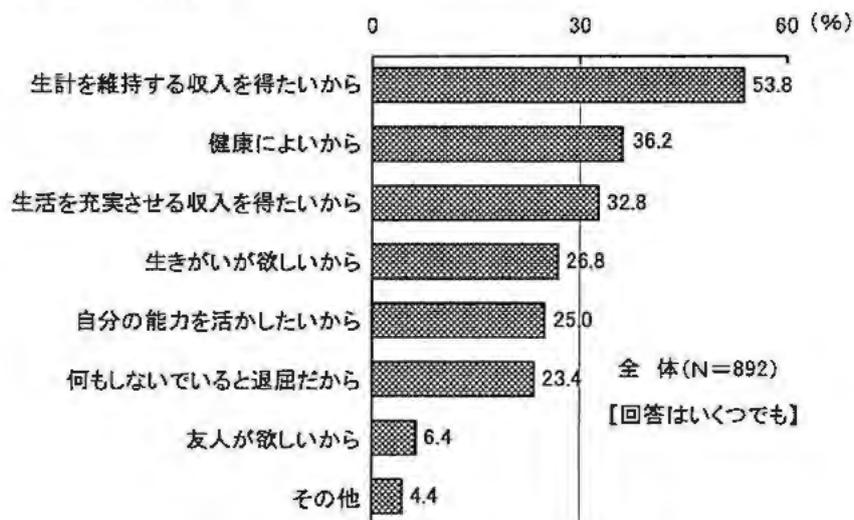
世帯構成別にみると、夫婦だけで、二人とも65歳未満、または夫婦だけで、どちらかが65歳以上の世帯で仕事を『している』が4割から5割と高く、ひとり暮らし世帯や夫婦だけで、二人とも65歳以上の世帯、あなたとその他の高齢者のみの世帯では2割強となっている。

(2) 仕事をしている理由

【「仕事をしている」と答えた方にうかがいます】

問 仕事をしているのはなぜですか。(〇はいくつでも)

【仕事をしている理由】



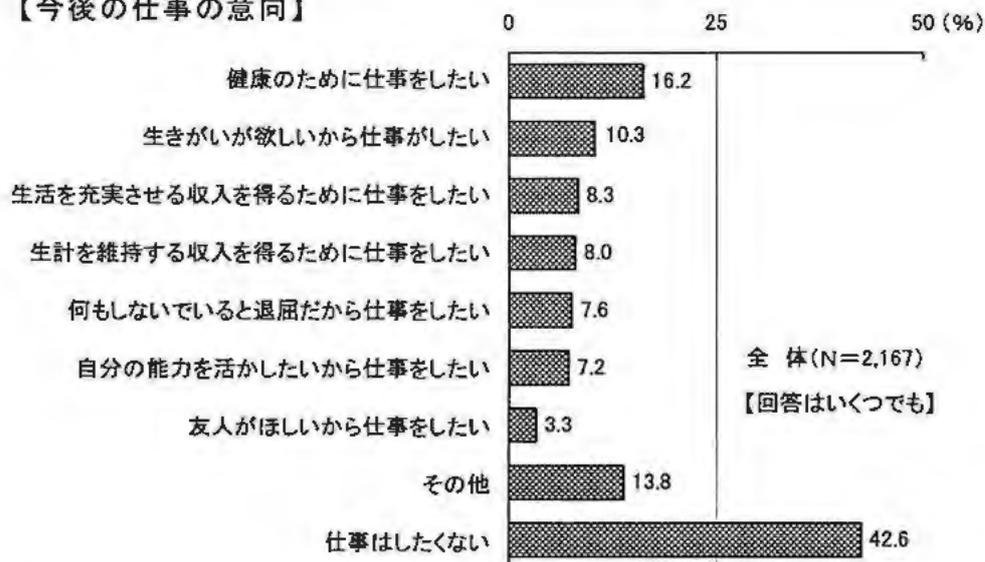
現在、仕事をしている人の働く理由は「生計を維持する収入を得たいから」が 53.8% で最も高くなっている。次いで「健康によいから」が 36.2%、「生活を充実させる収入を得たいから」が 32.8% となっている。

(3) 今後の仕事の意向

【「仕事をしていない」と答えた方にうかがいます】

問 今後、仕事をしたいですか。(〇はいくつでも)

【今後の仕事の意向】



現在、仕事をしていない人の今後の就労意向は、「仕事はしたくない」(42.6%)と無回答(15.4%)を除く 42.0%の人が持っている。その理由として「健康のために仕事をしたい」が 16.2%で最も高い。

## 6. 社会参加・生きがい

## (1) 生きがいを感じることに

問 あなたが、現在生きがいを感じるのとはどんなことですか。  
(○はいくつでも)

## 【生きがいを感じることに】(経年比較)

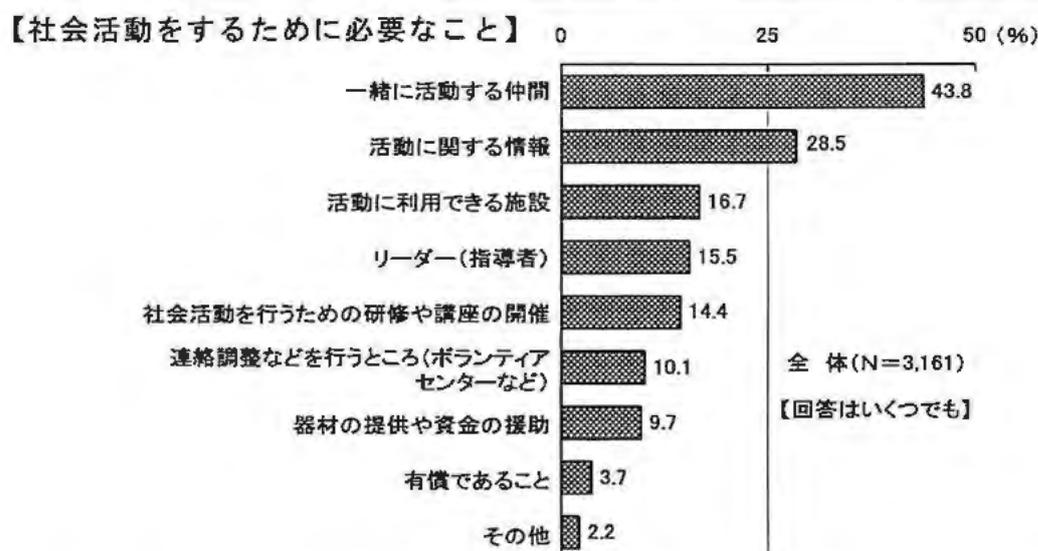
		回答数	働くこと(仕事)	学習や教養を高めるための活動	スポーツ・運動	趣味の活動	ボランティア(地域や社会への奉仕)活動	老人クラブ活動	町内会・自治会・協議会などの活動	家族との団らん	友人や近所とのつきあい	旅行	その他	特にない	無回答
全体		3,161 100.0	720 22.8	426 13.5	572 18.1	1,109 35.1	282 8.9	154 4.9	161 5.1	1,187 37.6	817 25.8	1,283 40.6	97 3.1	377 11.9	161 5.1
経年比較	平成16年度	2,722	30.1	16.2	19.6	35.3	7.0	7.5	5.4	42.3	29.1	45.7	2.5	11.3	2.6
	平成13年度	2,881	29.5	14.9	18.8	34.6	6.5	7.3	5.3	42.1	30.1	44.2	4.6	11.9	2.9
	平成10年度	12,546	27.7	15.6	12.9	36.4	4.8	11.5	5.7	44.1	43.1	43.1	3.3	10.0	4.3
み高齢者の世帯	平成19年度	1,455	16.0	14.3	17.1	33.5	9.0	6.2	5.6	30.7	26.9	40.1	2.7	13.5	6.9
	平成16年度	1,125	22.6	17.9	19.0	36.9	6.3	10.0	6.3	37.5	29.9	46.1	3.0	11.7	2.4

生きがいを感じることは「旅行」が40.6%、「家族との団らん」が37.6%、「趣味の活動」が35.1%などで「特にない」は11.9%となっている。

平成10年度からの調査と比べると「働くこと(仕事)」や「家族との団らん」「友人や近所とのつきあい」「旅行」などに生きがいを感じる人は減少している。

## (2) 社会活動をするために必要なこと

問 あなたはボランティアや老人クラブ、町内会などの社会活動をするには、何が必要だと思いますか。(○はいくつでも)



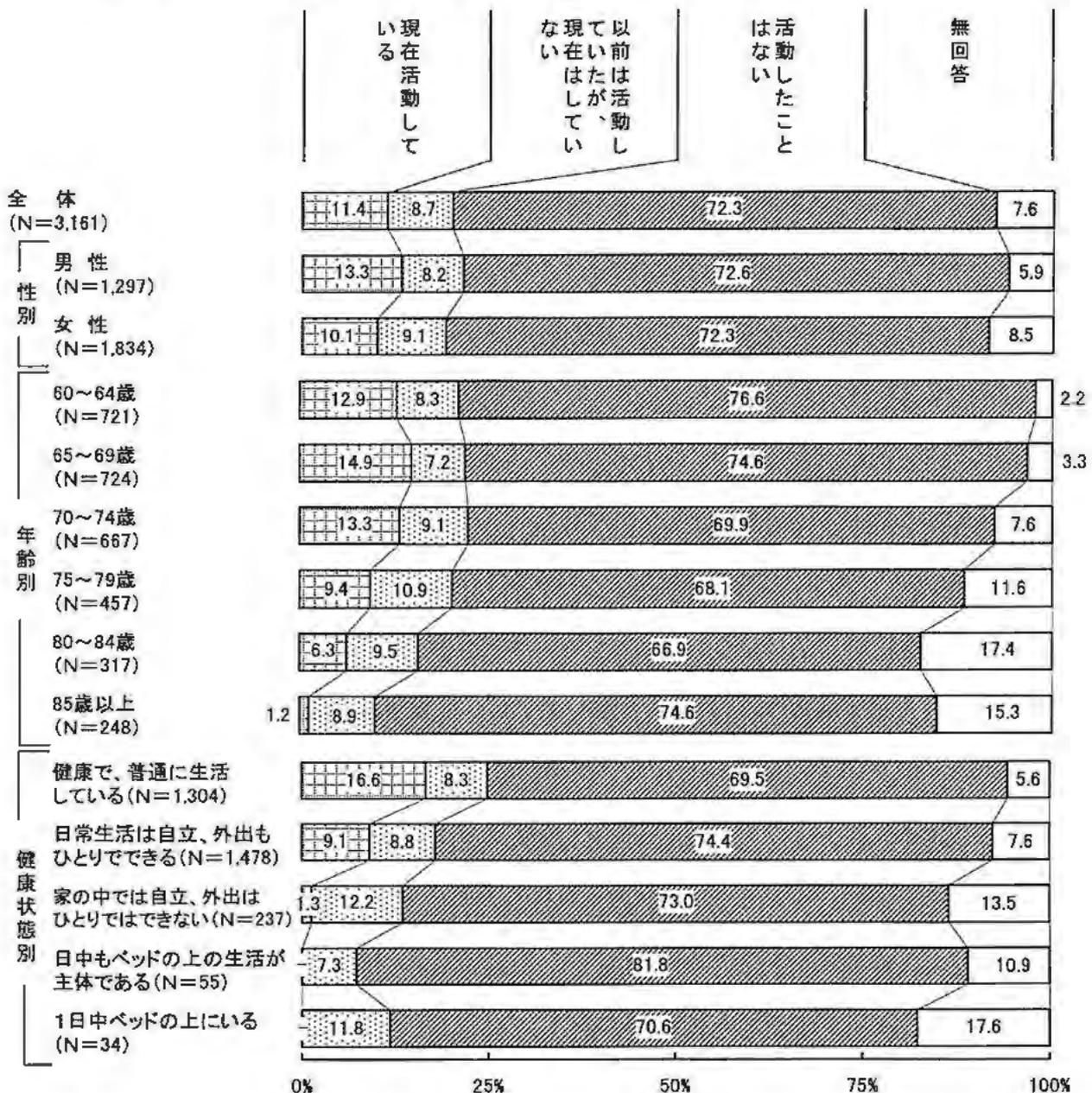
社会活動をするために必要なことは「一緒に活動する仲間」が43.8%で最も高くなっている。

(3) ボランティア活動について

① ボランティア活動の有無

問 あなたは、現在ボランティア活動をしていますか。(〇は1つ)

【ボランティア活動の有無×性別・年齢別・健康状態別】



現在、ボランティア活動をしている人は 11.4%、以前活動をしていた人は 8.7%と経験者は 20.1%となっている。

現在活動をしている人は 60 歳代から 74 歳までが中心となっており約 13%から 15%で、以前活動をしていた人も含めると 2 割台と高い。

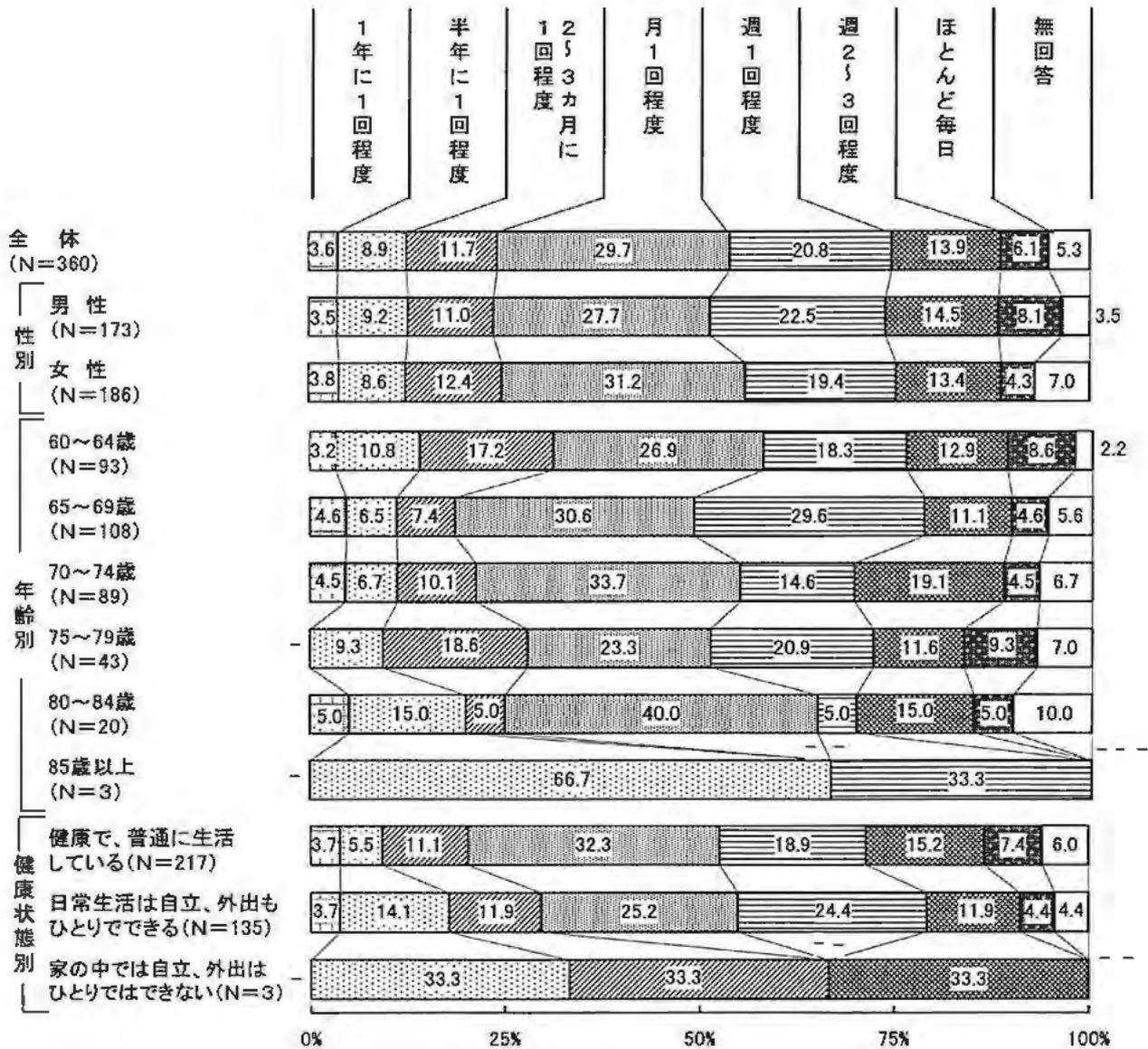
健康状態別にみると、健康で普通に生活している人でボランティア活動をしている人は 16.6%、経験者も含めると 24.9%と全体の約 4 分の 1 となっている。

② ボランティア活動の頻度

【「現在活動している」と答えた方にかがいます】

問 ボランティア活動への参加状況はどれくらいですか。(〇は1つ)

【ボランティア活動の頻度×性別・年齢別・健康状態別】



現在、ボランティア活動をしている人の活動への参加状況は「月1回程度」が29.7%、「週1回程度」20.8%、「週2〜3回程度」13.9%、「2〜3ヵ月に1回程度」11.7%となっている。

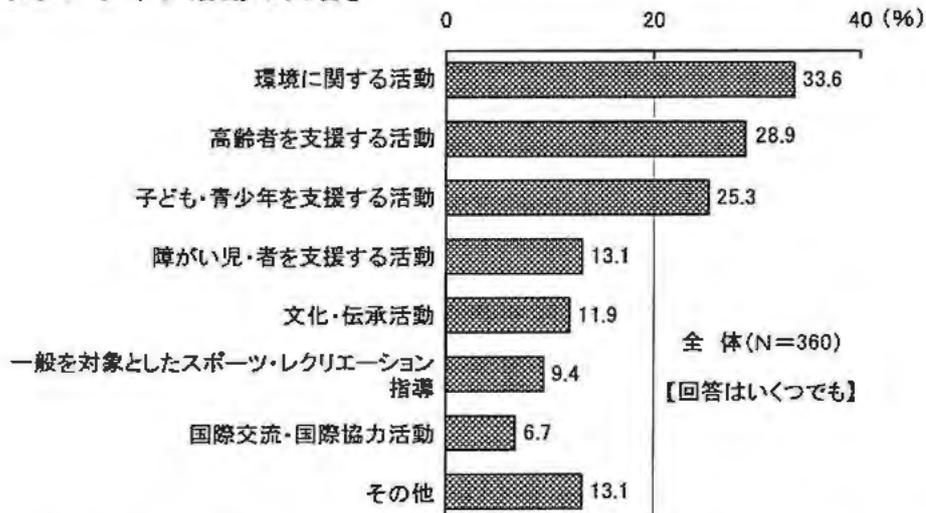
性別にみると、男性は週に1回以上の割合が女性よりも高く、年齢別にみると、65〜69歳で週に1回以上が45.3%と最も高くなっている。

③ ボランティア活動の内容

【「現在活動している」と答えた方にかがいます】

問 ボランティア活動の内容はどのようなものですか。(〇はいくつでも)

【ボランティア活動の内容】



現在、行っているボランティア活動の内容は「環境に関する活動」が 33.6%で最も高く、次いで「高齢者を支援する活動」28.9%、「子ども・青少年を支援する活動」25.3%となっている。

④ ボランティア活動意欲

【「現在ボランティア活動をしていない」と答えた方にかがいます】

問 ボランティア活動への参加の意向はいかがですか。(〇は1つ)

【ボランティア活動意欲】(経年比較)

		回答数	いた積 る極 的思 にっ や り	思や機 っり会 たが いいあ るとれ ば	や れ な い	思や わり な い と は	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体		2,562	20	746	796	483	30	312	175
		100.0	0.8	29.1	31.1	18.9	1.2	12.2	6.8
経 年 比 較	平成16年度	2,314	1.1	36.9	*	22.8	10.8	24.3	4.1
	平成13年度	2,511	0.9	30.0	*	21.7	14.0	29.2	4.3
み 高 齢 者 の 世 帯	平成19年度	1,165	0.7	23.8	36.8	19.3	0.9	10.3	8.2
	平成16年度	944	1.2	34.9	*	27.2	10.8	21.8	4.1

\*選択肢を設けていない

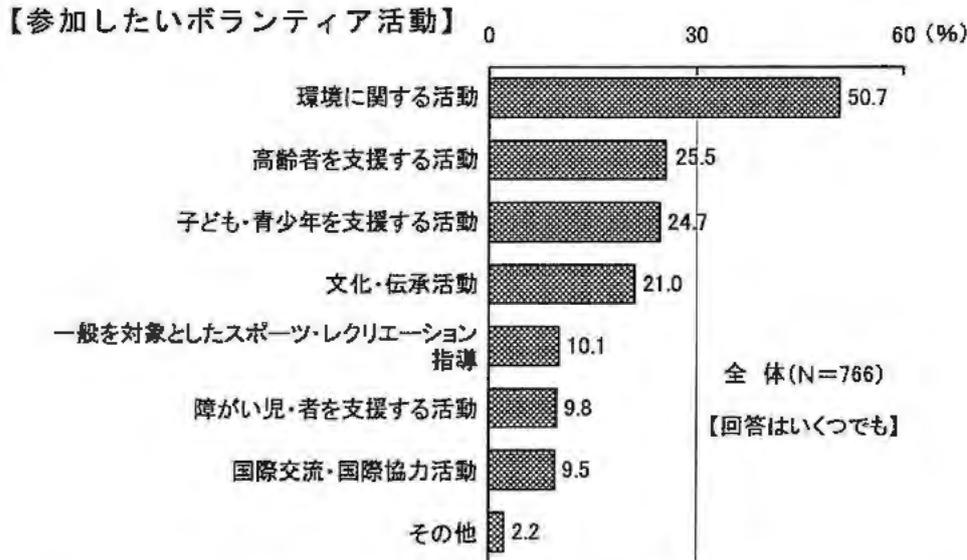
ボランティア活動を現在していない人の今後の参加意向は、「積極的にやりたいと思っている」が 0.8%、「機会があればやりたいと思っている」が 29.1%で合わせて 29.9%の人が参加意欲を持っている。その一方で 31.1%の人が健康・体力に自信がないなどで「やれない」としている。「やりたいとは思わない」人は 18.9%である。

経年比較でみると、参加意欲は前回調査よりも低くなっている。

## ⑤ 参加したいボランティア活動

## 【「今後ボランティア活動をやりたい」と答えた方にうかがいます】

問 どのようなボランティア活動に参加したいと思えますか。  
(〇はいくつでも)

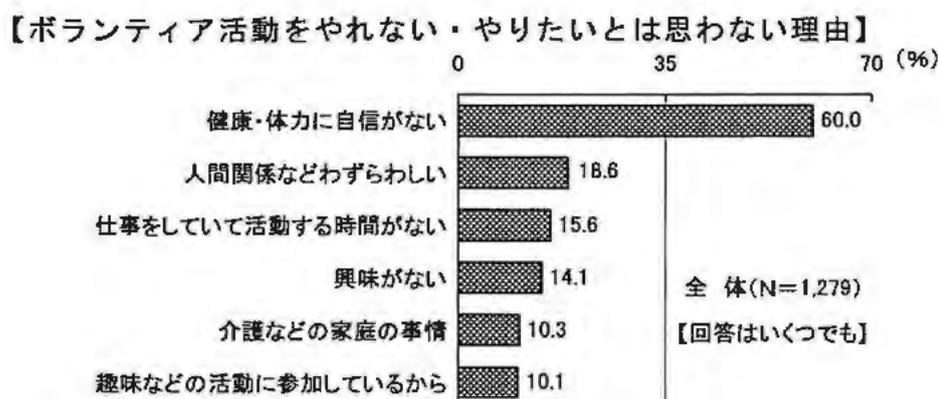


ボランティア活動意欲のある人に、今後どのような活動に参加したいかたずねたところ、「環境に関する活動」が50.7%で最も高くなっている。次いで「高齢者を支援する活動」25.5%、「子ども・青少年を支援する活動」24.7%、「文化・伝承活動」21.0%が2割台で続いている。

## ⑥ ボランティア活動をやれない・やりたいとは思わない理由

## 【「やれない・やりたいとは思わない」と答えた方にうかがいます】

問 あなたがボランティア活動をやれない又はやりたいとは思わない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



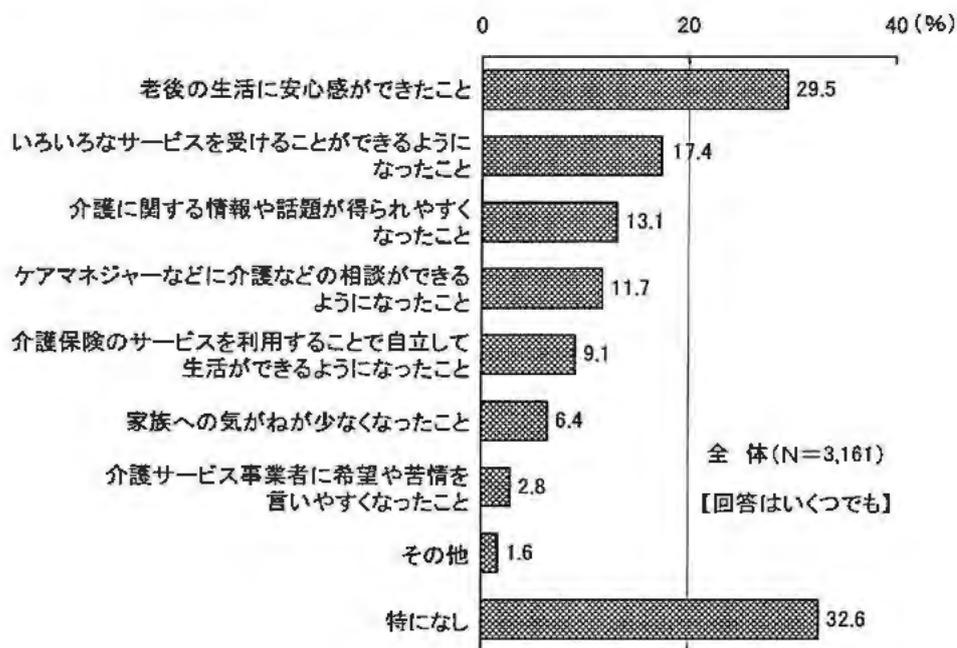
ボランティア活動をやれない・やりたいとは思わない理由で最も高いのは「健康・体力に自信がない」で60.0%となっている。

## 7. 介護保険制度全般

### (1) 介護保険制度ができてよくなったこと

問 介護保険制度ができてよくなったと思うことは何ですか。  
(〇はいくつでも)

#### 【介護保険制度ができてよくなったこと】

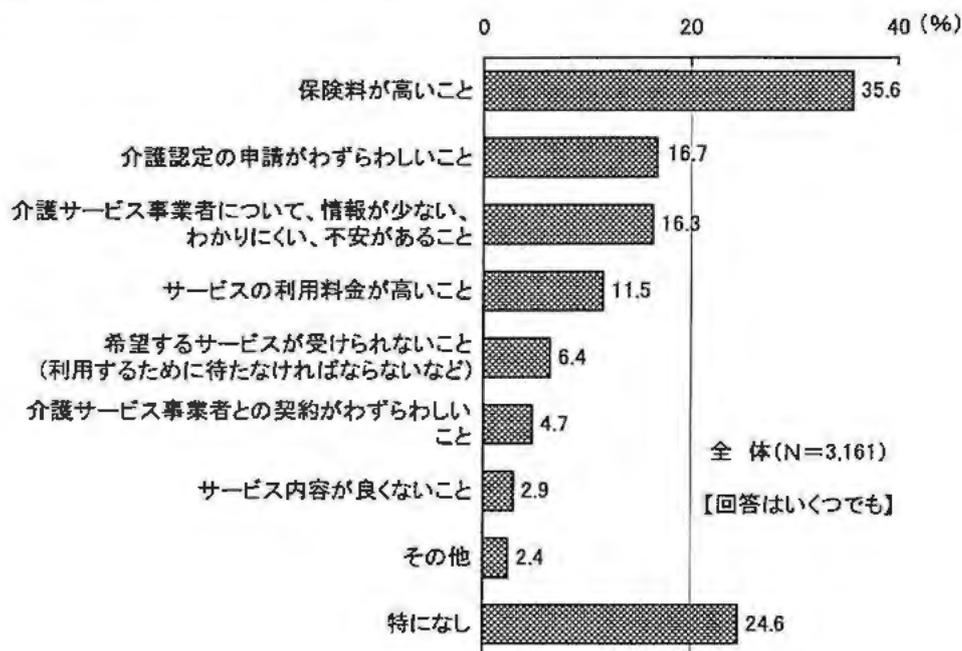


介護保険制度ができてよくなったことは「老後の生活に安心感ができたこと」が 29.5%で最も高く、次いで「いろいろなサービスを受けることができるようになったこと」17.4%、「介護に関する情報や話題が得られやすくなったこと」13.1%などがあげられており、全体の 47.8%が介護保険制度の利点をあげている。その一方で「特になし」は 32.6%となっている。

## (2) 介護保険制度について不満に思うこと

問 介護保険制度について不満に思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

## 【介護保険制度について不満に思うこと】



介護保険制度について不満に思うことは「保険料が高いこと」が35.6%と最も高く、次いで「介護認定の申請がわずらわしいこと」16.7%、「介護サービス事業者について、情報が少ない、わかりにくい、不安があること」16.3%などがあげられており、介護保険制度に何らかの不満を持つ人は全体の55.0%となっている。「特になし」は24.6%である。

(3) 今後の介護意向

問 あなたは、介護が必要になったとき、どのようにしたいと考えていますか。  
(○は1つ)

【今後の介護意向】(経年比較)

		回答数	在宅で、家族だけの介護を受けたい	在宅で、家族の介護と介護サービスを合わせて利用したい	在宅で、介護保険サービスを中心に利用したい	施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからは在宅で生活したい	施設に入所したい	その他	わからない	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		3,161 100.0	330 10.4	690 21.8	335 10.6	527 16.7	634 20.1	26 0.8	396 12.5	223 7.1
経年比較	平成16年度	2,722	12.4	26.8	9.4	11.2	17.1	0.8	18.0	4.2
	平成13年度	2,881	14.5	25.7	10.5	*	21.7	1.7	21.2	4.8
	平成10年度	12,546	11.5	29.4	9.5	*	15.3	1.5	24.3	8.5
み高齢者の世帯	平成19年度	1,455	9.8	19.9	10.4	17.7	21.6	0.9	11.5	8.2
	平成16年度	1,125	11.9	22.7	10.7	11.9	19.8	0.8	18.4	3.8

\*選択肢を設けていない

※経年比較平成16年度「有料老人ホーム、ケアハウスなど」7.1%含む

※高齢者のみ世帯平成16年度「有料老人ホーム、ケアハウスなど」8.9%を含む

介護が必要になったとき「在宅で、家族の介護と介護サービスを合わせて利用したい」が 21.8%、「施設に入所したい」が 20.1%とこの2つが2割台で高くなっている。

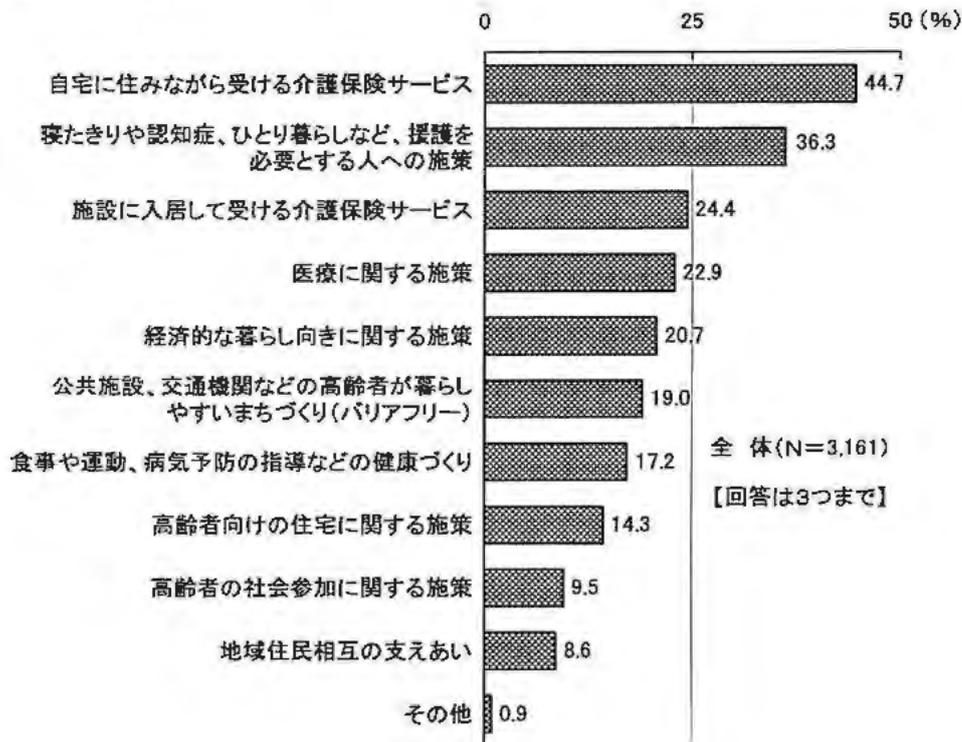
性別にみると、男性は「在宅で、家族だけの介護を受けたい」「在宅で、家族の介護と介護サービスを合わせて利用したい」が女性よりも高く、女性は「施設に入所したい」が男性よりも高くなっている。

経年比較にみると、前回調査と比べて在宅介護希望者はほぼ同率であるが、家族だけの介護や家族介護と介護サービスの併用は減少し、在宅サービスの充実を条件とした在宅での生活を希望する人が増加している。

## (4) 行政への要望

問 高齢者施策の充実に向けて、行政に対して今後どのようなことに特に力をいれてほしいと思いますか。(〇は3つまで)

## 【行政への要望】



高齢者施策の充実に向けて行政に特に力を入れてほしいのは「自宅に住みながら受ける介護保険サービス」が44.7%で最も高く、次いで「寝たきりや認知症、ひとり暮らしなど、援護を必要とする人への施策」が36.3%、「施設に入居して受ける介護保険サービス」が24.4%など、介護などの援護を要する人に対するサービスの充実が上位となっている。

## 第2章 介護保険サービス共通設問

「在宅サービス利用調査」「在宅サービス未利用調査」「施設等サービス利用調査」の3調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるように「共通設問」として掲載した。なお、各調査の共通設問以外については別章に掲載している。

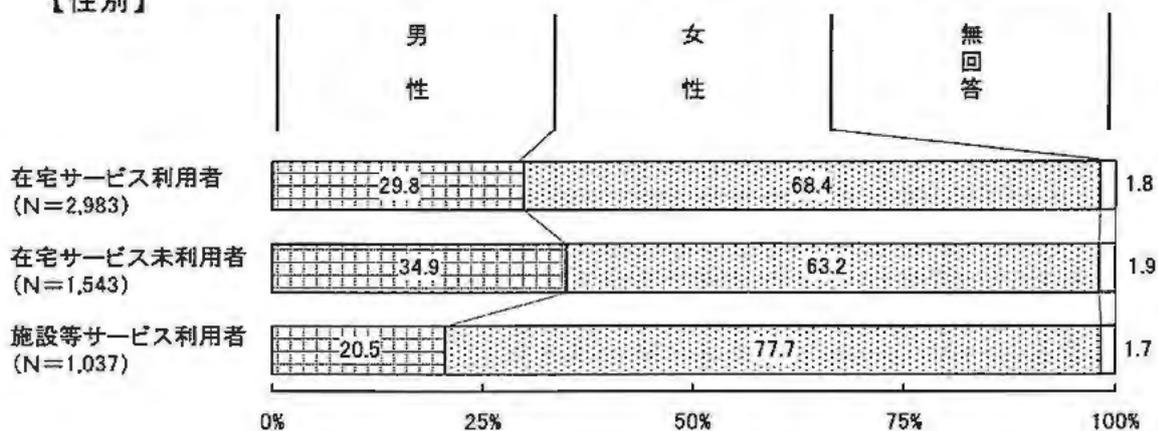
### 1. 回答者の属性

#### (1) 性別、年齢

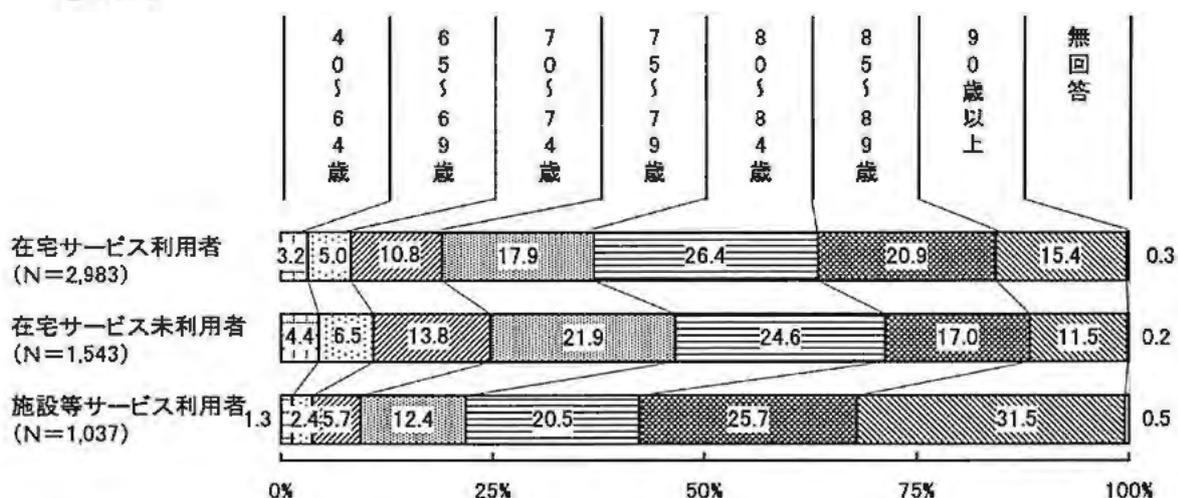
問 あなたの性別は。

問 あなたの年齢は。(平成19年10月1日現在)

##### 【性別】



##### 【年齢】



対象者の性別は、在宅サービス利用者・未利用者とも「男性」約3割、「女性」約7割となっており、施設等サービス利用者は「男性」約2割、「女性」約8割となっている。

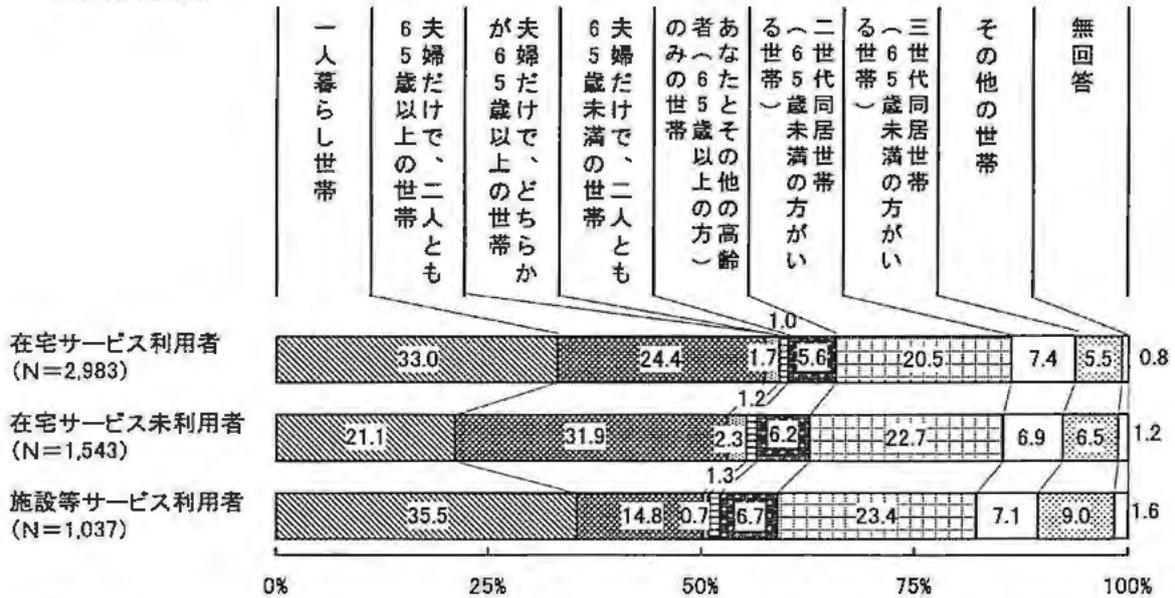
75歳以上の後期高齢者の割合は在宅サービス利用者では80.6%、在宅サービス未利用者では75.0%、施設等サービス利用者では90.1%となっている。

(2) 世帯構成

問 [在宅サービス利用・未利用] あなたのご家族の状況は。(〇は1つ)

問 [施設等サービス] 施設等に入る前のご家族の状況は。(〇は1つ)

【世帯構成】



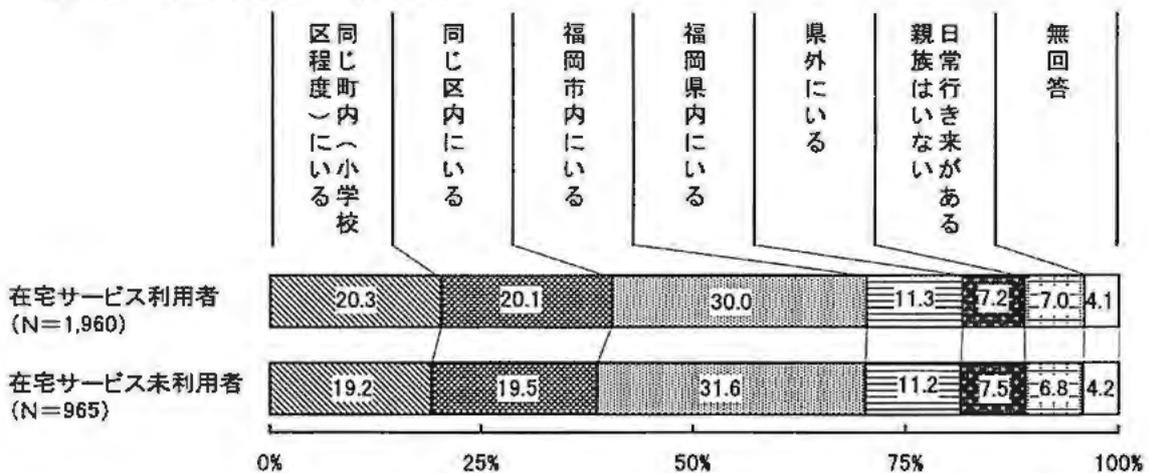
世帯構成は、在宅サービス利用者では「一人暮らし」が33.0%、在宅サービス未利用者では「夫婦だけで、二人とも65歳以上の世帯」が31.9%、施設等サービス利用者の入所前の世帯構成は「一人暮らし世帯」が35.5%と最も高くなっている。

(3) 行き来のある親族の居場所

【「一人暮らし・夫婦のみ・その他高齢者のみの世帯」と答えた方にうかがいます】

問 あなたは日常行き来がある親族の方が近くにいらっしゃいますか。2カ所以上にいらっしゃる方は一番近いところをお答えください。(〇は1つ)

【行き来のある親族の居場所】



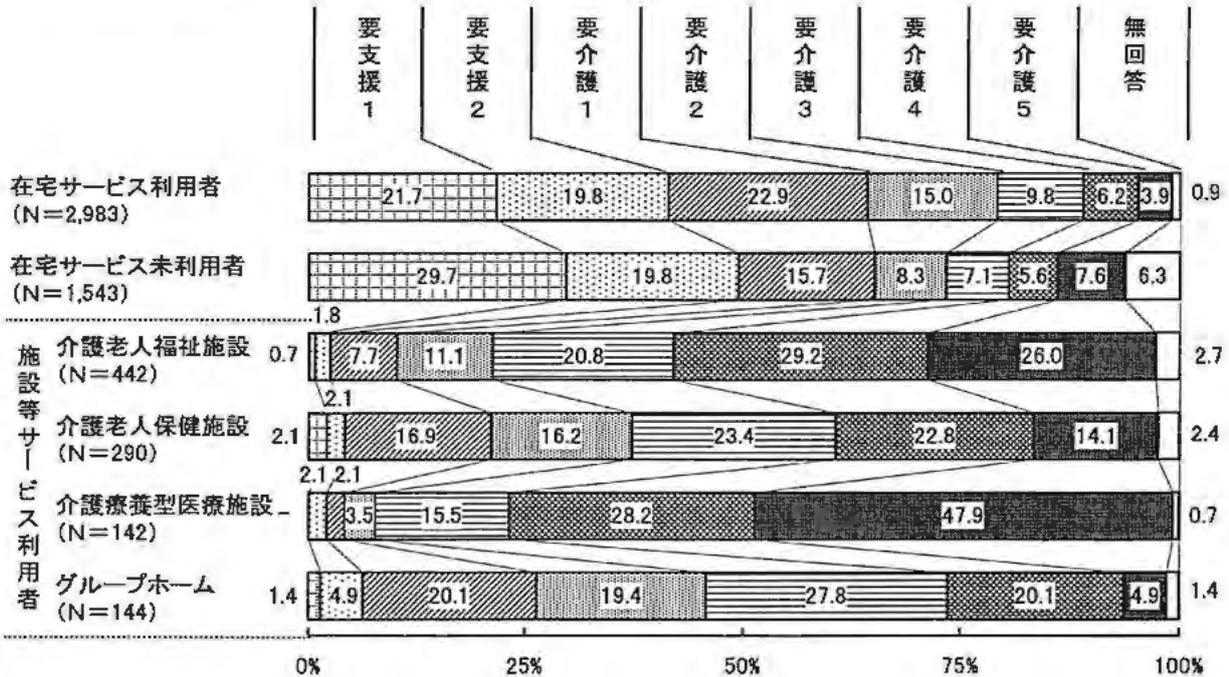
一人暮らし、夫婦のみの世帯、あなたとその他の高齢者のみの世帯の人に、日常行き来のある親族の居場所をたずねた。

在宅サービス利用者と未利用者では大きな違いはなく、「福岡市内にいる」が約3割と最も高く、「同じ町内にいる」「同じ区内にいる」がそれぞれ約2割となっている。

(4) 要介護度

問 あなたの要介護度は次のどれですか。(〇は1つ)

【要介護度】



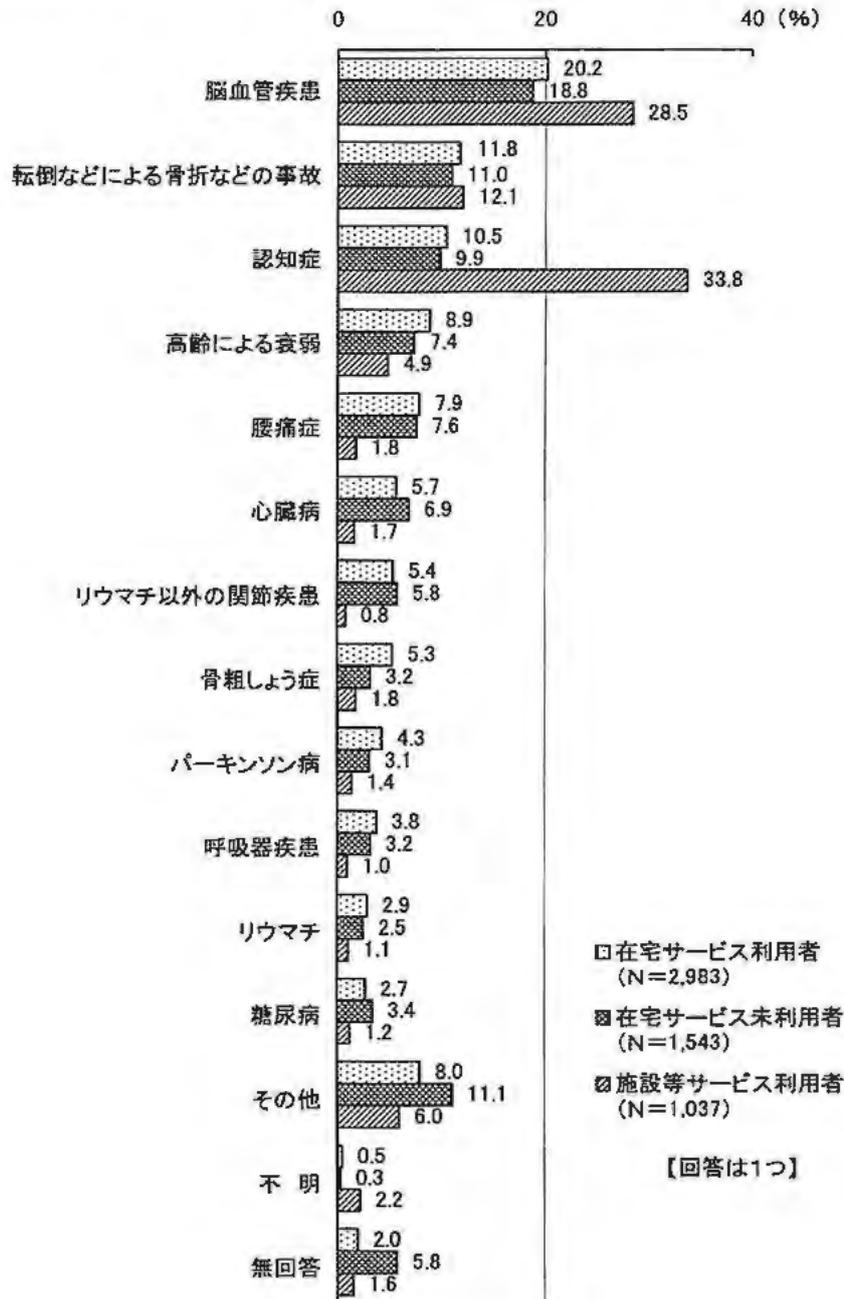
要介護度について在宅サービス利用者は「要介護1」(22.9%)、未利用者は「要支援1」(29.7%)が最も多く、いずれも『要介護1以下』で約65%を占めている。

施設等サービス利用者では要介護度が重い人が多く、特に介護療養型医療施設では『要介護4・5』が76.1%となっている。しかし、その中でもグループホームでは『要介護1～3』が67.3%を占め、施設等サービス利用者の中では比較的要介護度は低い。

(5) 要介護状態になった主な原因

問 介護が必要な状態になった主な原因は何ですか。(〇は1つ)

【要介護状態になった主な原因】



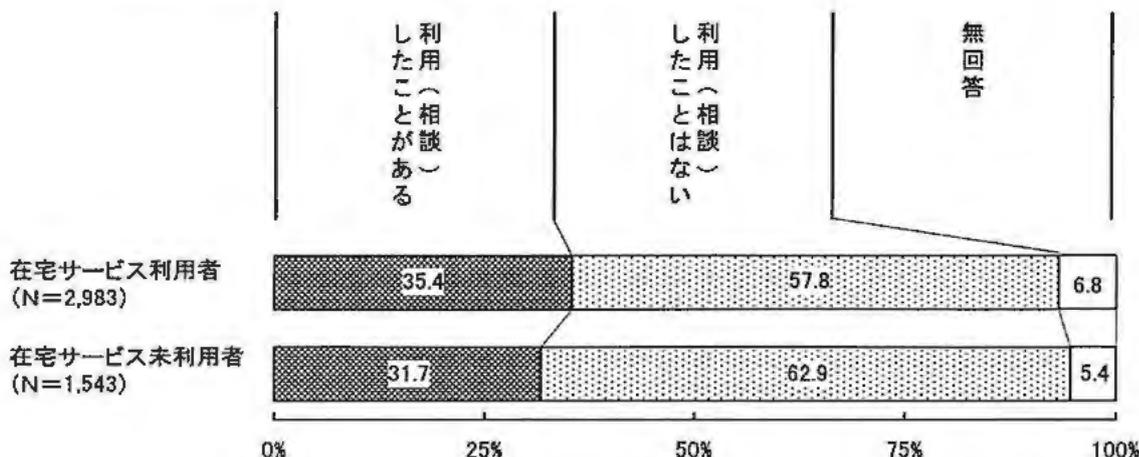
要介護状態になった主な原因は、在宅サービス利用者・未利用者、施設等サービス利用者とも「脳血管疾患」「転倒などによる骨折などの事故」「認知症」が上位にあげられているが、施設等サービス利用者では「認知症」(33.8%)、「脳血管疾患」(28.5%)の割合が在宅サービス利用者・未利用者に比べ高くなっている。

## 2. 保険・福祉サービス

### (1) 地域包括支援センターの利用（相談）の有無

問 地域包括支援センターを利用（相談）したことがありますか。（○は1つ）

【地域包括支援センターの利用（相談）の有無】



地域包括支援センターの利用（相談）については、在宅サービス利用者 35.4%、未利用者 31.7%と利用者の方がやや高くなっているが、6割前後の人は「利用（相談）したことはない」と回答している。

【地域包括支援センターの利用（相談）の有無×要介護度別】

		在宅サービス利用者			在宅サービス未利用者			(%)	
		回答数	利用（相談）したことがある (%)	利用（相談）したことはない (%)	無回答 (%)	回答数	利用（相談）したことがある (%)	利用（相談）したことはない (%)	無回答 (%)
全体		2,983	35.4	57.8	6.8	1,543	31.7	62.9	5.4
要介護度別	要支援1	646	57.3	35.6	7.1	30	36.2	57.9	5.9
	要支援2	591	54.5	38.7	6.8	20	46.9	48.9	4.3
	要介護1	684	23.8	70.0	6.1	16	24.8	70.2	5.0
	要介護2	446	20.6	73.1	6.3	8	27.3	67.2	5.5
	要介護3	291	20.3	72.9	6.9	7	23.9	73.4	2.8
	要介護4	184	16.8	72.8	10.3	6	24.1	70.1	5.7
	要介護5	115	13.0	81.7	5.2	8	14.5	77.8	7.7
	無回答	26	19.2	73.1	7.7	6	21.6	71.1	7.2

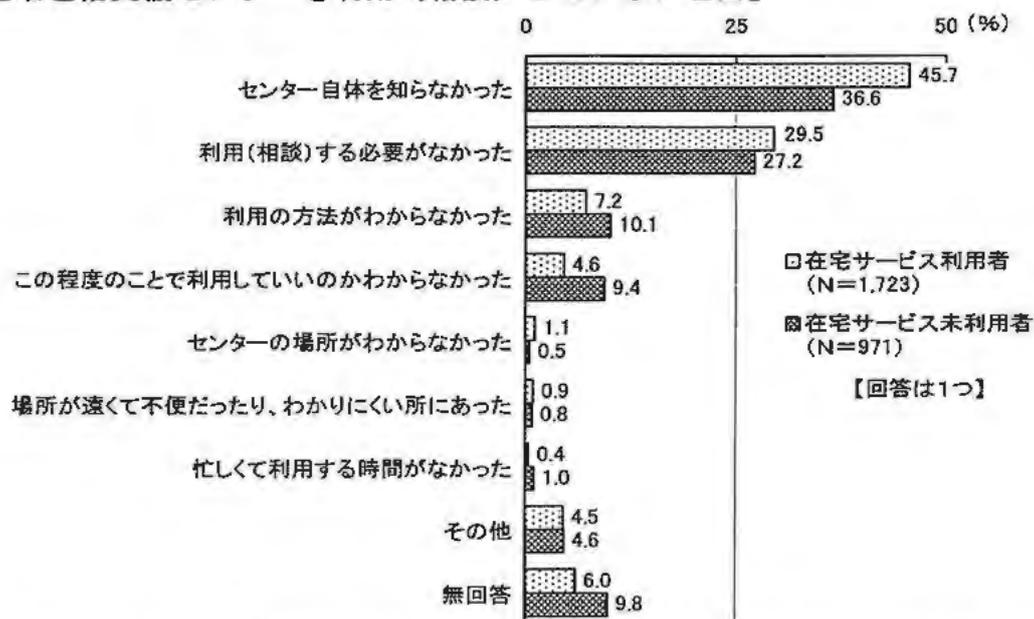
要介護度別にみると、在宅サービス利用者のうち要支援1と要支援2で「利用（相談）したことはない」が 35.6%、38.7%となっており、介護予防ケアプラン作成過程で利用しているところが地域包括支援センターであるという認識があまりなかったことをあらわしている。

(2) 地域包括支援センターを利用（相談）していない理由

【「利用（相談）していない」と答えた方にうかがいます】

問 利用（相談）していない理由は何ですか。（○は1つ）

【地域包括支援センターを利用（相談）していない理由】

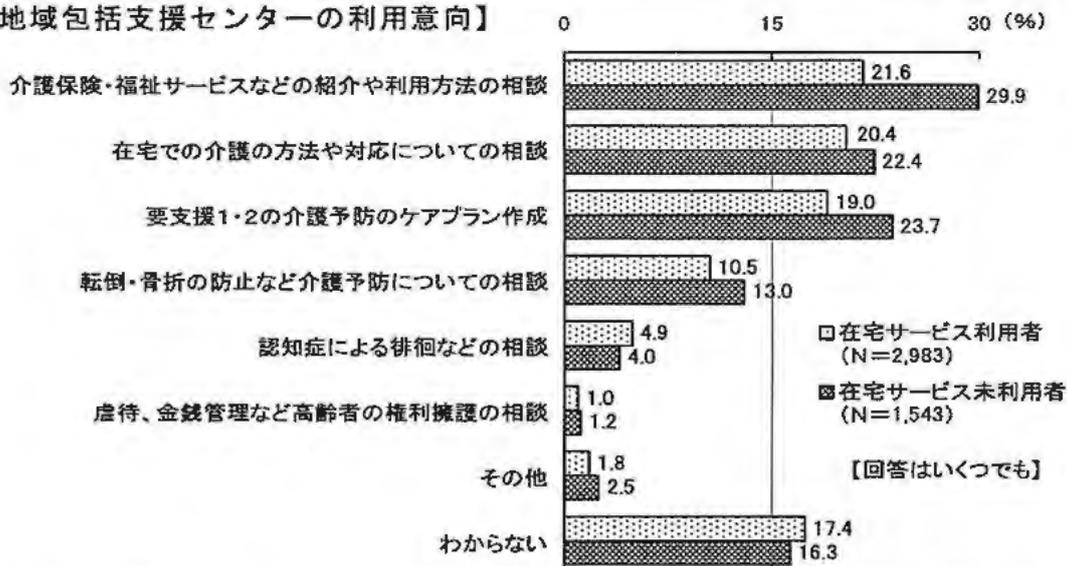


地域包括支援センターを利用（相談）していない理由で最も高いのは在宅サービス利用者・未利用者とも「センター自体を知らなかった」で、次いで「利用（相談）する必要がなかった」となっている。いずれの理由も在宅サービス利用者の割合が高く、全体的な割合は低い。「利用の方法がわからなかった」や「この程度のことで利用していいのかわからなかった」は未利用者で高くなっている。

(3) 地域包括支援センターの利用意向

問 今後利用（相談）したい内容は何ですか。（○はいくつでも）

【地域包括支援センターの利用意向】



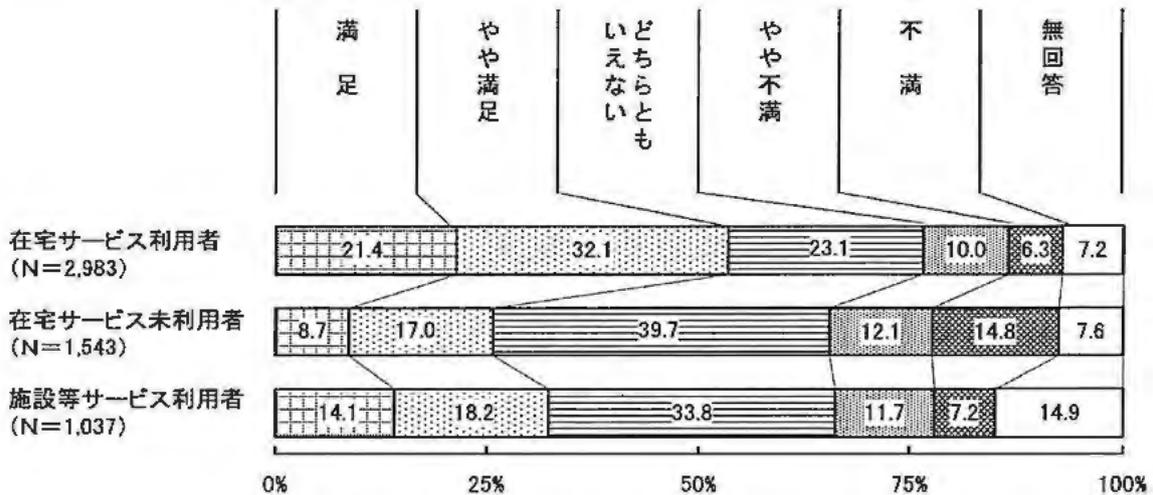
地域包括支援センターの今後の利用意向は「介護保険・福祉サービスなどの紹介や利用方法の相談」「在宅での介護の方法や対応についての相談」「要支援1・2の介護予防ケアプランの作成」などが上位にあがっており、いずれも在宅サービス利用者よりも未利用者の割合が高くなっている。

### 3. 介護保険制度全般

#### (1) 介護保険制度全体の満足度

問 あなたは、介護保険制度全体について満足していますか。(○は1つ)

【介護保険制度全体の満足度】

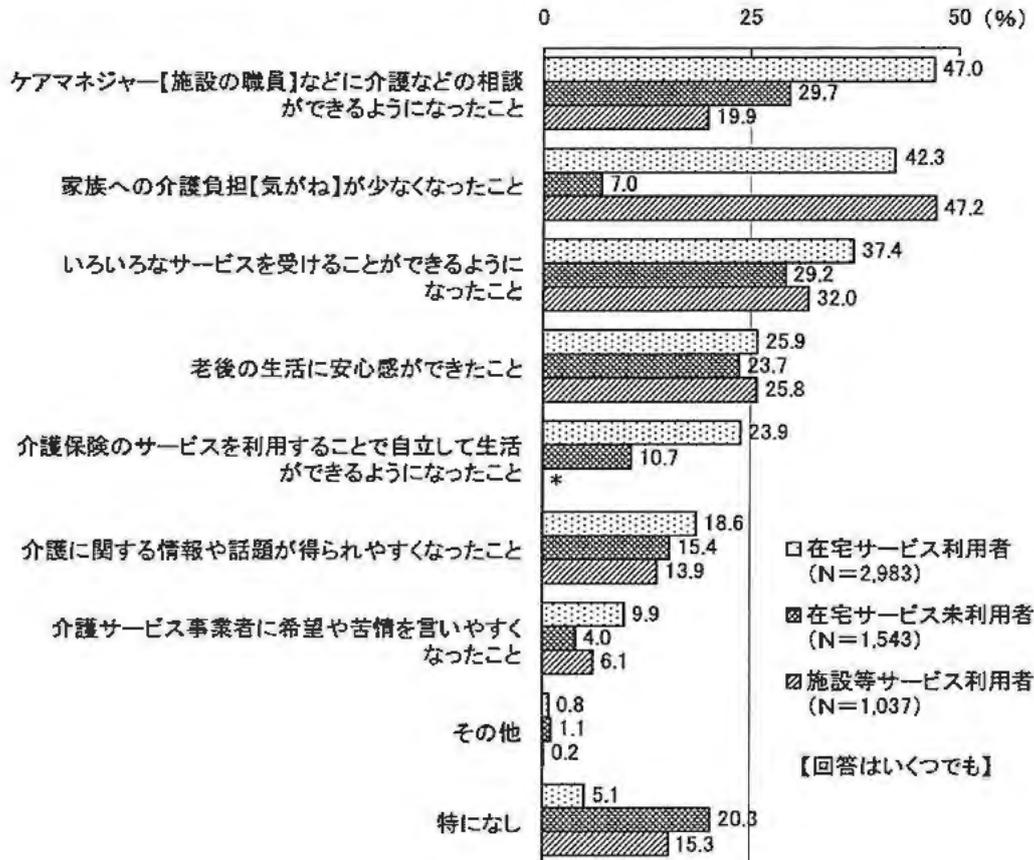


介護保険制度全体の満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた割合は在宅サービス利用者では 53.5%、未利用者では 25.7%、施設等サービス利用者では 32.3%と在宅サービス利用者の満足度が最も高くなっている。「不満」と「やや不満」合わせた割合は在宅サービス利用者で 16.3%、未利用者では 26.9%、施設等サービス利用者では 18.9%となっており、現在サービスを利用していない人で不満感は高くなっている。

(2) 介護保険制度ができてよかったこと

問 介護保険制度ができてよかったと思う点は何ですか。(〇はいくつでも)

【介護保険制度ができてよかったこと】



\*選択肢を設けていない

【 】内は在宅サービス未利用者、施設等サービス利用者の選択肢

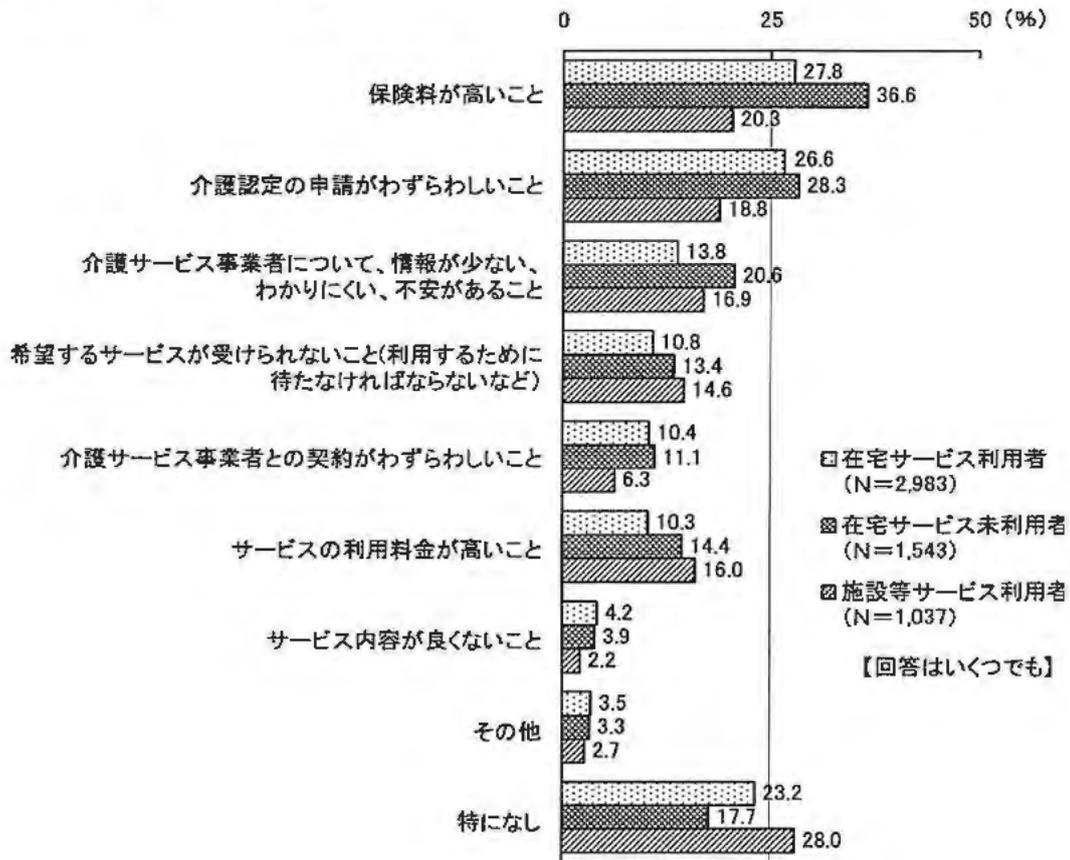
介護保険制度ができてよかったと思うことは、在宅サービス利用者と施設等サービス利用者では「ケアマネジャー【施設の職員】などに介護などの相談できるようになったこと」「家族への負担が少なくなったこと」「いろいろなサービスが受けることができるようになったこと」が上位にあげられているが、在宅サービス利用者では「ケアマネジャーなどに介護などの相談できるようになったこと」(47.0%)、施設等サービス利用者では「家族への負担が少なくなったこと」(47.2%)が最も高くなっている。

介護保険制度全体の満足度が比較的低かった未利用者でも「ケアマネジャーなどに介護などの相談できるようになったこと」「いろいろなサービスが受けることができるようになったこと」が上位にあげられているが割合は3割弱と在宅や施設等サービス利用者比べて低く、「特になし」が20.3%と高くなっている。また、「家族への負担が少なくなったこと」は7.0%とサービス利用者比べて大きな差がでている。

(3) 介護保険制度の不満点

問 介護保険制度で不満に思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

【介護保険制度の不満点】



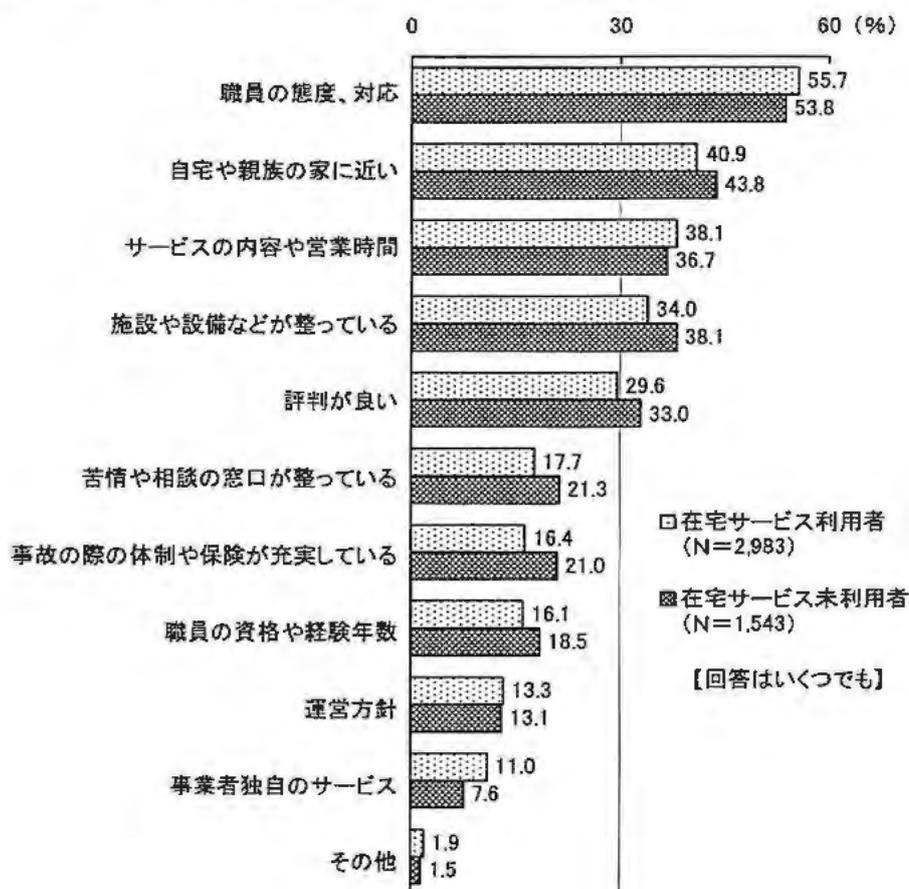
介護保険制度で不満に思うことは在宅サービス利用者・未利用者とも「保険料が高いこと」が最も高く、次いで「介護認定の申請がわずらわしいこと」「介護サービス事業者について、情報が少ない、わかりにくい、不安があること」があげられているが、いずれも未利用者の割合が高く、特に「保険料が高いこと」は約9ポイント、「介護サービス事業者について、情報が少ない、わかりにくい、不安があること」は約7ポイント高くなっている。

施設等サービス利用者では「特になし」が28.0%と最も高く、在宅サービス利用者・未利用者比べて不満に思う項目の割合も低いものが多いが、「サービスの利用料金が高いこと」「希望するサービスが受けられない(利用するために待たなければならないなど)」の不満は在宅サービス利用者・未利用者よりも高くなっている。

## (4) 介護サービス事業者を選ぶときに重視すること

問 介護サービス事業者を選ぶとき、特にどのようなことを重視して選びたいと思いますか。(〇はいくつでも)

## 【介護サービス事業者を選ぶときに重視すること】

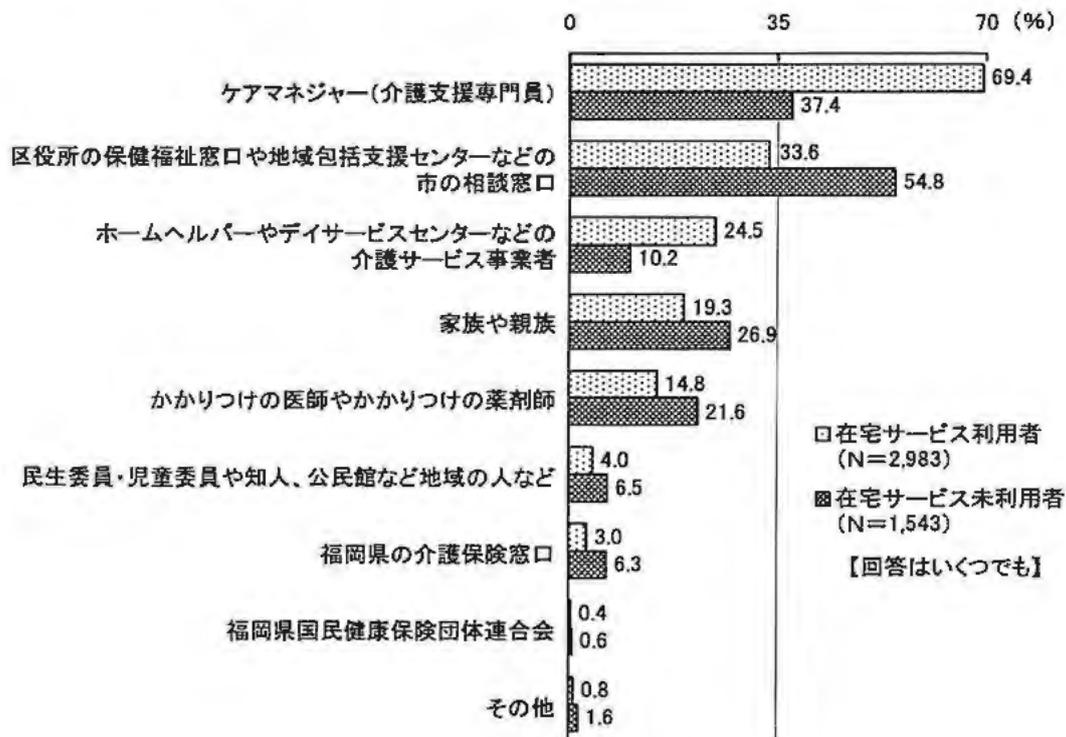


介護サービス事業者を選ぶときに重視することは、在宅サービス利用者・未利用者とも「職員の態度、対応」が55%前後で最も高く、次いで「自宅や親族の家に近い」「サービスの内容や営業時間」「施設や設備などが整っている」「評判が良い」などがあがっている。「施設や設備が整っている」や「評判がよい」、「苦情や相談の窓口が整っている」、「事故の際の体制や保険が充実している」などは未利用者での割合が高くなっている。

(5) 介護や福祉サービスなどの相談先

問 介護のことや市の福祉サービスなどについてわからないことや不満があるとき、あなたはまず、誰に（どこに）相談しますか。（〇はいくつでも）

【介護や福祉サービスなどの相談先】



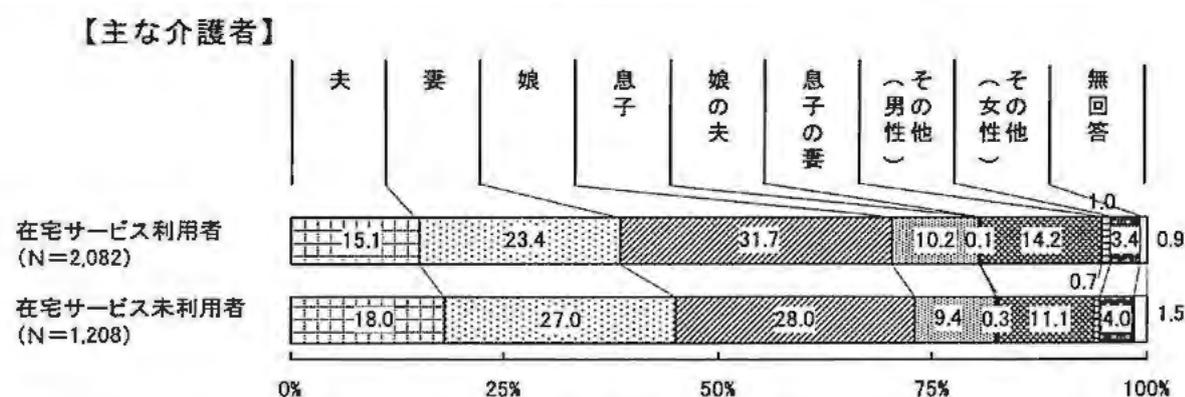
介護や福祉サービスなどの相談先は、在宅サービス利用者では「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が 69.4%で最も高く、次いで「区役所の保健福祉窓口や地域包括支援センターなどの市の相談窓口」33.6%、「ホームヘルパーやデイサービスなどの介護サービス事業者」24.5%、「家族や親族」19.3%などとなっている。未利用者では「区役所の保健福祉窓口や地域包括支援センターなどの市の相談窓口」が 54.8%で最も高く、次いで「ケアマネジャー（介護支援専門員）」37.4%、「家族や親族」26.9%、「かかりつけの医師やかかりつけの薬剤師」21.6%などがあげられており、在宅サービス利用者と未利用者では違いがみられる。

## 4. 介護者

「在宅サービス利用調査」「在宅サービス未利用調査」の2調査において、日ごろ家族の介護を受けている方に対して、その家族の方に回答をしてもらった。

### (1) 主な介護者

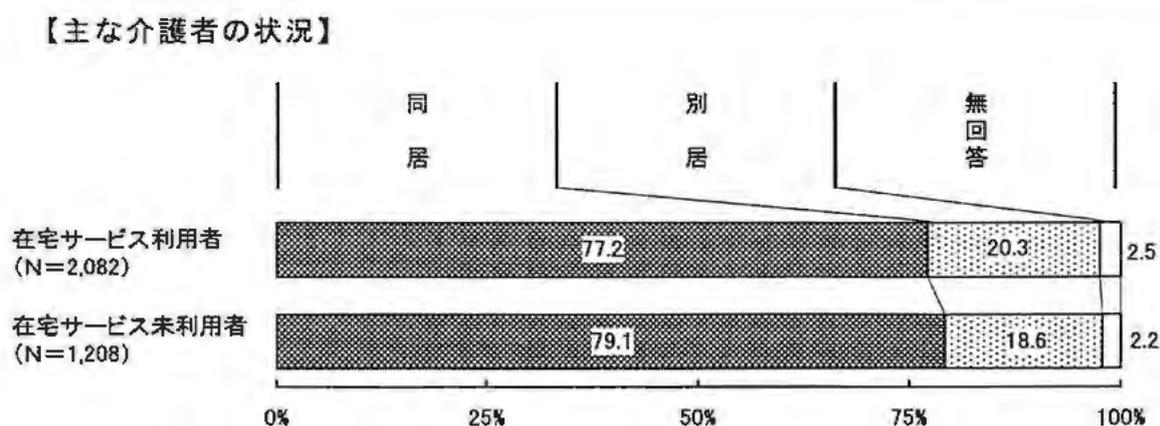
問 日ごろ、介護しているのは主にどなたですか。あて名の方ご本人（介護が必要な方）からみた続柄をお答えください。（〇は1つ）



主な介護者は、在宅サービス利用者・未利用者とも高い順に「娘」「妻」「夫」となっているが、未利用者では「夫」や「妻」の介護の割合が利用者よりも高くなっている。

### (2) 主な介護者の状況

問 主な介護者の状況は。（〇は1つ）

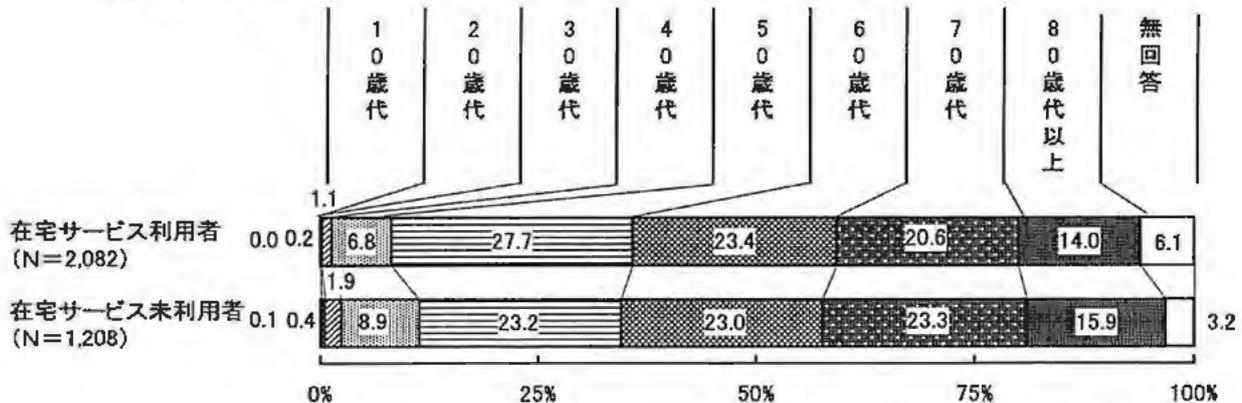


主な介護者の状況は、在宅サービス利用者・未利用者とも「同居」が約8割、「別居」が約2割となっている。

### (3) 主な介護者の年齢

問 主な介護者の年齢は。(〇は1つ)

【主な介護者の年齢】



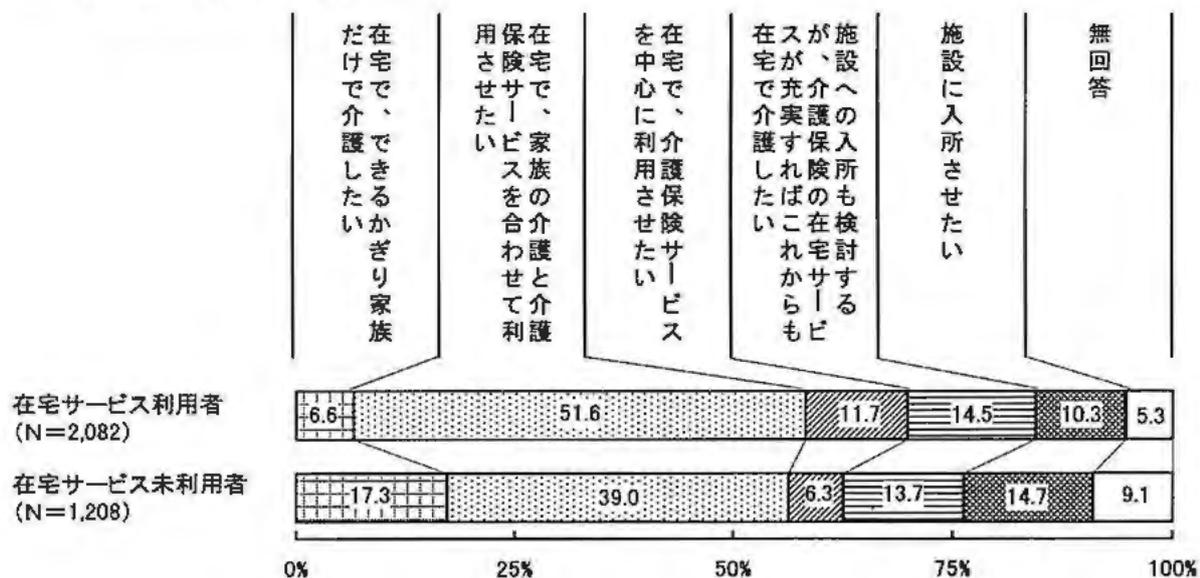
※在宅サービス利用者の「10歳代」の「0.0」は単位未満を示す

主な介護者の年齢は、在宅サービス利用者では「50歳代」が27.7%で最も高く、次いで「60歳代」23.4%、「70歳代」20.6%、「80歳以上」14.0%となっている。未利用者では「50歳代」「60歳代」「70歳代」がそれぞれ約23%、「80歳以上」が15.9%となっている。

### (4) 今後の介護の仕方

問 今後、どのように介護をしていきたいと思いませんか。(〇は1つ)

【今後の介護の仕方】

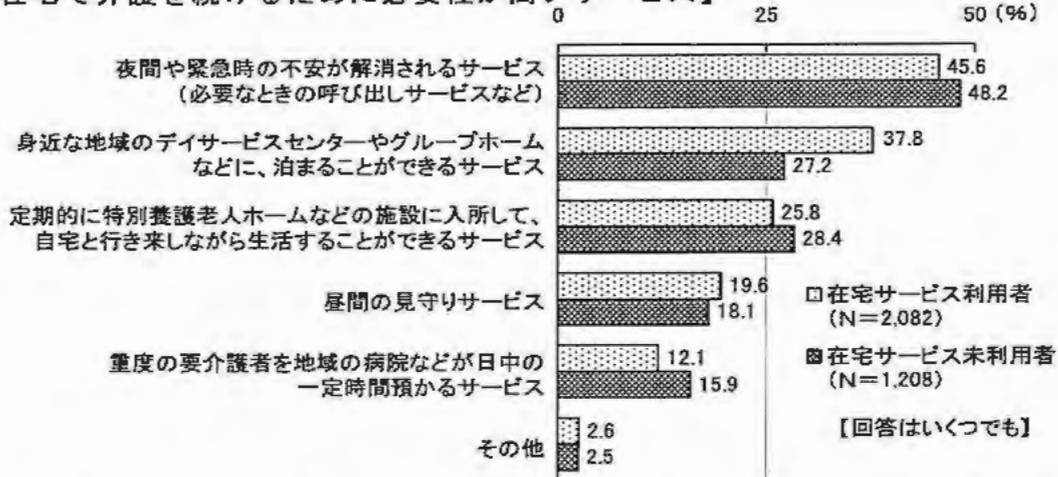


今後の介護について、在宅サービス利用者・未利用者とも「在宅で、家族の介護と介護保険サービスを合わせて利用したい」が最も高くなっているが、利用者は51.6%、未利用者は39.0%と利用者の方が約13ポイント高くなっている。また、「在宅で、介護保険サービスを中心に利用させたい」も利用者11.7%、未利用者6.3%と利用者の方が高く、「在宅で、できるかぎり家族だけで介護したい」は利用者6.6%、未利用者17.3%と未利用者の方が高いことから、未利用者では介護保険サービス利用にやや消極的な姿勢がうかがえる。

## (5) 在宅で介護を続けるために必要性が高いサービス

問 在宅で介護を続けるために、特に必要性が高い（利用したい）と思うサービスは何ですか。（〇はいくつでも）

## 【在宅で介護を続けるために必要性が高いサービス】

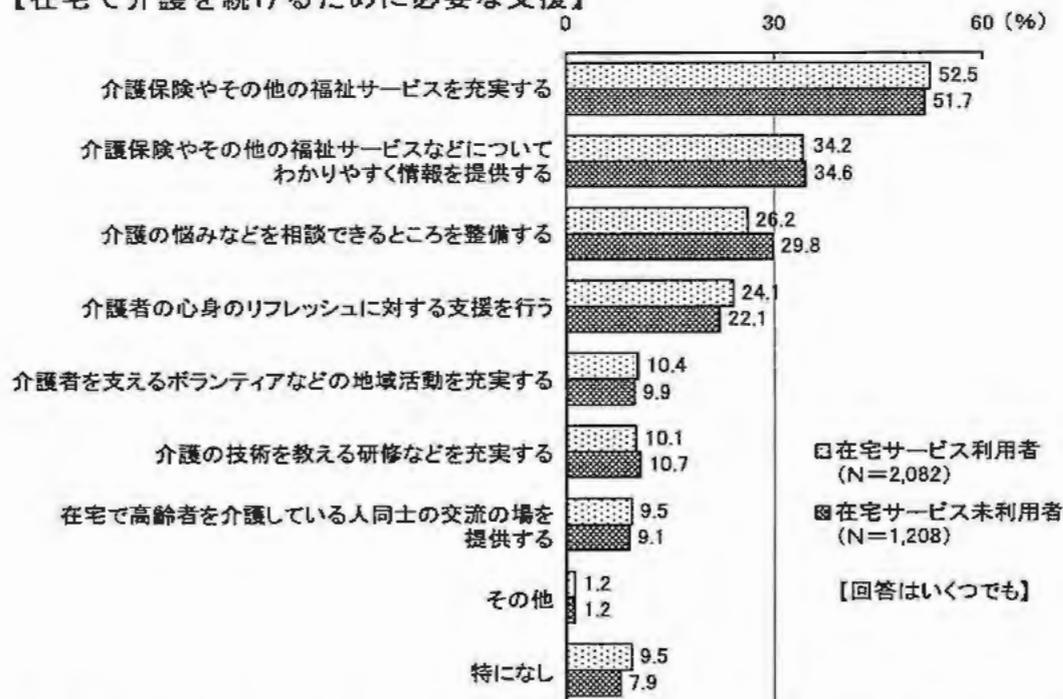


在宅で介護を続けるために必要性が高いサービスは、在宅サービス利用者・未利用者とも「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス」が最も高くなっている。次いで、利用者では「身近な地域のデイサービスセンターやグループホームなどに、泊まることができるサービス」、未利用者では「定期的に特別養護老人ホームなどの施設に入所して、自宅と行き来しながら生活することができるサービス」をあげている。

## (6) 在宅で介護を続けるために必要な支援

問 あなたが今後も在宅で介護を続けるために、特に支援が必要と思うことは何ですか。（〇はいくつでも）

## 【在宅で介護を続けるために必要な支援】



在宅で介護を続けるために必要な支援は、在宅サービス利用者・未利用者とも「介護保険やその他の福祉サービスを充実する」が5割を超えて最も高くなっている。次いで「介護保険やその他の福祉サービスなどについてわかりやすく情報を提供する」「介護の悩みなどを相談できるところを整備する」「介護者の心身のリフレッシュに対する支援を行う」などがあげられている。

### 第3章 在宅サービス利用者調査

#### 1. 介護予防サービス・介護保険サービスについて

##### (1) 介護予防・介護保険サービス内容の満足度

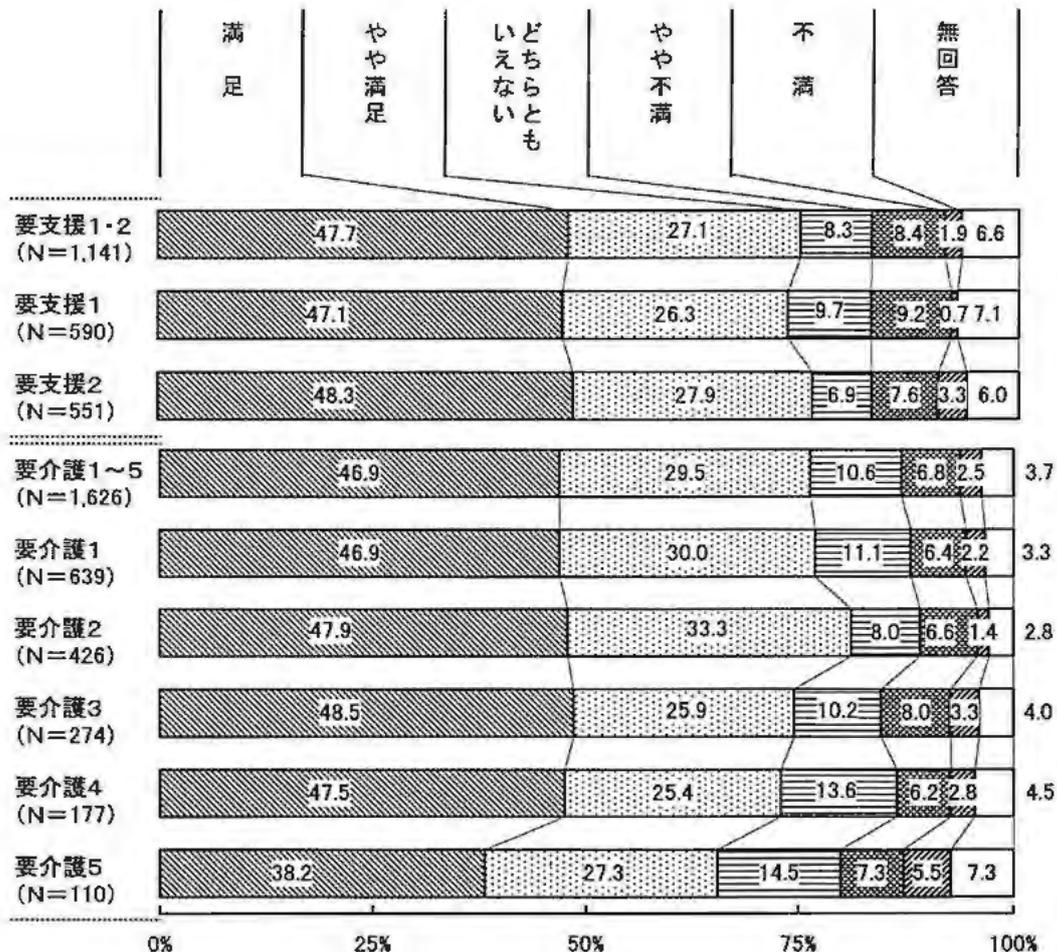
**【「介護予防サービスを利用している」と答えた方にうかがいます】**

問 現在利用している介護保険サービスの内容に満足していますか。  
(○は1つ)

**【「介護保険サービスを利用している」と答えた方にうかがいます】**

問 現在利用している介護保険サービスの内容に満足していますか。  
(○は1つ)

【介護予防・介護保険サービス内容の満足度×要介護度別】



現在、利用している介護保険サービスの満足度をみると、要支援1・2の人を対象にした介護予防サービスでは「満足」(47.7%)、「やや満足」(27.1%)を合わせて74.8%が『満足』、要介護1～5の人を対象にした介護サービスでは「満足」(46.9%)、「やや満足」(29.5%)を合わせて76.4%が『満足』と回答しており、いずれも7割以上が満足している。

要介護度別にみると「要介護2」で『満足』している割合が81.2%と最も高く、最も低いのは「要介護5」で65.5%となっている。

(2) 介護予防・介護保険サービスの不満点

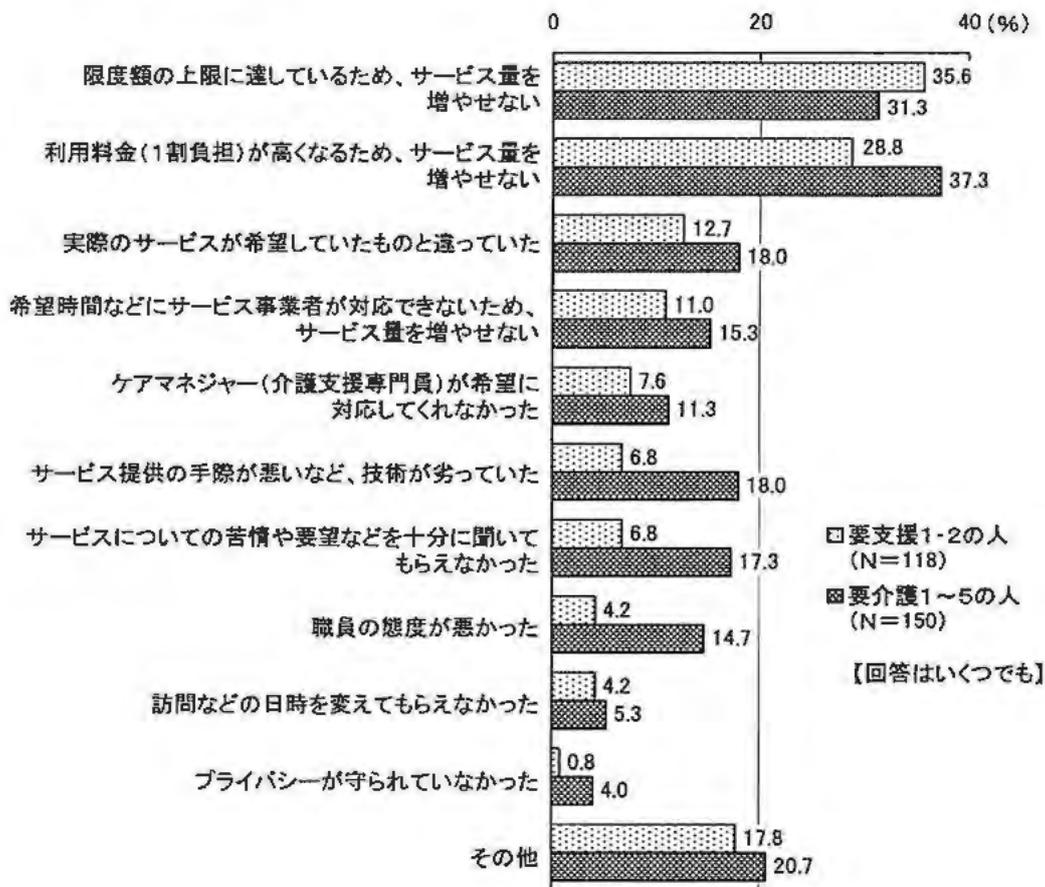
【「やや不満、不満」と答えた方にうかがいます】

問 どのようなところをご不満ですか。(〇はいくつでも)

【「やや不満、不満」と答えた方にうかがいます】

問 どのようなところをご不満ですか。(〇はいくつでも)

【介護予防・介護保険サービスの不満点】



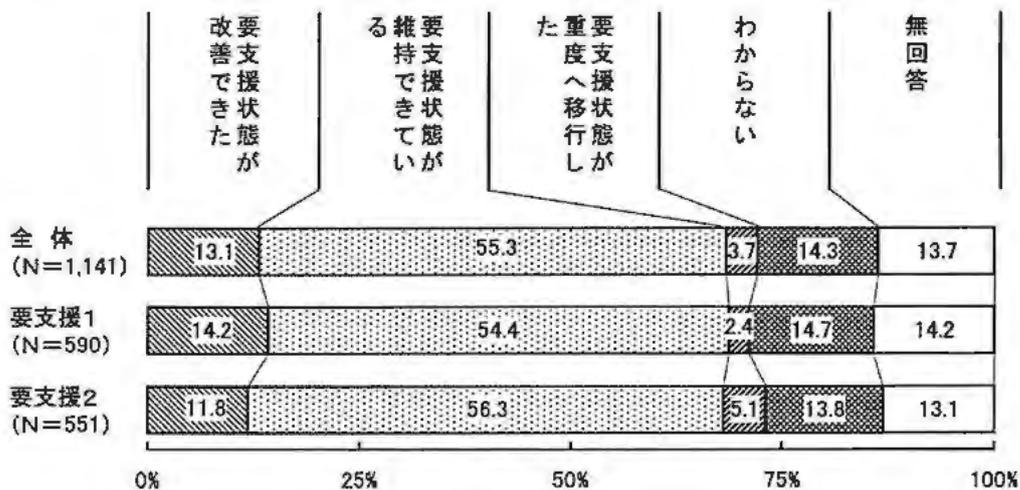
「やや不満」「不満」と回答した人にその理由をたずねたところ、要支援1・2では「限度額の上限に達しているため、サービス量を増やせない」が35.6%と最も高く、要介護1～5では「利用料金(1割負担)が高くなるため、サービス量を増やせない」が37.3%と最も高くなっている。

(3) 介護予防サービスの効果

【「介護予防サービスを利用している」と答えた方にかかっています】

問 現在利用している介護予防サービスについて、効果があったと思われましたか。(〇は1つ)

【介護予防サービスの効果・要支援1および2×要介護度別】



要支援1・2を対象にした介護予防サービスを利用している人に、その効果をたずねたところ「要支援状態が維持できている」が55.3%、「要支援状態が改善できた」が13.1%と68.4%がその効果を実感している。

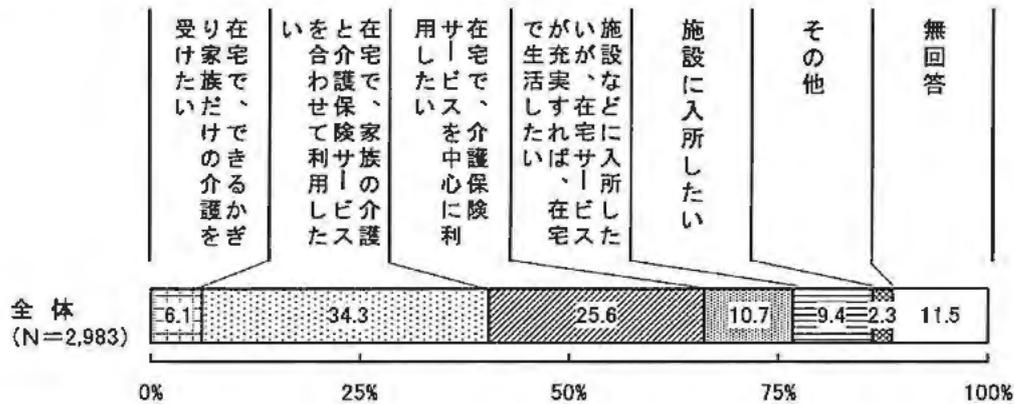
## 2. 今後の介護について

### (1) 今後、どのように介護を受けたいか

問 今後、どのように介護を受けていきたいと思いますか。(〇は1つ)

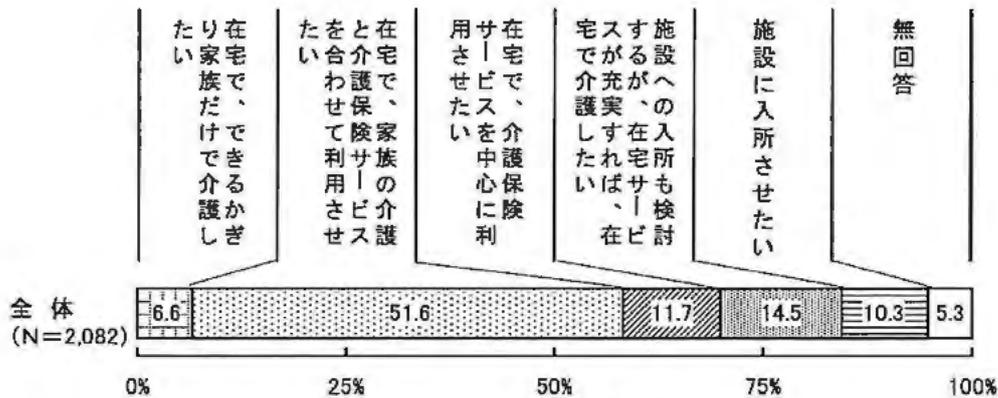
【今後、どのように介護を受けたいか】

◎本人



【今後の介護の仕方】

◎介護者



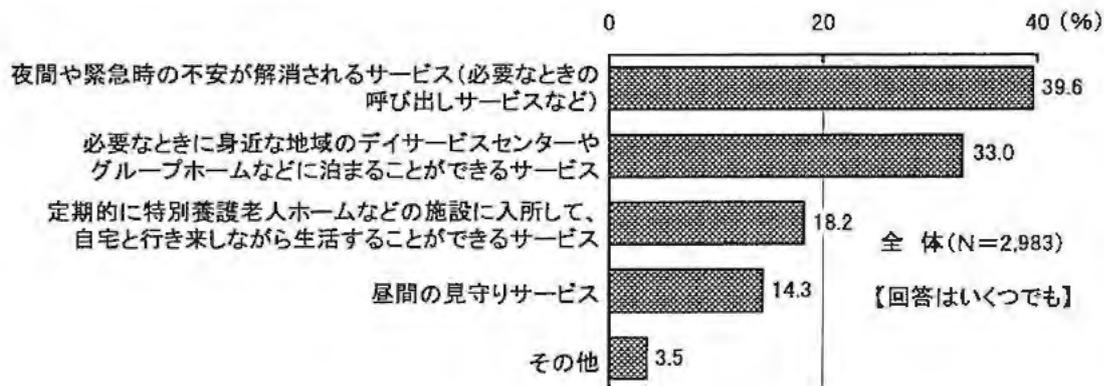
今後どのように介護を受けていきたいかでは、「在宅で、家族の介護と介護保険サービスを合わせて利用したい」が 34.3%と最も高く、「在宅で、介護保険サービスを中心に利用したい」が 25.6%と続いている。「施設に入所したい」は 9.4%となっている。

一方で、家族（介護者）に、どのように介護をしていきたいかをたずねた問いでは、「在宅で、家族の介護と介護保険サービスを合わせて利用させたい」が 51.6%と約5割を占めており、「在宅で、介護保険サービスを中心に利用させたい」は 11.7%、「施設に入所させたい」は 10.3%となっている。

(2) 在宅生活に必要なサービス

問 あなたが在宅で生活するために、必要性が高い（利用したい）と思うサービスは何ですか。（〇はいくつでも）

【在宅生活に必要なサービス】



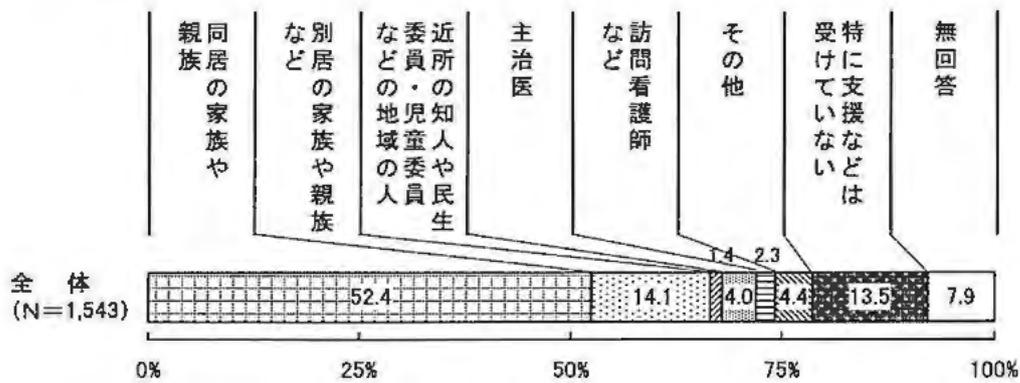
在宅で生活するために必要性が高いと思うサービスでは「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス（必要なときの呼び出しサービスなど）」が 39.6%と最も高く、次いで「必要なときに身近な地域のデイサービスセンターやグループホームなどに泊まることのできるサービス」が 33.0%となっている。

## 第4章 在宅サービス未利用者調査

### 1. 日常生活の支援を受けている人

問 あなたは日常生活の支援をどなたから受けていますか。(〇は1つ)

【日常生活の支援を受けている人】



日頃、日常生活の支援を受けている人では、「同居の家族や親族」が 52.4%と5割を超えている。

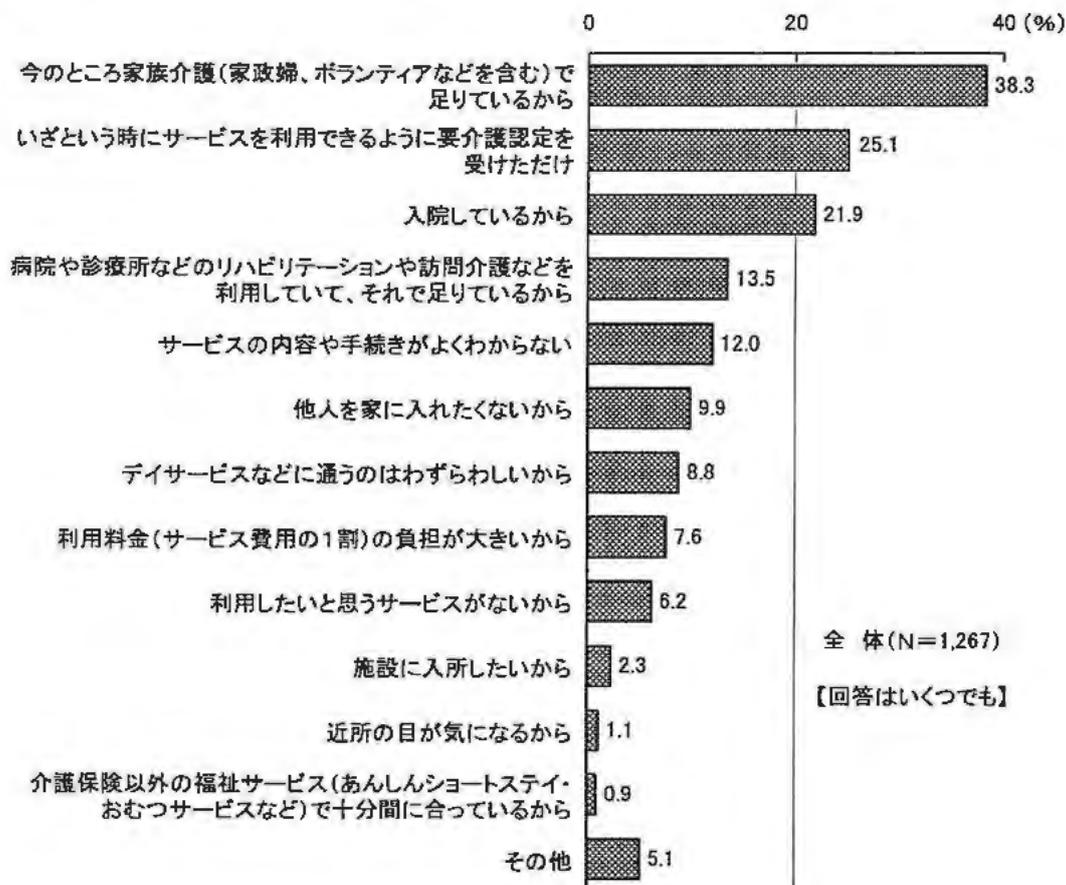
## 2. 介護保険サービスの利用について

### (1) 在宅サービスを利用していない理由

#### 【「在宅サービスを利用していない」と答えた方にうかがいます】

問 介護保険の在宅サービスを利用していないのはなぜですか。  
(〇はいくつでも)

#### 【在宅サービスを利用していない理由】

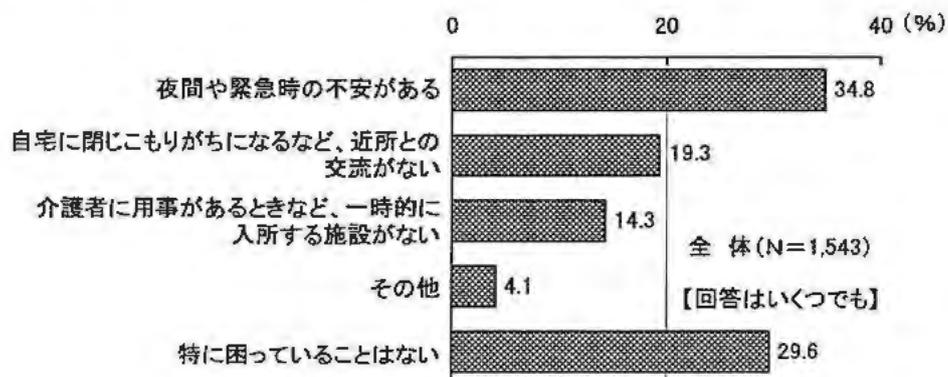


介護保険の在宅サービスを現在利用していないと回答した人(1,267人)に理由をたずねたところ、「今のところ家族介護(家政婦、ボランティアなどを含む)で足りているから」が38.3%と最も多く、「いざという時にサービスを利用できるように要介護認定を受けただけ」が25.1%、「入院しているから」が21.9%と続いている。

## 3. 在宅で生活する上で困っていること

問 現在、在宅で生活する上で、どのようなことに困っていますか。  
(〇はいくつでも)

## 【在宅で生活する上で困っていること】

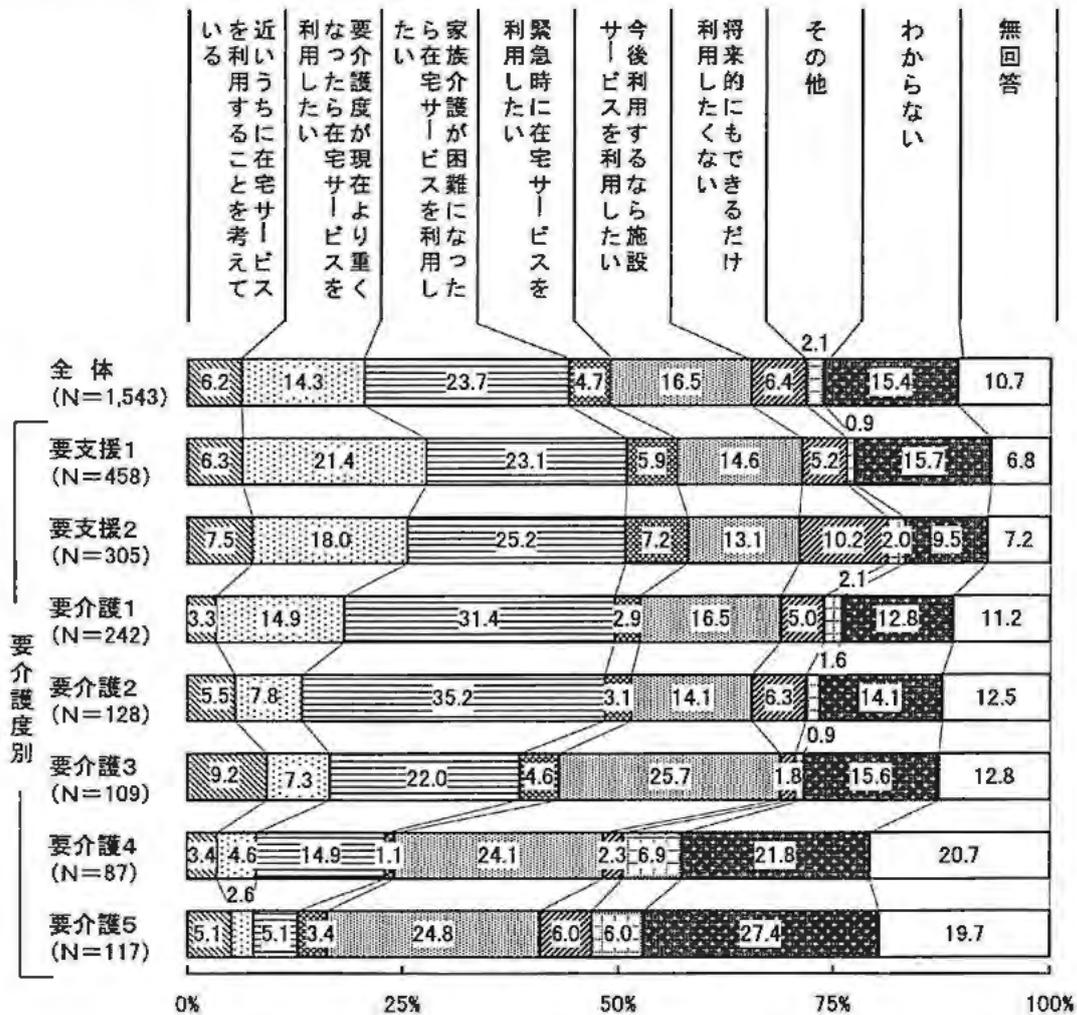


在宅で生活する上で困っていることでは、「夜間や緊急時の不安がある」が 34.8%と最も多くなっている。

## 4. 今後の介護サービスの利用について

問 今後の介護サービスの利用についてどのように考えていますか。  
(〇は1つ)

【今後の介護サービスの利用×要介護度別】



今後の介護サービスの利用については、「家族介護が困難になったら在宅サービスを利用したい」が23.7%と、最も多くなっている。

要介護度別にみると、「要介護3」以上では「今後利用するなら施設サービスを利用したい」（要介護3：25.7%、要介護4：24.1%、要介護5：24.8%）が最も多い。（ただし「要介護5」では「わからない」が27.4%）

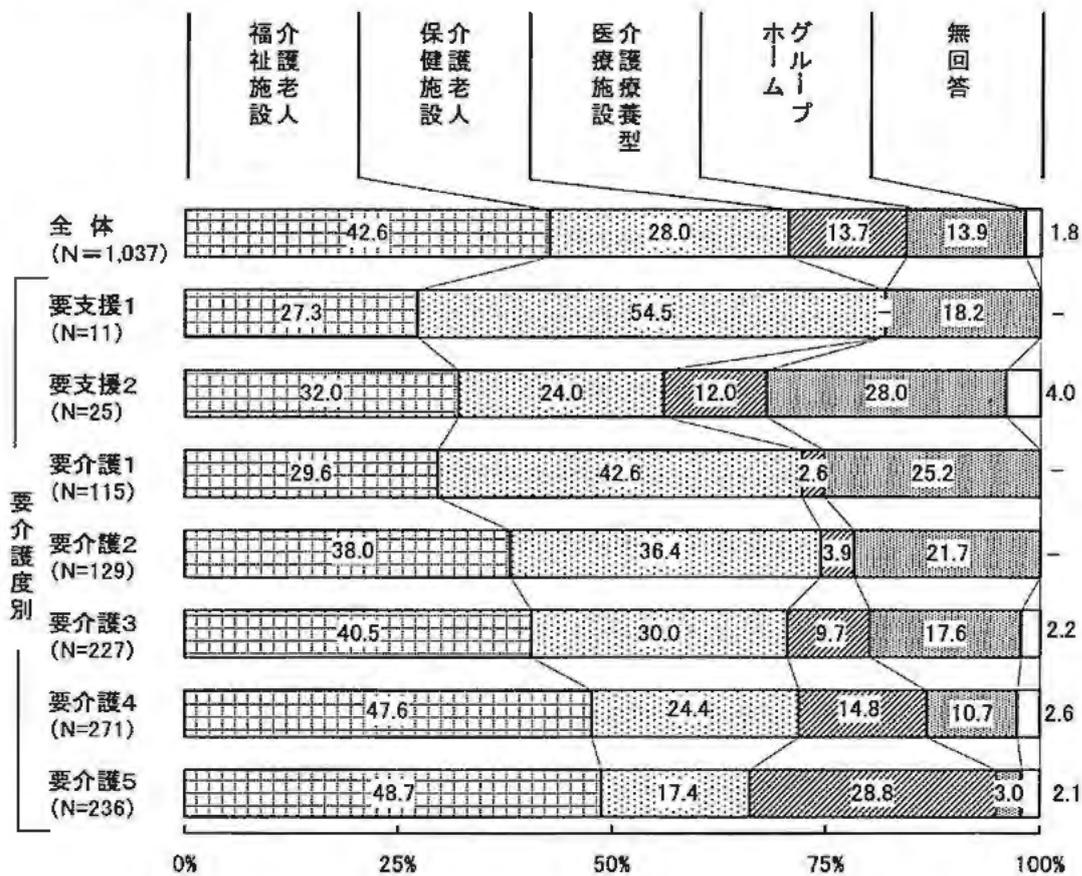
## 第5章 施設等サービス利用者調査

### 1. 回答者の特性

#### (1) 施設の種類の種類

問 現在、あなたが入っている施設等の種類はどれに当てはまりますか。  
(○は1つ)

【施設の種類の種類×要介護度別】



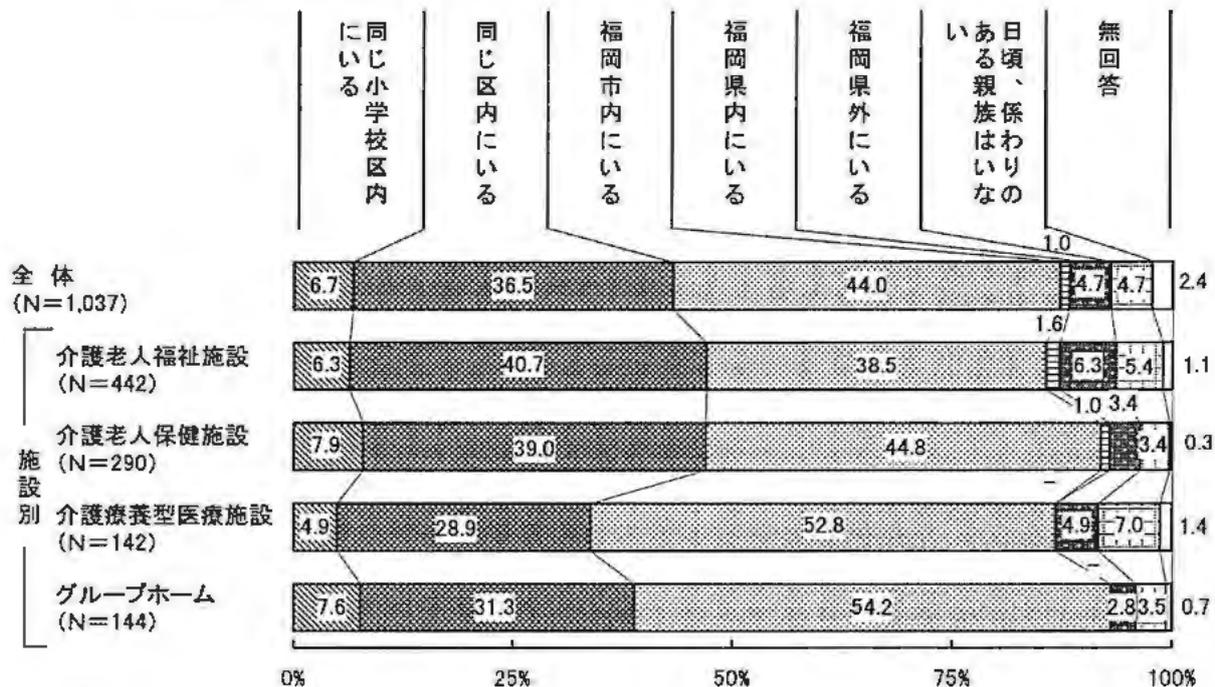
入っている施設の種類では、「介護老人福祉施設」が 42.6%と最も多く、次いで「介護老人保健施設」が 28.0%、「グループホーム」が 13.9%、「介護療養型医療施設」が 13.7%となっている。

要介護度別にみると、「介護老人福祉施設」は要介護度が高くなるにしたがい割合も高くなる傾向がみられ、要介護5で 48.7%と最も高くなっている。

(2) 日頃から係わりのある親族のいる場所

問 面会や外泊など、日頃から係わりのある親族の方が施設等の近くにいますか。  
(○は1つ)

【日頃から係わりのある親族のいる場所×施設別】



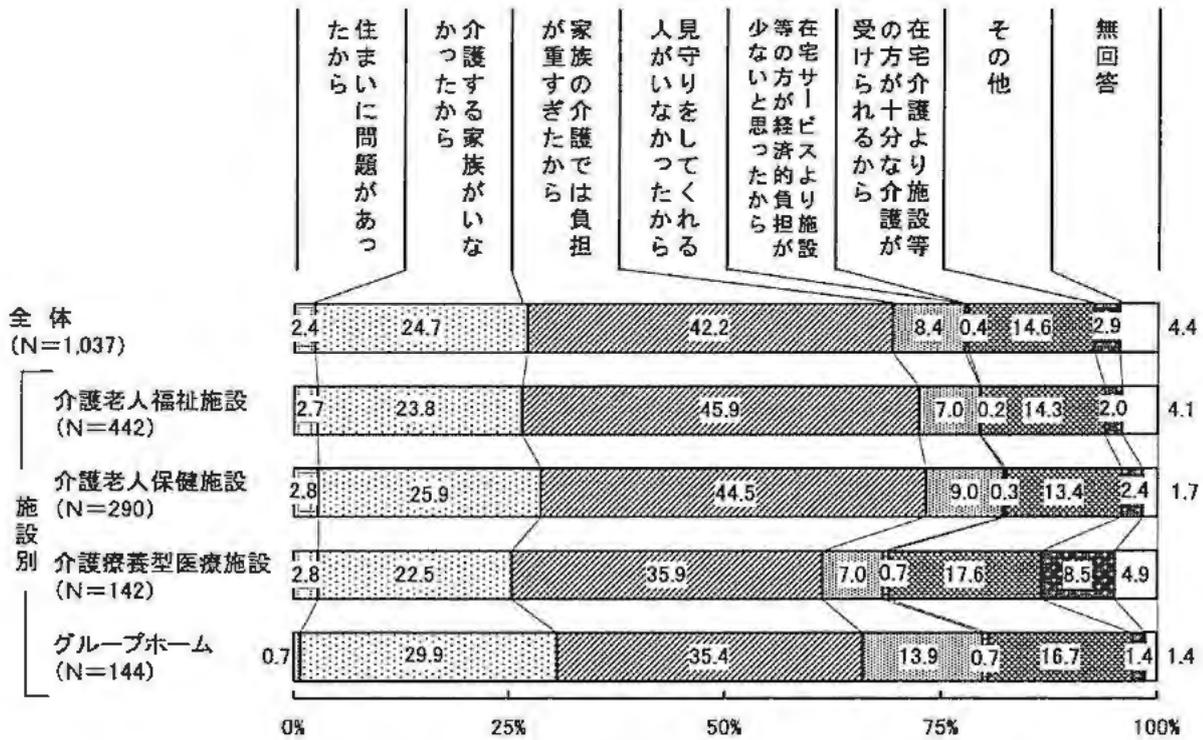
日頃から係わりのある親族のいる場所では、「福岡市内にいる」が44.0%、「同じ区内にいる」が36.5%など、福岡市内に親族がいる割合は合わせて87.2%を占めている。

施設別にみると介護老人福祉施設および介護老人保健施設で「同じ区内にいる」割合が介護療養型医療施設やグループホームと比べて高い。

(3) 施設等を希望した理由

問 なぜ、施設等を希望したのですか。(〇は1つ)

【施設等を希望した理由×施設別】



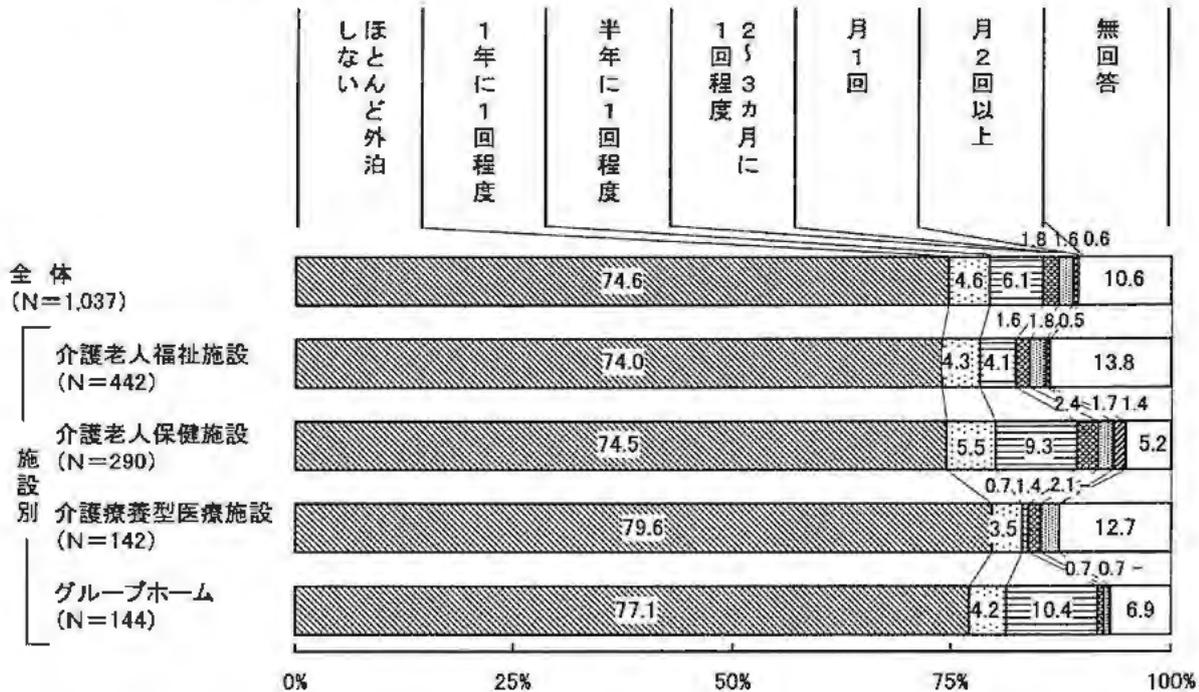
施設等を希望した理由では、「家族の介護では負担が重すぎたから」が 42.2%と最も多く4割を超えている。施設別にみると、グループホームで「介護する家族がいなかったから」が他と比べてやや高くなっている。

## 2. 外泊について

### (1) 外泊の頻度

問 外泊はどのくらいの頻度でしていますか。(〇は1つ)

【外泊の頻度×施設別】



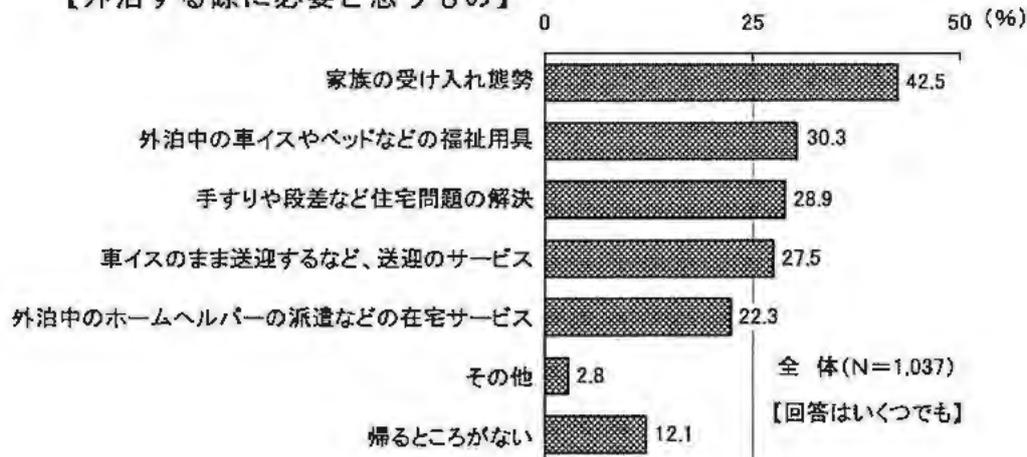
外泊の頻度は、「ほとんど外泊しない」が 74.6%と約4分の3を占めている。頻度では「半年に1回程度」が6.1%と最も多い。

施設別にみると、介護療養型医療施設で、「ほとんど外泊しない」が 79.6%と他と比べてやや多い。

### (2) 外泊する際に必要と思うもの

問 外泊する際に必要と思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

【外泊する際に必要と思うもの】



外泊する際に必要と思うものでは、「家族の受け入れ態勢」が 42.5%と最も割合が高くなっている。

## 3. 施設等を選ぶときに、重視する点

問 施設等を選ぶときに、特にどのようなことを重視して決めますか。  
(〇はいくつでも)

【施設等を選ぶときに重視する点×施設別】

		回答数	自宅や親族の家に近い	施設等の運営方針	職員の資格や経験年数	職員の態度、対応	施設などの独自のサービス	評判が良い	設備などが整っている
全体		1,037 100.0	614 59.2	192 18.5	112 10.8	481 46.4	111 10.7	272 26.2	366 35.3
施設別	介護老人福祉施設	442	54.8	17.4	11.1	38.9	9.5	23.5	34.6
	介護老人保健施設	290	65.9	16.9	9.0	49.3	11.7	29.3	35.2
	介護療養型医療施設	142	55.6	22.5	13.4	49.3	7.7	33.1	47.9
	グループホーム	144	63.9	22.2	10.4	59.7	14.6	22.2	25.0
		回答数	個室があること	多床室があること	苦情や相談の窓口が	事故の際の体制や保険	医療・リハビリの体制	その他	無回答
全体		1,037 100.0	189 18.2	98 9.5	184 17.7	158 15.2	414 39.9	38 3.7	152 14.7
施設別	介護老人福祉施設	442	20.4	10.0	13.8	13.8	29.4	2.7	22.6
	介護老人保健施設	290	7.6	12.1	23.1	19.0	49.0	3.8	10.3
	介護療養型医療施設	142	2.1	10.6	21.1	14.1	59.9	4.2	6.3
	グループホーム	144	49.3	2.8	16.7	13.2	34.7	6.3	6.9

施設等を選ぶときに重視する点では、「自宅や親族の家に近い」が59.2%と最も高く、次いで「職員の態度、対応」が46.4%、「医療・リハビリの体制が整っている」が39.9%、「設備などが整っている」が35.3%などとなっている。

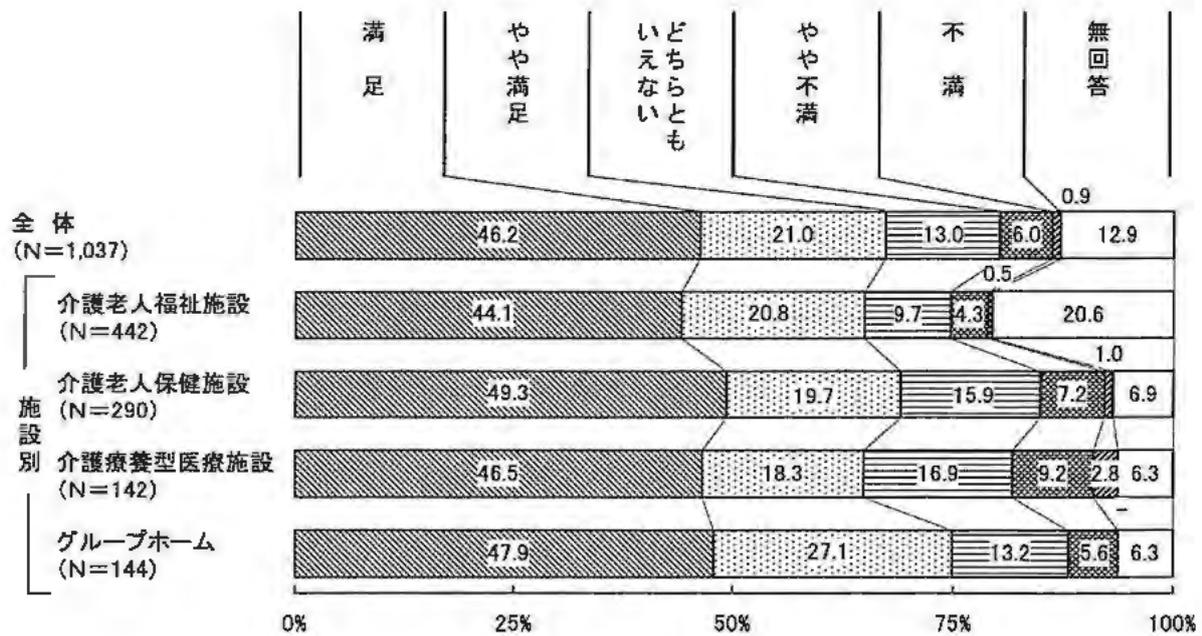
施設別にみると、介護老人保健施設で「自宅や親族の家に近い」が65.9%と特に高くなっている。介護療養型医療施設では「医療・リハビリの体制が整っている」が59.9%と最も高く、「設備などが整っている」も47.9%と他の施設と比べて割合が高い。

また、グループホームでは「職員の態度、対応」が59.7%、「個室があること」が49.3%と他と比べて割合が高くなっている。

## 4. 現在の施設等の満足度

問 現在の施設等に満足していますか。(〇は1つ)

【現在の施設等の満足度×施設別】



現在の施設等の満足度では、「満足」が 46.2%、「やや満足」が 21.0%と、合わせて 67.2%が『満足』と回答している。

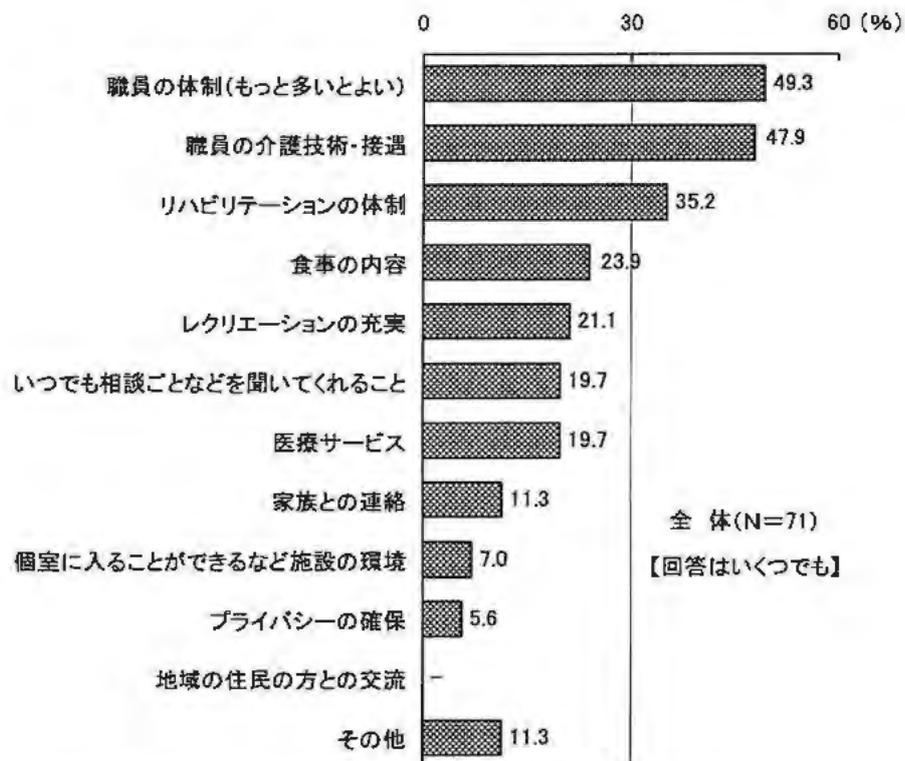
施設別では、大きな差はみられない。

## 5. 充実させてほしいこと

## 【「やや不満、不満」と答えた方にかがいます】

問 もっと充実させてほしいのはどのようなことですか。  
(〇はいくつでも)

## 【充実させてほしいこと】



問 19-2 で、「やや不満」(62 人)、「不満」(9 人) と回答した人 (計 71 人) に「もっと充実させてほしいこと」をたずねたところ、「職員の体制 (もっと多いとよい)」が 49.3%、「職員の介護技術・待遇」が 47.9% と要望が高くなっている。

## 第6章 介護支援専門員調査

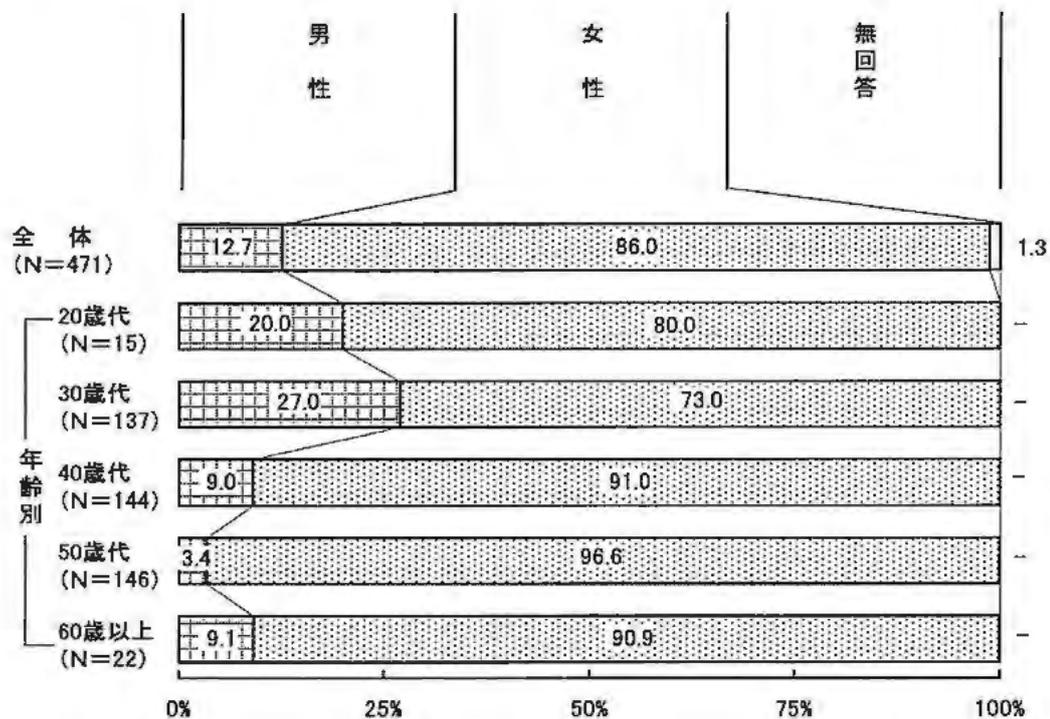
### 1. 回答者の属性

#### (1) 性別、年齢

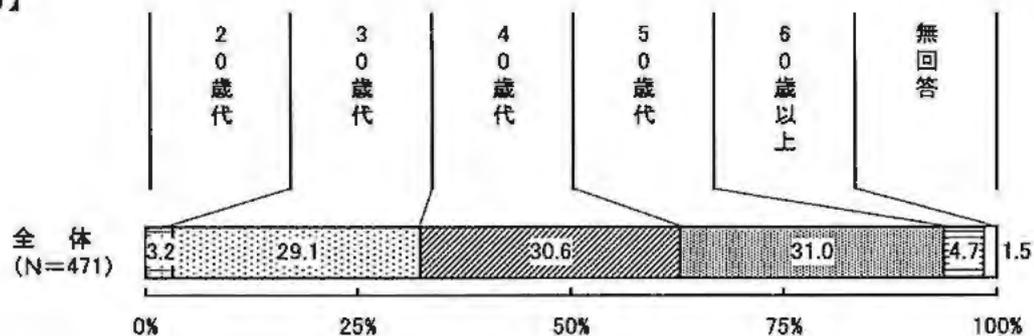
問 あなたの性別は。

問 あなたの年齢は。(平成19年10月1日現在)

【性別×年齢別】



【年齢】

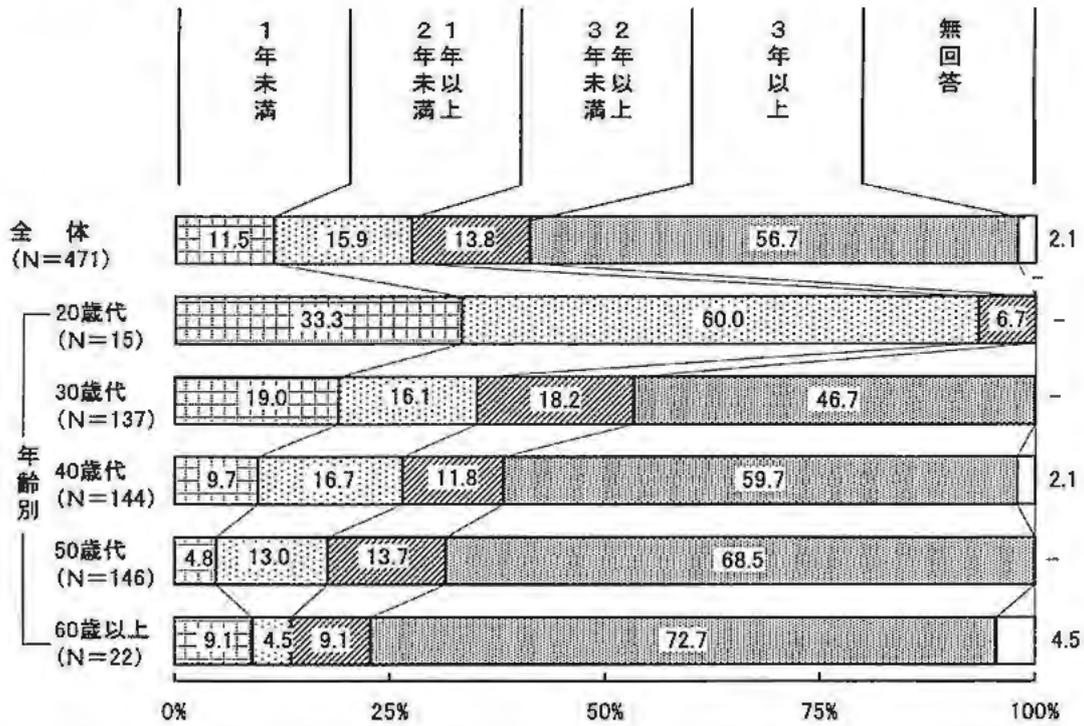


介護支援専門員は、女性が 86.0%と多く、特に 40 歳代以上で 9 割を超えている。年齢別では 50 歳代 (31.0%)、40 歳代 (30.6%)、30 歳代 (29.1%) がそれぞれ 3 割前後を占めている。

(2) 専門員歴

問 あなたが介護支援専門員として働き始めてから何年ですか。(〇は1つ)

【専門員歴×年齢別】

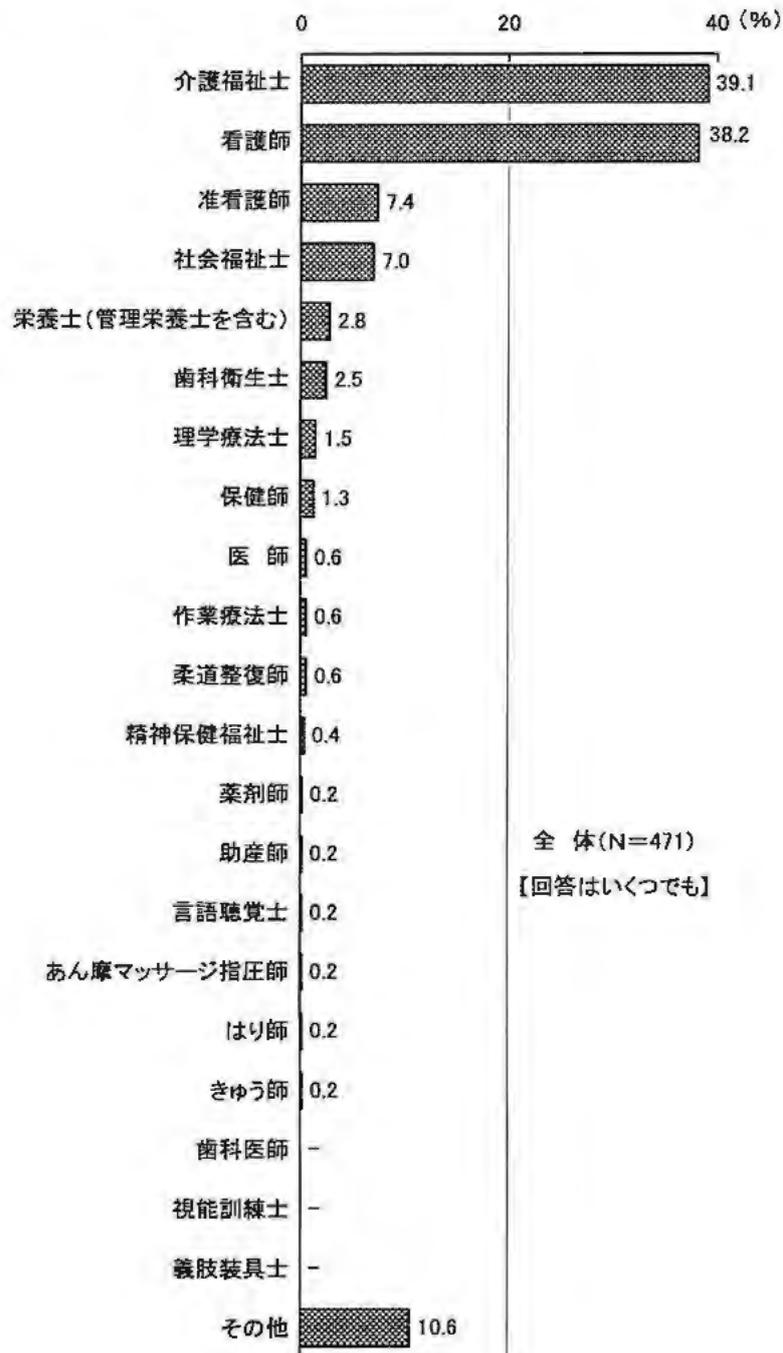


専門員の経験年数では、「3年以上」が 56.7%と最も多い。年齢別にみると年齢が高くなるにつれて「3年以上」の割合も上昇し、60歳以上では7割を超えている。

(3) 介護支援専門員以外の取得資格

問 あなたが介護支援専門員以外に取得している資格などは何ですか。  
(〇はいくつでも)

【介護支援専門員以外で取得している資格】



介護支援専門員以外で取得している資格では、「介護福祉士」が 39.1%、「看護師」が 38.2%と  
いずれも 4 割弱にのぼっている。

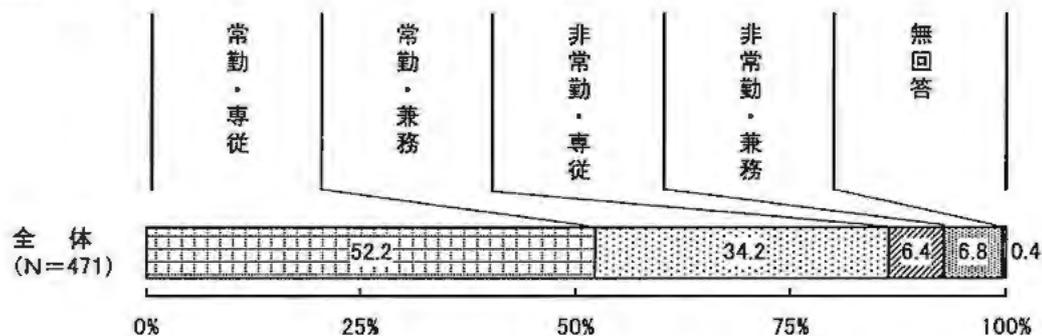
## (4) 勤務形態・兼務内容

問 あなたの勤務形態は次のうちどれですか。(〇は1つ)

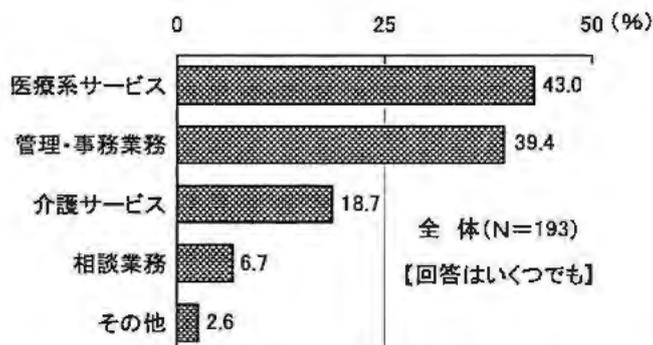
【「兼務」と答えられた方にかがいます】

問 どのような業務を兼務していますか。(〇はいくつでも)

## 【勤務形態】



## 【兼務内容】



勤務形態では、「常勤・専従」が 52.2%、「常勤・兼務」が 34.2%で、常勤が 86.4%を占めている。

常勤・非常勤にかかわらず兼務している人の業務内容は「医療系サービス」が 43.0%、「管理・事務業務」が 39.4%となっている。

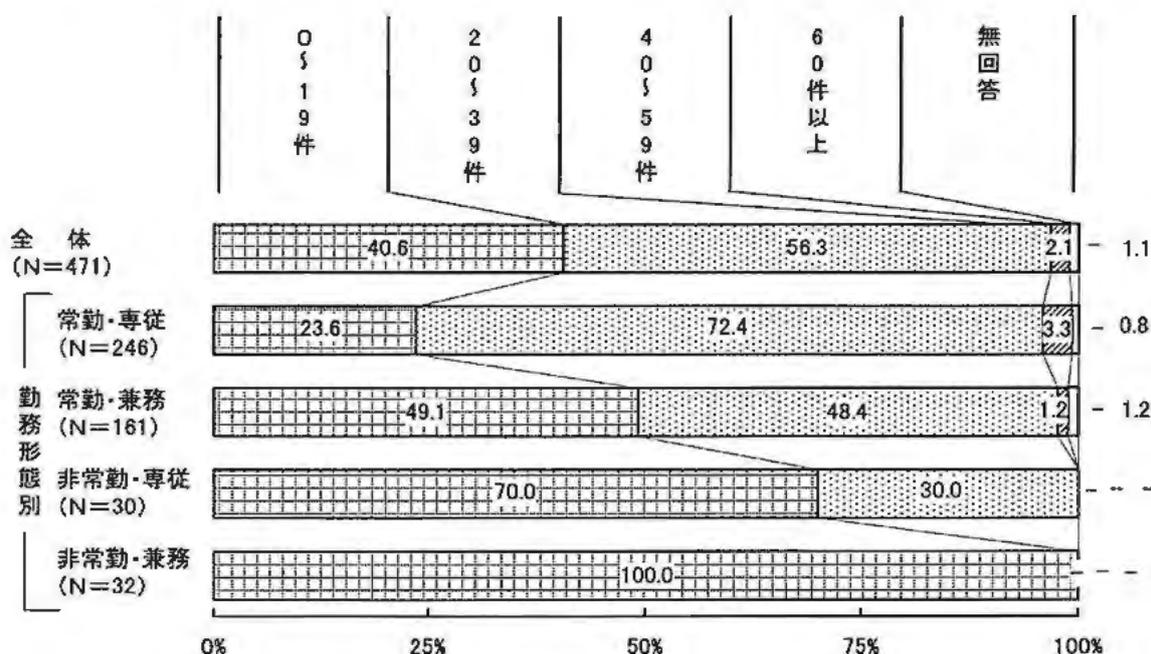
## 2. ケアマネジメントについて

### (1) 給付管理件数

【以下の(1)～(4)は平成 19 年 9 月の状況について教えてください】

問 あなたが給付管理を行ったケース（利用者が9月にサービスを利用し、介護報酬の対象となったケース）は何件ですか。

【給付管理件数×勤務形態別】



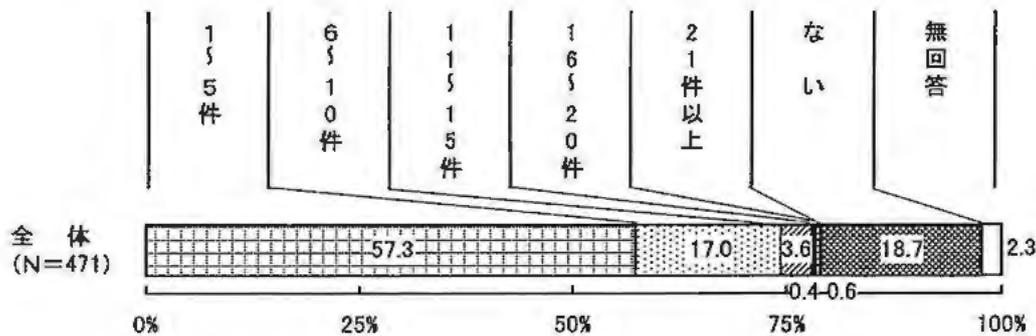
平成 19 年 9 月の給付管理件数は合計 9,973 件で一人当たり平均は 21.2 件となっている。

勤務形態別にみると、常勤専従は一人当たり平均 25.6 件、常勤兼務は 18.7 件、非常勤専従は 16.8 件、非常勤兼務は 4.5 件となっている。

(2) 保険外サービスを組み合わせたケアプラン状況

問 市の福祉サービス、ボランティアなどの保険外サービスを組み合わせて作成したケアプランはありますか。あればその件数も記入してください。  
(〇は1つ)

【保険外サービスを組み合わせたケアプランの状況】



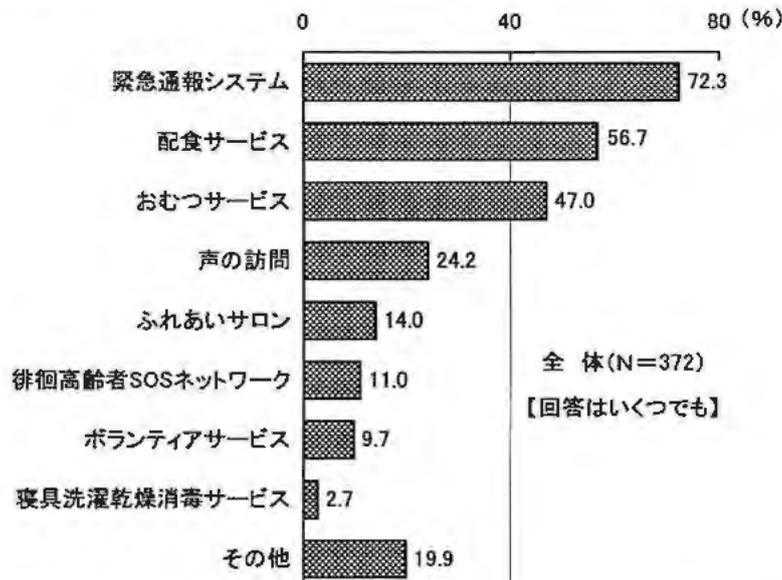
保険外サービスを組み合わせて作成したケアプランは合計1,650件で、全体(9,973件)の16.5%となっている。ケアマネジャー全体の78.9%が保険外サービスと組み合わせてケアプランを作成したと回答しており、そのうち「1~5件」が57.3%、「6~10件」が17.0%と10件以内がほとんどである。

(3) 保険外サービスの種類

【「ある」と答えられた方にうかがいます】

問 そのサービスの種類は何ですか。該当するものの番号を〇で囲み、またケースの件数も記入してください。(〇はいくつでも)

【保険外サービスの種類】



組み合わせた保険外サービスの内容は「緊急通報システム」が72.3%で最も高く、次いで「配食サービス」が56.7%、「おむつサービス」が47.0%などとなっている。

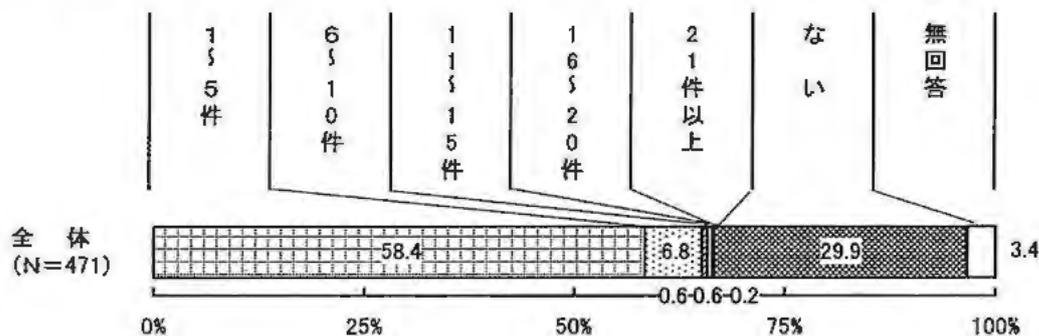
(4) 在宅での生活が困難なケースの状況・内容

問 在宅での生活が困難なケースはありますか。あればその件数も記入してください。(〇は1つ)

【「ある」と答えられた方にかがいます】

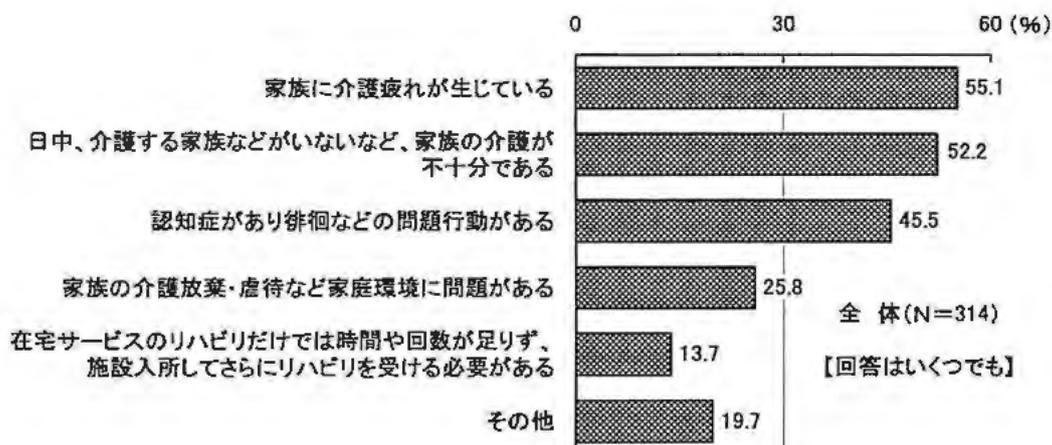
問 具体的にはどのようなケースですか。該当するものの番号を〇で囲み、またケースの件数も記入してください。(〇はいくつでも)

【在宅での生活が困難なケースの発生状況】



在宅での生活が困難なケースは合計 931 件で全体の 9.3%となっている。ケアマネジャー全体の 66.6%が在宅での生活が困難なケースがあると回答しており、そのうち「1～5件」が 58.4%を占めている。

【在宅での生活が困難なケースの内容】



在宅での生活が困難なケースの内容をみると、「家族に介護疲れが生じている」が 55.1%、次いで「日中、介護する家族などがいないなど、家族の介護が不十分である」が 52.2%といずれも『介護する家族』にかかわる問題が 5 割を超えている。次いで「認知症があり徘徊などの問題行動がある」が 45.5%となっている。

## (5) 計画作成上利用しにくいサービス

## 【以下の(5)～(8)は平成18年4月以降の状況についてお答えください】

問 ケアマネジャーとして居宅サービス計画を作成するに当たり、全体的に、利用しにくいサービスについて、該当するものに○をつけてください。  
また、その理由について下記の選択肢から選び、該当するサービス欄に番号を記入してください。(○はいくつでも)

## 【利用しにくいサービス】

サービスの種類	理由	(件数)						
		回答数	悪い事業所の質が	利用料が高い	利用の基準が厳しすぎる	内容が利用者の希望とそぐわない	その他	無回答
(介護予防)訪問介護		105	21	-	62	40	5	-
(介護予防)訪問入浴介護		41	-	29	3	4	6	-
(介護予防)訪問看護		43	1	33	1	1	8	1
(介護予防)訪問リハビリテーション		46	-	9	13	12	14	-
(介護予防)通所介護		29	7	2	2	18	1	-
(介護予防)通所リハビリテーション		35	11	3	5	16	4	-
(介護予防)福祉用具貸与		53	-	1	49	2	3	-
(介護予防)居宅療養管理指導		26	-	4	-	6	14	3
(介護予防)短期入所生活介護		28	2	4	6	9	10	-
(介護予防)短期入所療養介護		24	1	1	7	5	11	-
(介護予防)福祉用具購入		4	-	-	2	1	1	-
住宅改修		11	3	1	4	-	4	-
(介護予防)小規模多機能型居宅介護		33	-	4	6	9	16	1
夜間対応型訪問介護		13	-	3	1	2	6	1
(介護予防)認知症対応型通所介護		12	1	7	1	-	4	-
その他の居宅サービス		4	-	-	3	-	1	-
無回答		-	-	-	-	-	-	-
合計		507	47	101	165	125	108	6

居宅サービス計画を作成するに当たり利用しにくいサービスは「(介護予防)訪問介護」が105件と最も多く、次いで「(介護予防)福祉用具貸与」(53件)、「(介護予防)訪問リハビリテーション」(46件)、「(介護予防)訪問看護」(43件)、「(介護予防)訪問入浴介護」(41件)などがあげられている。

利用しにくい理由は「(介護予防)訪問介護」が「利用の基準が厳しすぎる」(62件)、「内容が利用者の希望とそぐわない」(40件)、「事業所の質が悪い」(21件)などとなっており、「(介護予防)福祉用具貸与」でも「利用の基準が厳しすぎる」(49件)が主な理由となっている。その他「(介護予防)訪問看護」と「(介護予防)訪問入浴介護」では「利用料が高い」が主な理由となっている。

(6) 計画作成上過剰なサービス

問 ケアマネジャーとして居宅サービス計画を作成するに当たり、全体的に、必ずしも必要ではないが計画に組み込んでいるサービス（過剰サービス）について、該当するものに○をつけてください。  
また、その理由について下記の選択肢から選び、該当するサービス欄に番号を記入してください。（○はいくつでも）

【過剰なサービス】

サービスの種類	理由	回答数	(件数)					無回答
			利用者がサービスを希望し、調整が難しかった	家族がサービスを希望し、調整が難しかった	意向で関係する事業所の所属する事業所を勧めた	利用すると安心だと考え、利用を勧めた	その他	
(介護予防)訪問介護		80	51	39	4	6	3	-
(介護予防)訪問入浴介護		-	-	-	-	-	-	-
(介護予防)訪問看護		8	1	1	2	5	-	-
(介護予防)訪問リハビリテーション		4	-	1	-	1	2	-
(介護予防)通所介護		14	9	3	1	1	1	-
(介護予防)通所リハビリテーション		4	2	1	-	1	-	-
(介護予防)福祉用具貸与		13	7	7	-	1	1	-
(介護予防)居宅療養管理指導		4	1	-	2	-	-	1
(介護予防)短期入所生活介護		6	1	4	-	-	1	-
(介護予防)短期入所療養介護		4	1	2	-	-	1	-
(介護予防)福祉用具購入		6	3	3	-	-	1	-
住宅改修		4	2	2	-	1	-	-
(介護予防)小規模多機能型居宅介護		-	-	-	-	-	-	-
夜間対応型訪問介護		-	-	-	-	-	-	-
(介護予防)認知症対応型通所介護		-	-	-	-	-	-	-
その他の居宅サービス		1	-	-	-	1	-	-
合計		148	78	63	9	17	10	1

居宅サービス計画を作成するに当たり必ずしも必要ではないが計画に組み込んでいるサービスは「(介護予防)訪問介護」が 80 件と最も多く、主な理由は「利用者がサービスを希望し、調整が難しかった」(51 件)と「家族がサービスを希望し、調整が難しかった」(39 件)となっている。

## (7) 計画作成上不足するサービス

問 ケアマネジャーとして居宅サービス計画作成するに当たり、全体的に、不足していると思うサービスについて、該当するものに○をつけてください。また、その理由について下記の選択肢から選び、該当するサービス欄に番号を記入してください。(○はいくつでも)

## 【不足しているサービス】

サービスの種類	理由	回答数	(件数)						
			近事業所が利用者の近くに なかった	希望時間 に提供で きな かった	利用者 がサー ビス を希 望し な か つ た	家族 がサー ビス を 希 望 し な か つ た	これ 以上 のサ ービ ス利 用料 を負 担で きな い	その他	無 回 答
(介護予防)訪問介護		61	8	27	10	9	17	6	1
(介護予防)訪問入浴介護		16	3	5	2	2	5	-	-
(介護予防)訪問看護		41	4	9	17	8	11	4	-
(介護予防)訪問リハビリテーション		56	32	18	7	1	6	8	1
(介護予防)通所介護		52	8	4	27	5	15	2	1
(介護予防)通所リハビリテーション		52	13	5	18	8	7	4	-
(介護予防)福祉用具貸与		19	-	1	5	1	5	7	1
(介護予防)居宅療養管理指導		9	3	-	1	2	1	2	-
(介護予防)短期入所生活介護		57	14	25	9	5	10	3	-
(介護予防)短期入所療養介護		31	11	11	3	3	3	5	-
(介護予防)福祉用具購入		6	-	-	2	2	3	1	-
住宅改修		9	1	1	2	2	3	2	-
(介護予防)小規模多機能型居宅介護		26	23	2	3	1	2	-	-
夜間対応型訪問介護		18	11	2	-	1	3	2	-
(介護予防)認知症対応型通所介護		16	8	1	4	3	3	-	-
その他の居宅サービス		1	-	-	-	-	1	-	-
合計		470	139	111	110	53	95	46	4

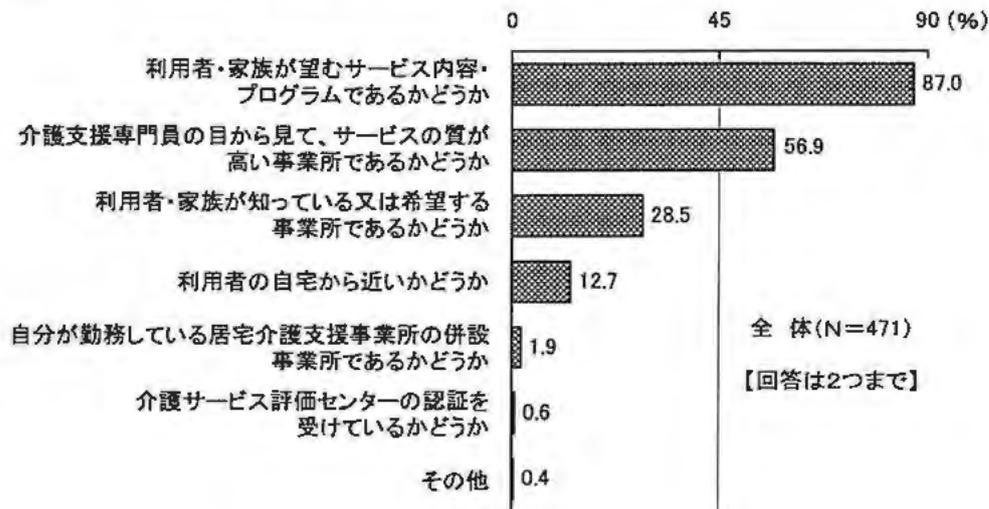
居宅サービス計画作成するに当たり不足していると思うサービスは「(介護予防)訪問介護」(61件)、「(介護予防)短期入所生活介護」(57件)、「(介護予防)訪問リハビリテーション」(56件)、「(介護予防)通所介護」、「(介護予防)通所リハビリテーション」(ともに52件)などが上位にあげられている。

不足している理由は「(介護予防)訪問介護」と「(介護予防)短期入所生活介護」は「希望時間に提供できなかった」、「(介護予防)訪問リハビリテーション」は「事業所が利用者の近くになかった」、「(介護予防)通所介護」と「(介護予防)通所リハビリテーション」は「利用者がサービスを希望しなかった」が主な理由である。また、「(介護予防)訪問介護」と「(介護予防)通所介護」では「これ以上のサービス利用料を負担できない」の理由も他のサービスに比べて多い。

(8) 事業所紹介の際に重視する点

問 あなたは利用者に対して、どんな基準を重視してサービス事業所を紹介していますか。(〇は2つまで)

【紹介の際に重視する点】



サービス事業所を紹介する際に重視する点では、「利用者・家族が望むサービス内容・プログラムであるかどうか」が 87.0% と最も多く、次いで「介護支援専門員目から見て、サービスの質が高い事業所であるかどうか」が 56.9% となっている。

## (9) 介護予防マネジメントの効果の有無・その理由

問 予防給付サービスの提供に際し、介護予防マネジメントが利用者の状態の改善や生活機能の向上に効果的であったと思いますか。(〇は1つ)

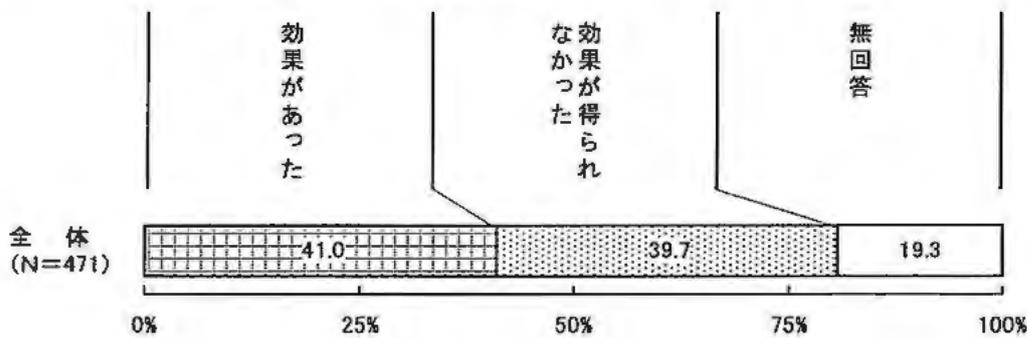
**【「効果があった」と答えられた方にかがいます】**

問 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

**【「効果が得られなかった」と答えられた方にかがいます】**

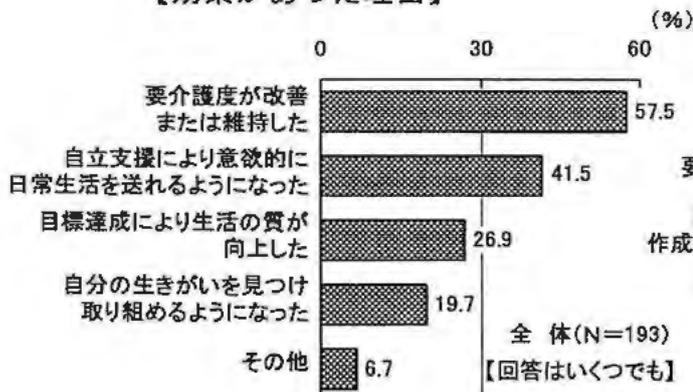
問 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【介護予防マネジメントの効果の有無】

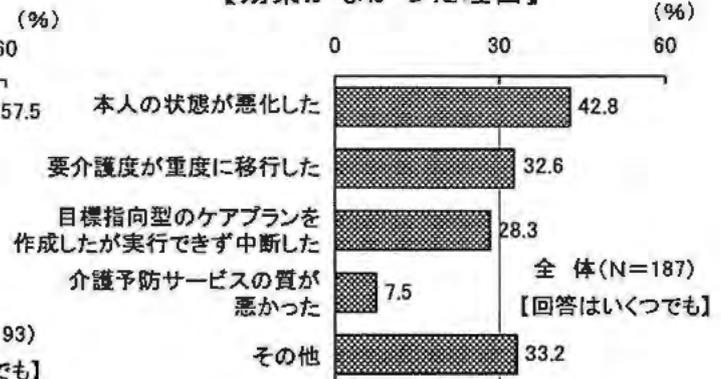


介護予防マネジメントの効果については、「効果があった」が41.0%、「効果が得られなかった」が39.7%と拮抗している。

【効果があった理由】



【効果がなかった理由】



効果があった理由は「要介護度が改善または維持した」が57.5%、「自立支援により意欲的に日常生活を送れるようになった」が41.5%、効果がなかった理由は「本人の状態が悪化した」が42.8%となっている。効果がなかった理由の「その他」には明確な効果はみられない、介護予防への理解が得られない、サービス量減による意欲の低下などがあげられている。

### 3. 処遇困難事例などへの対応について

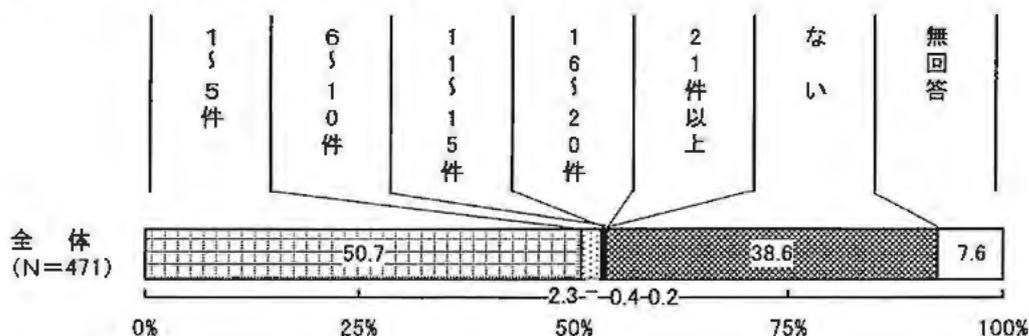
#### (1) 処遇困難事例の状況

問 処遇困難な事例はありますか。あればその件数も記入してください。  
(○は1つ)

**【「ある」と答えられた方にうかがいます】**

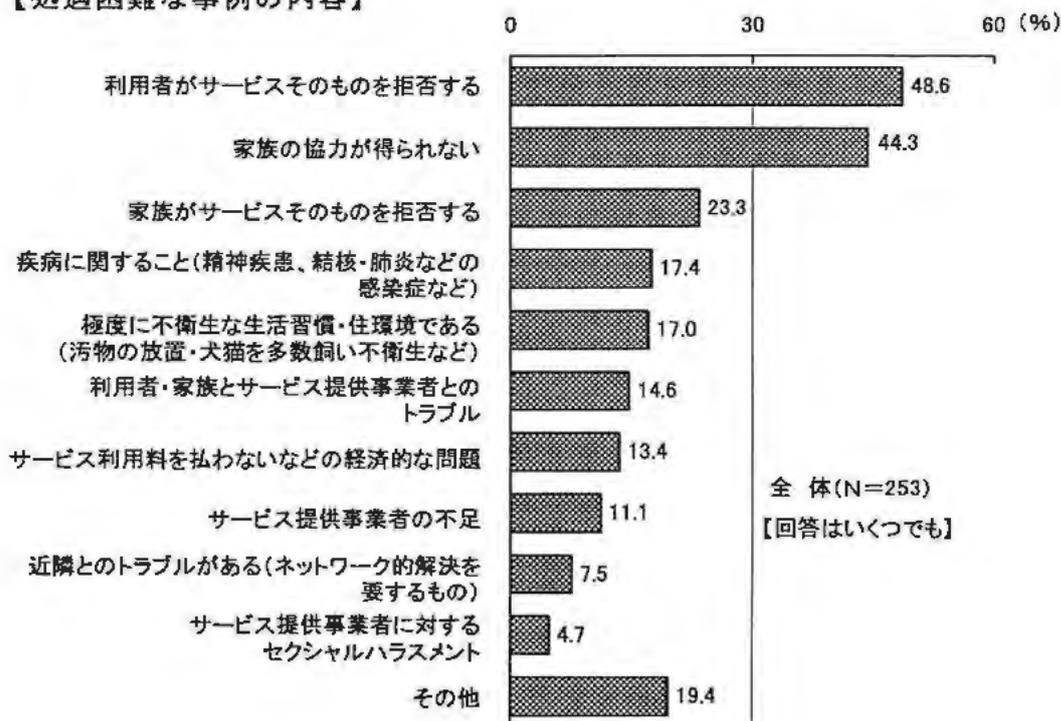
問 その事例はどのような事例ですか。該当するものの番号を○で囲み、また事例の件数も記入してください。(○はいくつでも)

【処遇困難な事例の発生状況】



処遇が困難な事例は 614 件で、全体の 6.2%となっている。ケアマネジャー全体の 53.6%が処遇困難な事例があったと回答しており、そのうち「1～5件」が 50.7%と5件以下がほとんどを占めている。

【処遇困難な事例の内容】

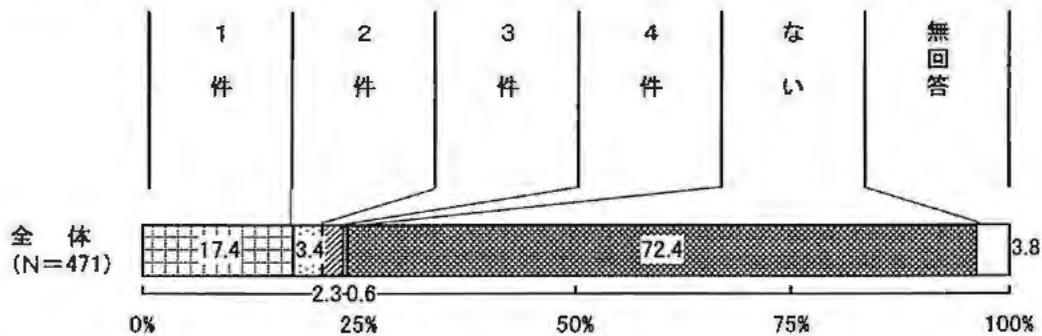


処遇困難な事例の具体的な内容では、「利用者がサービスそのものを拒否する」が 48.6%と最も多く、次いで「家族の協力が得られない」が 44.3%となっている。

## (2) 高齢者虐待の事例

問 高齢者虐待と思われる事例はありますか。あればその件数も記入してください。(〇は1つ)

## 【高齢者虐待事例の状況】



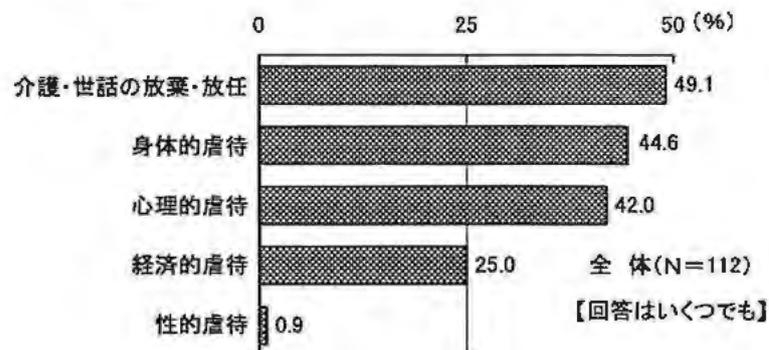
高齢者虐待と思われる事例が「ある」と回答した割合は 23.7% で、そのうち 17.4% が「1 件」と回答している。

## (3) 高齢者虐待の内容

## 【「ある」と答えられた方にうかがいます】

問 その事例はどのような事例ですか。該当するものを選んで、その件数を記入してください。(〇はいくつでも)

## 【高齢者虐待事例の内容】



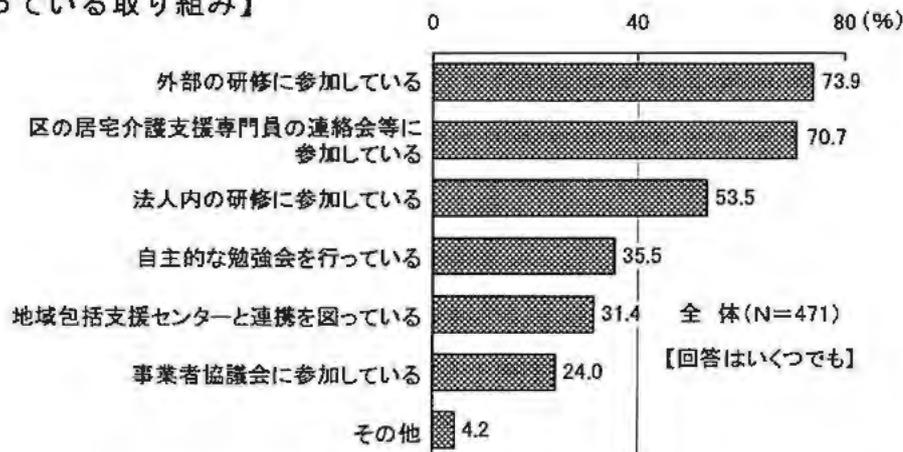
高齢者虐待と思われる事例の内容は、「介護・世話の放棄・放任」が 49.1%、「身体的虐待」が 44.6%、「心理的虐待」が 42.0% などとなっている。

## 4. 資質向上の取り組みについて

### (1) 行っている取り組み

問 自分のケアマネジャー業務のレベルアップのために、どのような取り組みを行っていますか。(〇はいくつでも)

【行っている取り組み】

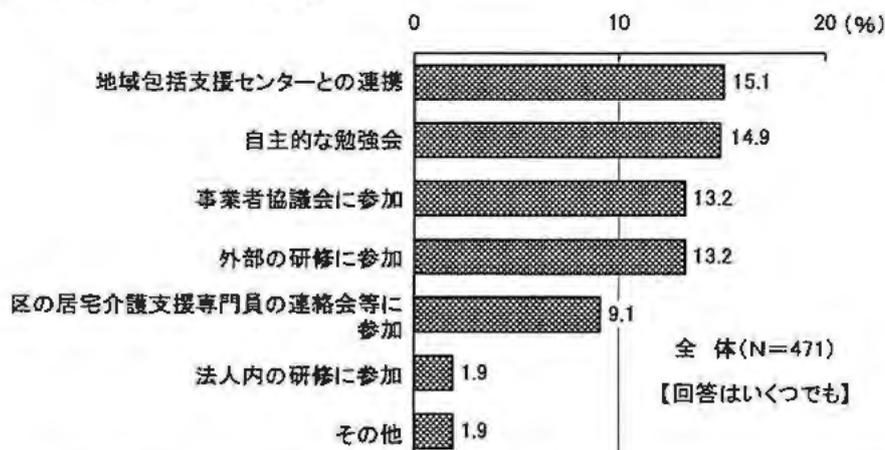


ケアマネジャー業務のレベルアップのために行っている取り組みでは、「外部の研修に参加している」が 73.9%、「区の居宅介護支援専門員の連絡会等に参加している」が 70.7%と 7 割を超えている。

### (2) 今後行ってみたい取り組み

問 前問の取り組みのうち、現在行っていないが今後行ってみたいと思っている取り組みはありますか。(〇はいくつでも)

【今後行ってみたい取り組み】



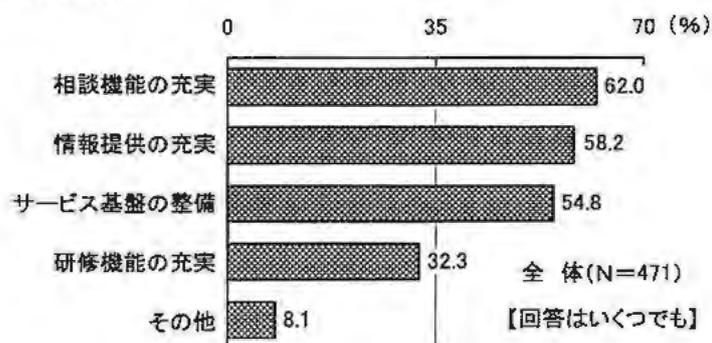
現在行っていないが今後行ってみたいと思っている取り組みでは、「地域包括支援センターとの連携」が 15.1%、「自主的な勉強会」が 14.9%などとなっている。

## 5. 行政の役割について

### (1) 今後、行政に期待する役割

問 今後、行政に期待する役割は何ですか。(〇はいくつでも)

#### 【今後、期待する役割】



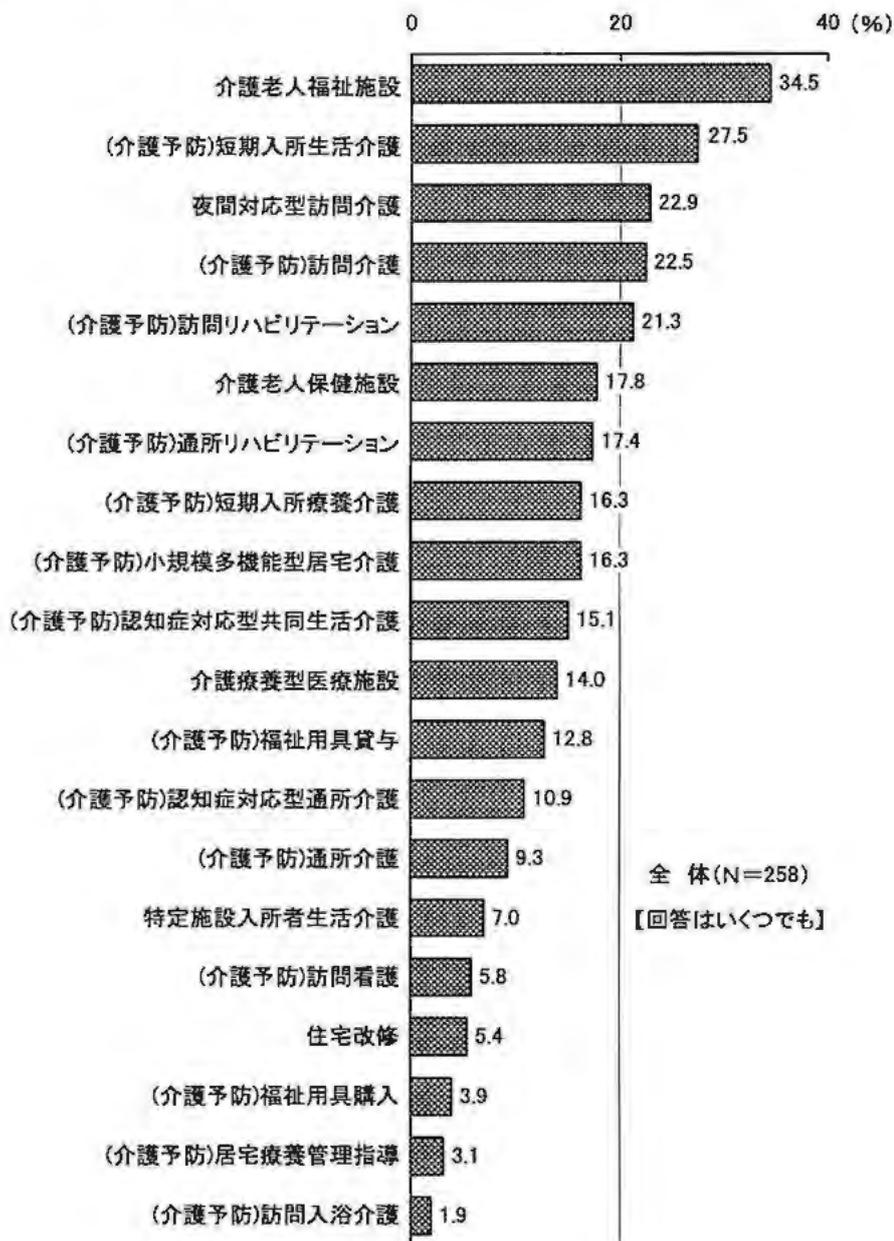
行政に期待する役割は「相談機能の充実」(62.0%)と「情報提供の充実」(58.2%)、「サービス基盤の整備」(54.8%)が5割を超えて高くなっている。

(2) 需要に対して不足しているサービス基盤

【「サービス基盤の整備」と答えられた方にうかがいます】

問 特にどのサービス基盤を整備する必要がある（需要に対して不足している）  
 と思いますか。（〇はいくつでも）

【不足しているサービス基盤】



行政に期待する役割で「サービス基盤の整備」と回答した人に、特にどのサービスが需要に対して不足しているかたずねたところ、「介護老人福祉施設」が 34.5%で最も高く、次いで「(介護予防)短期入所生活介護」(27.5%)、「夜間対応型訪問介護」(22.9%)、「(介護予防)訪問介護」(22.5%)、「(介護予防)訪問リハビリテーション」(21.3%)などがあげられている。

